ISSN 0915－1613

年　報　28

２０１１年度
（平成23年度）

２０１２．９

山梨県埋蔵文化財センター

年　報　28

２０１１年度
（平成23年度）

２０１２．９

山梨県埋蔵文化財センター

序

本書は、平成23年度（2011）に当センターで実施した発掘調査（13件）及び試掘調査や立会調査（57件）などの概要と、整備事業に伴う調査（２件）や県内山岳信仰遺跡分布調査、遺跡発表会等の普及事業内容を報告するものです。

記録保存のための発掘調査は次のものがあります。県庁舎耐震化等整備事業に伴う発掘調査では、昨年度の調査で確認された甲府城楽屋曲輪南面の内堀石垣がさらに西側に続いたところで築城期の石垣、大手の太鼓橋があった石垣に繋がる江戸時代初期の石垣、中期の暗渠跡などを新たに調査しました。

甲府城周辺一帯に広がる甲府城下町遺跡内では、２カ所で調査を行いました。武家屋敷地にあたる甲府法務総合庁舎建設工事地点では、池状の遺構から江戸幕末頃の陶磁器片とともに漆塗りの椀や曲げ物、下駄・建築部材などの木製品をはじめ多数の遺物が出土しました。また、町屋にあたる都市計画道路拡幅工事地点では、古墳時代１面、近世４面、近代１面の文化層が確認され、江戸～明治期では礎石や鍛冶遺構に伴う石臼などが発見され、陶磁器類、銭貨などが出土しました。

山梨市では、西関東連絡道路建設に伴い、上コブケ遺跡、廻り田遺跡、膳棚遺跡で合計24,000㎡余りを７区域に分けて調査を行いました。上コブケ遺跡では、Ａ～Ｃ区において縄文時代中期の竪穴住居跡１軒、埋甕12基、土坑23基や、平安時代の竪穴住居跡12軒、掘立柱建物跡14棟、土坑・ピット300基以上などが発見されました。中でも、Ｂ区の埋甕には縄文時代中期後半曽利Ⅰ式期の人面装飾付土器があり、注目されます。

廻り田遺跡Ｂ区では、古墳時代前期の竪穴住居跡１軒、自然流路を含む溝状遺構７条などが発見され、水辺の祭祀で使用されたと考えられる土器が出土しました。膳棚遺跡では、Ａ～Ｃ区合わせて竪穴状遺構１基、溝状遺構17条、100基余りの土坑などが確認され、縄文・古墳・平安時代の土器が出土しました。このうち、Ｂ区では多くの打製石斧が出土しており、縄文時代の生活の一端をうかがわせています。

４年目となった都留バイパス建設に伴う美通遺跡（都留市）の調査では、遺跡北東端のＤ区において縄文・弥生時代の文化層が確認され、縄文時代では前期後半諸磯ｃ式期の土器や石器を伴った幅約６m、直径25mほどの環状配石遺構や集石土坑、焼土などが発見され、遺物には玦状耳飾りもあります。また、弥生時代では土坑12基とピット群が検出され、弥生中期初頭の土器が出土した土坑墓とみられるものもあります。

同じ都留市では、県立産業技術短期大学校分校建設に伴い、三ノ傍遺跡において約3,800㎡の調査も行われました。過去の調査では皇朝十二銭の「和同開珎」や「富寿神宝」などが出土しており、この一帯が古代甲斐国の都留郡多良郷の中心的なムラがあったと推定されています。調査の結果、８世紀前半～９世紀前半の竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡４棟、土坑、溝状遺構などが発見され、多くの遺物が出土しました。

吉田河口湖バイパス建設に伴う滝沢遺跡（富士河口湖町）では第３次の調査が行われ、第２次調査から続く奈良・平安時代（８世紀後半～10世紀後半）の竪穴住居跡４軒などが発見されました。

整備事業に伴う調査としては、県史指定勝甲府城跡において石垣修繕工事を継続的に実施しており、今年度は本丸周辺の石垣補修工事を実施しました。一方、２年目となる鉄門整備事業では、基礎部分の補強工事の後、柱・梁等の部材を組み木工事を経て、左官工事、屋根工事が進み、平成25年１月の公開を目指して最終段階を迎えております。

最終年度を迎えた「山梨県内山岳信仰遺跡分布調査事業」は、北口本宮冨士浅間神社社有地（富士吉田市）、河口浅間神社社有地（富士河口湖町）及び神社北に接する宮ノ上遺跡、行者平遺跡（笛吹市御坂町）、行者屋敷遺跡（鳴沢村）の試掘調査を行い、３カ年の成果をまとめた調査報告書を刊行しました。

24回目となる市町村埋蔵文化財専門職員研修会は、平成24年２月17日に建設業労働災害防止協会山梨支部労働安全コンサルタント　砂田貢氏から、「発掘調査現場における安全管理」について講演いただきました。

資料普及事業の内容や対象者は次の人数になります。出前支援事業376人、発掘体験セミナー等284人、講座講演会2817人、資料貸出2250人、職場体験43人でありました。

当センターは、今年で開所30年を迎えました。今まで以上に埋蔵文化財の調査研究、保存と保護に努力し、その貴重な資料を幅広く活用するとともに、学校教育や社会教育への普及活動に励んで生きたいと考えていますので、今後ともなお一層ご理解とご支援をお願い申し上げます。

2012年９月

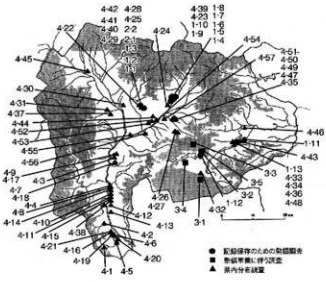
山梨県埋蔵文化財センター
所長　八巻與志夫

目　次

序
凡例・職員組織
第Ⅰ章　2011年度の事業概要
1　発掘調査等 …… 1
2　整理作業 …… 1
3　資料普及事業 …… 2
4　収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧 …… 4
5　第24回市町村埋蔵文化財専門職員研修会 …… 8
6　遺跡調査発表会 …… 8
7　埋蔵文化財シンポジウム …… 9
8　山梨の遺跡展2012 …… 10
9　埋文やまなし …… 11
10　県指定史跡甲府城跡活用事業 …… 11
11　遺跡データ管理（ＧＩＳ） …… 13
12　遺物データベース …… 14
13　埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館 …… 15
14　寄贈・購入図書 …… 15

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要
1　記録保存のための発掘調査
1－1　甲府城跡 …… 16
1－2　甲府城下町遺跡（甲府地方検察庁地点） …… 18
1－3　甲府城下町遺跡（古府中環状浅原橋線） …… 20
1－4　上コブケ遺跡Ａ区 …… 22
1－5　上コブケ遺跡Ｂ区 …… 24
1－6　上コブケ遺跡Ｃ区 …… 26
1－7　廻り田遺跡Ｂ区 …… 28
1－8　膳棚遺跡Ａ区 …… 30
1－9　膳棚遺跡Ｂ区 …… 32
1－10　膳棚遺跡Ｃ区 …… 34
1－11　美通遺跡Ｄ区 …… 36
1－12　滝沢遺跡（第３次） …… 38
1－13　三ノ畑遺跡 …… 40
2　整備事業に伴う調査
2－1　県指定史跡甲府城跡（石垣整備事業） …… 42
2－2　県指定史跡甲府城跡（鉄門整備事業） …… 44
3　分布調査
山梨県内山岳信仰遺跡分布調査 …… 46
4　県内分布調査 …… 50

第Ⅲ章　県内の概説
1　届出件数と内容 …… 82
2　発掘調査 …… 82
3　県指定文化財（考古資料）及び県指定史跡 …… 82
4　発掘調査の成果と保存整備事業 …… 82
5　発掘調査体制 …… 83
発掘届出件数・発掘調査件数の推移・2011年度県内発掘調査一覧表 …… 84～91



2011年度　発掘調査等遺跡位置図

凡　例

1　本書は、2011年度の山梨県埋蔵文化財センターの事業をまとめたものである。

2　本書の編集は、今福利恵・小林健二・永田亮一が行った。

3　2011年度の収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧、発掘調査一覧表は2012年３月末日現在で集計したものである。

4　第２章各遺跡の発掘調査等概要における発掘調査面積の（　）内は、調査対象面積である。

5　左記の地図は、2011年度発掘調査遺跡の位置図である。なお、地図中の番号は、1頁の発掘調査の表に対応している。

2011（平成23）年度　職員組織

所長	平賀孝雄
次長（兼）	八巻與志夫
総務課長（兼）	八巻與志夫
調査研究課長	高野玄明
資料普及課長	山本茂樹

総務課	
主査	小林洋一
主事	永田英恵
主事	下野由香

調査研究課　調査第一担当	
副主幹・文化財主事	今福利恵
副主幹・文化財主事	土橋寛仁
主査・文化財主事	宮里学
非常勤嘱託	岩下友美

資料普及課　資料第一担当	
主査・文化財主事	小林健二
副主査・文化財主事	依田幸浩
主任・文化財主事	永田亮一
主任（事）（兼）	中山尚行
文化財主事	青木真一

調査研究課　調査第二担当	
副主幹・文化財主事	吉岡弘樹
主査・文化財主事	三田村美彦
非常勤嘱託	小澤美和子
非常勤嘱託	塩谷風季
臨時職員	田中憲一

資料普及課　資料第二担当	
主査・文化財主事	保坂和博
副主査・文化財主事	野代恵子
非常勤嘱託	古郡雅子

調査研究課　調査第三担当	
主査・文化財主事	野代幸和
主査・文化財主事	笠原みゆき
非常勤嘱託	長田隆志
非常勤嘱託	加々美鮎実

第Ⅰ章　2011年度の事業概要

1　発掘調査等

2011年度の発掘調査等は、以下のとおりである。各遺跡の概要は、第Ⅱ章で述べることとする。

1）記録保存のための発掘調査

番号	調査名他
1－1	甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業）
1－2	甲府城下町遺跡（甲府法務総合庁舎新営工事事業）
1－3	甲府城下町遺跡（都市計画道路街路事業）
1－4	上コブケ遺跡A区（西関東連絡道路建設事業）
1－5	上コブケ遺跡B区（西関東連絡道路建設事業）
1－6	上コブケ遺跡C区（西関東連絡道路建設事業）
1－7	廻り田遺跡B区（西関東連絡道路建設事業）
1－8	膳棚遺跡A区（西関東連絡道路建設事業）
1－9	膳棚遺跡B区（西関東連絡道路建設事業）
1－10	膳棚遺跡C区（西関東連絡道路建設事業）
1－11	美通遺跡D区（一般国道139号都留バイパス建設事業）
1－12	滝沢遺跡（一般国道137号吉田河口湖バイパス建設事業）
1－13	三ノ側遺跡（県立産業技術短期大学校分校整備事業）

2）整備事業に伴う調査

番号	調査名他
2－1	県指定史跡甲府城跡（石垣整備事業）
2－2	県指定史跡甲府城跡（鉄門復元整備事業）

3）分布調査

番号	調査名他
3－1～5	山梨県内山岳信仰遺跡分布調査

4）県内分布調査

番号	事業名他（試掘調査）
4－1	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）
4－2	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町柳島地内）
4－3	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査《一の坪遺跡》
4－4	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査《常葉川堤防遺跡》
4－5	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査《竹ノ沢遺跡》
4－6	中部横断自動車道建設事業（富沢ICアクセス道路）に伴う試掘調査《前田遺跡》
4－7	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（市川三郷町岩間地内）
4－8	中部横断自動車道建設事業（身延ICアクセス道路）に伴う試掘調査（身延町上八木沢地内）
4－9	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（市川三郷町黒沢地内）
4－10	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町帯金地内）
4－11	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町帯金地内）
4－12	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町和田地内）
4－13	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町大島地内）
4－14	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町上八木沢地内）
4－15	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（身延町帯金地内）
4－16	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）
4－17	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（市川三郷町黒沢地内）
4－18	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（市川三郷町岩間地内）
4－19	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）
4－20	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）
4－21	中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査（南部町福士地内）
4－22	国道52号改良事業に伴う試掘調査（甲府市上石田一丁目地内）
4－23	西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業に伴う試掘調査
4－24	西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業に伴う試掘調査
4－25	古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業に伴う試掘調査《甲府城下町遺跡》
4－26	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査《柚木遺跡》
4－27	山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査（笛吹市八代町竹居地内）
4－28	法務省甲府法務総合庁舎建設事業に伴う試掘調査《甲府城下町遺跡》
4－29	法務省甲府法務総合庁舎建設事業に伴う試掘調査《甲府城下町遺跡》

番号	事業名他（立会調査）
4－30	環境創造課の県政課題に伴う試掘調査《東峰A遺跡、東峰B遺跡》
4－31	環境創造課の県政課題に伴う試掘調査《御勅使川第二将棋頭遺跡》
4－32	元吉田保健所解体事業に伴う試掘調査《吉田宿》
4－33	職業能力開発施設建設事業に伴う試掘調査（都留市上谷五丁目地内）
4－34	県立産業技術短期大学分校整備事業に伴う試掘調査《三ノ側遺跡》
4－35	県立かえで支援学校（エレベーター棟増築等）建設事業に伴う試掘調査《狐原遺跡》
4－36	東部地域総合制高校建設事業に伴う試掘調査（都留市上谷五丁目地内）
4－37	県立わかば支援学校改築事業に伴う試掘調査（南アルプス市有野地内）
4－38	大野堤防改修事業に伴う試掘調査《堤防遺跡推定地》
4－39	西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業に伴う立会調査（山梨市北地内）
4－40	法務省甲府法務総合庁舎建設事業に伴う立会調査《甲府城下町遺跡》
4－41	県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査《甲府城跡》
4－42	県議会議事堂改修機械整備（給水管敷設）事業に伴う立会調査《甲府城跡》
4－43	県営住宅谷村団地改築二期解体事業に伴う立会調査《城ノ腰2遺跡》
4－44	県営住宅和戸団地下水道接続事業に伴う立会調査《大坪遺跡》
4－45	県立北杜高等学校配水管敷設事業に伴う立会調査《原町農業高校前遺跡》
4－46	県立都留高等学校修繕事業に伴う立会調査《大月遺跡》
4－47	県立園芸高等学校整備事業に伴う立会調査《狐原遺跡》
4－48	県立谷村工業高等学校修繕事業に伴う立会調査《三ノ側遺跡》
4－49	県立かえで支援学校（[illegible]内）建設事業に伴う立会調査《狐原遺跡》
4－50	県立かえで支援学校建設事業に伴う立会調査《狐原遺跡》
4－51	県立かえで支援学校建設事業に伴う立会調査《狐原遺跡》
4－52	平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査《堤防遺跡推定地》
4－53	平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査《堤防遺跡推定地》
4－54	平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査《堤防遺跡推定地》
4－55	鎌田川河川改修事業に伴う立会調査《堤防遺跡推定地》
4－56	曽根丘陵公園内市道水道管漏水修理事業に伴う立会調査《岩清水遺跡》
4－57	森林公園金川の森再整備事業に伴う立会調査《宮の上遺跡》

2　整理作業

2011年度の整理作業は、以下のとおりである。

1）基礎的整理作業

番号	遺跡名
1	甲府城跡下町（甲府地方検察庁）
2	県指定史跡甲府城跡（鉄門復元整備事業）
3	上コブケ遺跡A区
4	上コブケ遺跡B区
5	上コブケ遺跡C区
6	廻り田遺跡B区
7	膳棚遺跡A区
8	膳棚遺跡B区
9	膳棚遺跡C区
10	滝沢遺跡（第3次）
11	三ノ側遺跡

2）本格的整理作業

番号	遺跡名
1	美通遺跡D区
2	町屋口遺跡
3	甲府城跡（県庁舎耐震化等整備事業）
4	県指定史跡甲府城跡（石垣修繕工事）
5	山梨県山岳信仰遺跡群
6	甲府城下町遺跡（都市計画道路街路事業）
7	滝沢遺跡（第2次）
8	山梨県内分布調査報告書（平成23年1月～12月）

3）報告書刊行一覧

番号	報告書名
第281集	町屋口遺跡
第282集	滝沢遺跡（第2次）
第283集	美通遺跡D区
第284集	甲府城跡－楽屋曲輪地点－
第285集	山梨県山岳信仰遺跡群詳細分布調査
第286集	県指定史跡甲府城跡
第287集	山梨県内分布調査報告書（平成23年1月～12月）

3　資料普及事業

2011（平成23）年度に実施した事業は、県内の小・中学校や特別支援学校へ出向き土器作りなどについて支援を行う「出前支援事業」、発掘調査現場で実際に発掘を体験する「発掘体験セミナー」、中学生・高校生を発掘調査や整理作業の現場に受け入れる「職場体験」「インターンシップ」などを行った。この他、講座・講演会等への講師派遣、山梨県総合教育センターとの共催による、学校の教職員を対象に埋蔵文化財を利用した学習を授業に積極的に取り入れる指導者の育成を目的とした「山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修会」、一般の方を対象にした遺跡現地説明会、山梨県考古学協会との共催による遺跡調査発表会などを実施した。

また、11月20日（県民の日）には、甲府城および山梨の歴史と伝統を体感してもらう甲府城鉄門整備事業との合同企画「ひらけ！玉手箱」を昨年度に引き続き開催した。今回は、復元中の甲府城鉄門に使用する瓦にメッセージを書くコーナーなど、昨年度にない企画も登場し注目された。これらの事業以外にも、遺物貸出キット・火おこし道具・映像ライブラリーなど考古資料の貸出も行った。

文化庁の埋蔵文化財保存活用整備事業による国庫補助金を受けて活動した「埋蔵文化財学習活用事業」では、学校教育などで広く活用できるように過去に出土した考古資料の再整理を行ってきたが、今年度はナイフ形石器や磨製石斧などの復元、および活用パンフレットの作成を行った。

出前支援事業（土器成形）

出前支援事業（土器焼成）

出前支援事業（火おこし体験）

発掘体験セミナー

山梨の考古学と埋蔵文化活用研修会

2011年度　資料館及事業集計表

月	学校への出前支援事業	人数	月	講座・講演	人数	月	遺物など貸出・利用	人数	月	発掘体験セミナー・見学会	人数	月	職場体験受入	人数
5	原小校「土器作り」	12	5	ことぶき勤学院甲府学園「古代の甲斐」	43	4	田富南小　まいぶん映像ライブラリー	49	7	ことぶき勤学院甲府城跡見学	30	5	久那土中校外学習	2
6	あけぼの支援学校「土器・土鈴作り」	8	6	上野原高校「産業社会と人間」講座	136	5	あけぼの支援学校　まいぶん映像ライブラリー	8		第1回　上コブク遺跡	36		都留第二中体験学習	20
	大河内小学校「土器作り」	20		ことぶき勤学院南都留学園「古代の甲斐」	34		原小　まいぶん映像ライブラリー	12		第2回　上コブク遺跡	33	7	インターシップ白根高校発掘体験	3
	田富南小学校「土器作り」	49		ことぶき勤学院南巨摩学園「古代の甲斐」	31		山川出版社　甲府城跡現況写真・空撮写真	5	8	美通遺跡現地見学・発掘体験	7	8	職場体験甲陵中発掘体験	2
	原小学校「土器焼きと火おこし」	12		ことぶき勤学院西八代学園「古代の甲斐」	31		三富小　まいぶん映像ライブラリー	19		第3回　上コブク遺跡	30		職場体験富竹中発掘体験	1
	三富小学校「土器作り」	19	8	富士吉田市立教育研修所臨地研修会	24		大河内小　まいぶん映像ライブラリー	20		第4回　上コブク遺跡	35		職場体験甲府東中発掘体験	2
	武川中学校「縄文土器・石器の話、火おこし」	27		山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修	2	7	県立ろう学校　縄文土器・鏡（復元品）	3		甲府城跡跡門見学会	60		職場体験甲府西中発掘体験	1
7	田富南小学校「土器焼きと火おこし」	49		山梨の考古学と埋蔵文化財活用研修	2	8	社会福祉法人ひかりの里　火おこし道具	18	11	甲州市勝沼３区公民館甲府城跡見学	50		職場体験甲府城南中発掘体験	3
	大河内小学校「土器焼きと火おこし」	20		峡南地区美術科教員研修（勾玉作り）	15		社会福祉法人ひかりの里　まいぶん映像ライブラリー	18		都留第二中ニノ堀遺跡見学	3		職場体験甲府南中発掘体験	1
	あけぼの支援学校「土器・土鈴焼き」	8		ことぶき勤学院北巨摩学園「古代の甲斐」	35		都留第二中　貸出キット（縄文土器・弥生土器・石器類）	302					職場体験甲府北東中発掘体験	1
	あけぼの支援学校「火おこし」	5	9	ことぶき勤学院中巨摩学園「古代の甲斐」	48	9	富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議　吉田口登山道発掘写真	1				10	職場体験塚越中整理作業体験	5
	三富小学校「土器焼きと火おこし」	19		富士吉田歴史民俗博物館講座「外川家で富士山学！」	40	10	田富中　貸出キット（縄文土器・弥生土器・石器類）	181				11	職場体験御坂中整理作業体験	1
10	石田小学校「勾玉作り」	113	10	2010年度下半期・2011年度上半期遺跡調査発表会	100		甲府南中　土偶・土師器・復元鏡	33				2	インターンシップ奈良大整理作業体験	1
2	竜王北小学校「火おこし」	15	11	市川アカデミー気軽に行講座	30	1	田富南小　火おこし道具	15						
				ひらけ！玉手箱	1600	3	吉田高校　貸出キット（縄文土器・石器類）	50						
				落葉で、焼きいも！	130	6	豊富郷土資料館「山梨の遺跡展２０１１」巡回展	364						
			12	ことぶき勤学院北都留学園「古代の甲斐」	28	7	韮崎市民俗資料館「山梨の遺跡展２０１１」巡回展	170						
			1	ことぶき勤学院東八代学園「古代の甲斐」	37	9	大月市郷土資料館「山梨の遺跡展２０１１」巡回展	658						
			3	公開発表会「富士山の価値と山岳信仰遺跡」	200	11	山梨市役所コラボサロン「山梨の遺跡展２０１１」巡回展	221						
				甲府城跡関連講演会	150	12	北杜市考古資料館「山梨の遺跡展２０１１」巡回展	82						
				2011年度下半期遺跡調査発表会	100	2	甲州市民文化会館「山梨の遺跡展２０１１」巡回展	21						
	14件	376		21件	2817		21件	2250		9件	284		13件	43

人数総計　5770人

件数総計　114件

4　収蔵資料の貸出し及び掲載許可一覧

収蔵資料貸出し許可一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	6.28～9.20	県立博物館	企画展「歴史の中の昆虫たち」に展示のため	久保田・道々 寺木遺跡	金銅観海老錠1点
2	9.27～12.1	埼玉県立さきたま史跡の博物館	企画展「スローフードの考古学」に展示のため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
				花鳥山遺跡	縄文土器2点
				甲ッ原遺跡	縄文土器2点
3	8.20～12.20	県立博物館	企画展「柳沢吉保と甲府城」展に展示のため	甲府城跡	輪宝6点
					鯱瓦1点
					鯱丸片7点
					鬼瓦1点
					獅子頭瓦1点
					五三桐鬼瓦2点
					違鷹羽鬼瓦2点
					花菱文鬼瓦1点
					違鷹羽丸瓦1点
					鬼瓦2点
					巴文鳥衾6点
					滴水瓦4点
					軒丸瓦1点
					釘隠2点
					狭間1式
4	9.8～11.20	栃木県立博物館	企画展「土偶の世界－縄文人のこころ－」に展示のため	大木戸遺跡	土偶6点
				獅子ノ前遺跡	土偶4点
				柱野遺跡	土偶1点
				海道前C遺跡	土偶1点
				上の平遺跡	土偶1点
				原町農業高校 前遺跡	土偶3点
				酒呑場遺跡	土偶4点
				一の沢遺跡	土偶3点
				松島間地遺跡	土偶1点
				会の尾遺跡	土偶1点
5	10.1～11.30	八戸市埋蔵文化財センター是川館	開館特別展「縄文垂空展」に展示のため	一の沢遺跡	縄文土器4点
				大神遺跡	縄文土器1点
					ヒスイ製大珠1点
6	10.13～ 12.20	釈迦堂遺跡博物館	特別展「謎を秘めた器－有孔鍔付土器の世界－」に展示のため	一の沢遺跡	縄文土器2点
				原町農業高校 前遺跡	縄文土器3点
				柱野遺跡	縄文土器1点
				北堀遺跡	縄文土器1点
				花鳥山遺跡	縄文土器5点
				安道寺遺跡	縄文土器1点
				大木戸遺跡	縄文土器2点
				酒呑場遺跡	縄文土器6点
				柳坪遺跡	縄文土器1点
				大神遺跡	縄文土器2点
				会の尾遺跡	縄文土器1点
7	10.5～ 平成24.2.17	財団法人瀬戸市文化振興財団	企画展「瀬戸・美濃窯の近代－生産と流通－」に展示のため	熊沢河岸跡	陶磁器101点
8	12.9～ 平成24.4.10	横浜市歴史博物館	企画展「火の神・生命の神～古代のカマド信仰をさぐる～」に展示のため	北堀遺跡	土器11点
				滝沢遺跡	土器4点
9	12.21～ 平成24.3.20	富士見町立水子貝塚資料館	企画展「縄文土器と動物装飾2－蛇－」に展示のため	酒呑場遺跡	縄文土器1点
				海道前C遺跡	縄文土器2点
				美道遺跡	縄文土器1点
				甲ッ原遺跡	縄文土器1点

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
				安道寺遺跡	縄文土器1点
					人面装飾1点
				一の沢遺跡	縄文土器1点
				大木戸遺跡	縄文土器1点

古代衣装貸し出し一覧

番号	貸出期間	申請者	利用目的	申請物件名	
1	4.14～5.2	忍野小学校	社会科学習のため	貴頭衣	2着
				胡服	2着
				巫女	2着
				官吏	2着
				女官	2着
2	5.10～6.10	長野県赤穂高等学校	社会科学習のため	貴頭衣	1着
				胡服	1着
				采女	1着
				官吏	1着
				女官	1着
3	5.31～6.4	塩山北小学校	社会科学習のため	貴頭衣	2着
				胡服	2着
				巫女	2着
				官吏	2着
				女官	2着
4	6.28～7.8	山梨英和中学校・高等学校	学園祭における歴史研究同好会の展示に使用のため	貴頭衣	1着
				胡服	1着
				采女	1着
				官吏	1着
				女官	1着
5	10.28～11.5	富士見会	地区文化発表会に使用のため	貴頭衣	2着
				胡服	2着
				巫女	2着
				官吏	2着
				女官	2着
6	11.7～11.24	群馬県伊勢崎市教育委員会	古代衣装着付け体験で使用のため	貴頭衣	2着
				胡服	2着
				采女	2着
				官吏	2着
				女官	2着
7	11.24～12.4	東京都府中市教育委員会	古代衣装体験で使用のため	采女	2着
				女官	2着

写真資料貸出し並びに掲載許可一覧

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
1	5月3日	南アルプス市教育委員会	埋蔵文化財周知ガイドブック「遺跡で散歩、シリーズ第3稿に掲載のため	百々遺跡	馬骨写真2点
				百々遺跡	調査風景2点
					おもり1点
					長頸壺1点
					八稜鏡1点
				十五所遺跡	全景写真1点
					方形周溝墓全景1点
					帯形土器出土状況1点
					磨形土器集合1点
				村前東A遺跡	遺跡全景1点
					土器出土写真1点
					土器集合写真1点
				大師東丹保遺跡	古墳検出状況1点
					銅代出土状況1点
					板待木簡出土状況1点
					人形出土状況1点
					漆塗り椀出土状況1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
					下鼠集合1点
					陶磁器集合1点
				向河原遺跡	水田全景写真1点
				新居遺下遺跡	土器集合1点
				石橋北原敷	土器集合1点
				長田口遺跡	鏃片1点
				池田遺跡	磨石 1点
				二本柳遺跡	木棺出土状況1点
					木棺墨書写真1点
					完墳全景1点
					かわら1片1点
				立石下遺跡	全景一割1点
				宮沢中村遺跡	礎石出土状況1点
					陶磁器集合1点
2	5月18日	小山市教育委員会	書籍「小山評定武将列伝」に掲載のため	甲府城跡	浅野家家紋入鬼瓦1点
					鍵足1点
3	5月24日	株式会社アム・プロモーション	カレンダー「縄文土器」に掲載のため	安通寺遺跡	出土状況1点
					展開写真1点
					縄文土器1点
4	6月7日	県立博物館	企画展「歴史の中の昆虫たち」パネル作成のため	久保田・道々芽木遺跡	金銅製海老錠2点
5	6月8日	十日町市教育委員会	夏季企画展「縄文のKAZARI-組を飾る縄文人」展示パネル・リーフレットに掲載のため	第27回特別展示図録	イラスト1点
6	6月14日	株式会社ロム・インターナショナル	『一冊で学び直し！古代史』掲載のため	天神遺跡	遺跡近景1点
7	6月22日	（株）上野原ブロードバンドコミュニケーションズ	USBスペシャル上野原の遺跡」で使用のため	長峰砦遺跡	遠景全景1点
					調査風景20点
					鉄滓等1点
				油大浜遺跡	遺跡全景1点
					寺都窯1点
8	7月5日	NHKエデュケーショナル	NHK BSプレミアム「日本美術の1万年 土偶特集」で使用のため	酒呑場遺跡	土偶1点
				原町農業高校前遺跡	土偶 1 点
				殿林遺跡	縄文土器1点
				中丸遺跡	土偶（複製品）1点
				鋳物師屋遺跡	土偶（複製品）1点
				金生遺跡	復元展示コーナー1点
9	7月7日	県立博物館	夏季企画展「歴史の中の昆虫たち」パネル・リーフレットに掲載のため	大師東丹保遺跡	昆虫化石1点
10	7月22日	株式会社 山川出版社	中世都市研究会編の書籍へ掲載のため	甲府城跡	石垣写真1点
11	8月2日	MOKU出版株式会社	月刊誌『MOKU』に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器1点
12	8月17日	G- graphics	作品制作のため	岡遺跡	容器形土偶1点
				大木戸遺跡	土偶1点
13	9月27日	財団法人瀬戸市文化振興財団	企画展「瀬戸・美濃窯の近代 生産と流通－」展示のため	観沢河岸跡	遺構写真15点
14	9月30日	八戸市教育委員会	特別展「縄文至宝展」展示・関連掲載のため	一の沢遺跡	遺跡全景2点
					遺物出土状況7点
					縄文土器4点
				天神遺跡	遺跡全景2点
					遺物出土状況1点
					ヒスイ製大珠1点
					縄文土器1点
15	10月5日	学術文化財課	「山梨文化財ガイド」掲載のため	殿林遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器集合1点
				銚子塚古墳	埴輪集合1点
				身洗沢遺跡	土器集合1点
				立石遺跡	石器集合1点
				丘の公園第二遺跡	石器集合1点
				丘の公園十四番ホール遺跡	石器集合1点
				稲荷塚古墳	須恵器集合1点
					鉄剣1点
					象嵌1点
				岡遺跡	容器形土偶1点

番号	申請日	申請者	利用目的	申請物件名	
				平林2号墳	馬具2点
					金環集合1点
				大師東丹保遺跡	銅代1点
				甲府城跡	鯱瓦1点
					飾瓦1点
16	10月13日	（株）アルカ	「東京考古」第29号に掲載のため	酒呑場遺跡	石器2点
				原町農業高校前遺跡	石器2点
17	10月13日	個人	「里程の歴史と現代の教育」に掲載のため	原町農業高校前遺跡	住居跡全景1点
				宮の前遺跡	埋甕1点
				上の平遺跡	方形周溝墓全景1点
				第27回特別展示図録	イラスト1点
18	10月27日	企業局電気課	本倉山太陽光発電所PR施設でパネル展示のため	上野原遺跡	縄文土器1点
				一の沢遺跡	縄文土器集合1点
				墓畑池遺跡	作業風景2点
				米倉山B遺跡	石室1点
				銚子塚・丸山塚古墳	航空写真2点
				銚子塚古墳	航空写真1点
				考古博物館	外観4点
					展示風景2点
19	12月13日	株式会社フレンド・エル	高速道路情報誌『ハイウェイやまなし冬号』に掲載のため	一の沢遺跡	縄文土器集合1点
				銚子塚・丸山塚古墳	航空写真1点
20	12月14日	特定非営利活動法人ジョーモネスクジャパン	公式ホームページに掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点
21	12月27日	（有）大悠社	「東日本大震災からみる日本の防災」に掲載のため	上の平遺跡	土層断面写真1点
				大師東丹保遺跡	土層断面写真1点
				原町農業高校前遺跡	縄文土器2点
				甲ッ原遺跡	縄文土器1点
22	平24年1月17日	株式会社ＴＢＳビジョン	ＢＳ－ＴＢＳ「にっぽん歴史街道」放映のため	甲府城跡	瓷文軒丸瓦1点
23	平24年2月20日	ＫＨＫ甲府放送局	「ニュースまるごと山梨」で放映のため	甲府城跡	鯱瓦1点
					飾瓦1点
24	平24年2月29日	（株）雄山閣	「季刊考古学」119号に掲載のため	天神遺跡	原石写真1点
				花鳥山遺跡	石器1点
25	平24年2月29日	南アルプス市教育委員会	「文化財Mなび」に掲載のため	百々遺跡	馬骨写真2点
					土層写真1点
					遺跡全景1点
					おもり1点
					八稜鏡1点
					灰釉陶器碗1点
				十五所遺跡	全景写真1点
					方形周溝墓全景1点
					墓集合写真1点
				村前東A遺跡	遺跡全景1点
				大師東丹保遺跡	古墳検出状況2点
					土師集合1点
					陶磁器集合1点
				向河原遺跡	水田全景写真1点
				新居道下遺跡	土器集合2点
				石橋北屋敷	土器集合1点
				長田山遺跡	鏡片1点
				油田遺跡	勾玉2点
26	平24年3月15日	新人物往来社	新人物文庫『山梨県謎解き散歩』に掲載のため	上の平遺跡	方形周溝墓1点
27	平24年3月23日	笛吹市教育委員会	番了「もう一つの千年の都　縄文の千年」・スポットガイドパンフレット『一の沢遺跡』に掲載のため	一の沢遺跡	遺物出土状況2点
					縄文土器5点
					縄文土器集合1点
					縄文土器展開1点
28	平24年3月23日	長野市教育委員会	『史跡大室古墳群（1）エントランスゾーン地形確認調査・遺構確認調査・大室E号墳の調査』に掲載のため	国ヶ峯古墳遺群	鉄鏃2点
				きつね塚古墳	鉄鏃2点
29	平24年3月30日	特定非営利活動法人ジョーモネスクジャパン	特定非営利活動法人ジョーモネスクジャパン会報2012年4月28日号に掲載のため	安道寺遺跡	縄文土器1点

5　第24回市町村埋蔵文化財専門担当者研修会

開催日時　2012年２月17日（金）13:30～16:00
会　　場　風土記の丘研修センター　講堂
講　　師　建設業労働災害防止協会山梨県支部
　　労働安全コンサルタント　砂田貢

本研修は、県内の埋蔵文化財発掘担当者の資質向上と技術向上を目的として開催しているもので、今回で24回目となる。

研修のテーマは、「発掘調査現場における安全管理」で、安全施行サイクルや危険予知活動（ＫＹＫ）、掘削作業などについて先生の実体験した具体的な事例をあげて、わかりやすい講義が行われ、講義の終盤では、６名ほどのグループに分かれ、作業状況事例から危険予知を考える演習を行った。参加者は40名であり、発掘現場に潜む危険について再確認できる貴重な時間を持つことができた。

6　遺跡調査発表会

遺跡調査発表会は、山梨県考古学協会と共催で、上半期と下半期の年２回開催している。県内の最新発掘情報を広く県民に公表する場であり、パワーポイントなどを使用した分かりやすい発表となっている。今年度の上半期は、東日本大震災の影響で延期となった昨年度下半期分との合同で開催した。

○2010年度下半期・2011年度上半期合同遺跡調査発表会【参加者約100名】
開催日時：2011年10月22日（土）　午前10時～午後４時30分
開催場所：風土記の丘研修センター　講堂
発 表 1　北杜市・金生遺跡（発表者　北杜市教育委員会　佐野隆）
　縄文時代後期の敷石住居跡や土坑が検出され、指定範囲が南東に広がると推定された。
発 表 2　笛吹市・甲斐国分寺跡（発表者　笛吹市教育委員会　大木丈夫）
　平成20・21年度の発掘成果で、金堂跡の北・東・南側の石敷が確認された。
発 表 3　山梨市・三ヶ所遺跡（発表者　財団法人山梨文化財研究所　櫛原功一）
　「塩気」と線刻された土師器高台坏や「東大」と墨書された土師器坏などが出土した。
発 表 4　南アルプス市・百々・上八田遺跡（発表者　南アルプス市教育委員会　田中大輔）
　9世紀前半から10世紀後半の竪穴式住居跡16軒や土坑。溝跡などが発見された。
発 表 5　甲府市・甲府城跡－楽屋曲輪地点－（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　野代幸和）
　甲府城の大手門付近の遺構の一部や、一の堀に面した石垣などが確認された。
発 表 6　山梨市・上コブケ遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　塩谷風季）
　縄文時代中期後半の埋甕13基などが発見され、人面装飾付土器の出土が特出される。
発 表 7　都留市・美通遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　今福利恵）
　弥生時代の墓域と縄文時代の遺物包含層から滑石製玦状耳飾りなどが出土している。
発 表 8　笛吹市・長田1号墳（発表者　財団法人山梨文化財研究所　宮澤公雄）
　35基の長田古墳群の中でも、6世紀中頃と最も古い古墳であることがわかった。
発 表 9　甲府市・甲府城下町遺跡－甲府市役所地点－（発表者　甲府市教育委員会　伊藤正彦）
　1700年代から1900年代にかけての遺構・遺物が検出された。

○2011年度下半期遺跡調査発表会【参加者約100名】
開催日時：2012年３月17日（土）　午後１時～４時30分

開催場所：帝京大学山梨文化財研究所　大ホール

発 表 1　北杜市・諏訪原遺跡・屋代氏館跡（発表者　北杜市教育委員会　大綱信良）
縄文時代中期の環状集落と、江戸時代初頭の館跡が検出された。

発 表 2　富士吉田市・上中丸遺跡（発表者　財団法人山梨文化財研究所　窪月秀和）
縄文時代・弥生時代・平安時代の住居跡などや沢山の遺物が検出された。

発 表 3　都留市・三ノ側遺跡（発表者　山梨県埋蔵文化財センター　青木真一）
奈良時代から平安時代の竪穴式住居跡・掘立柱建物跡などが検出された。

発 表 4　南アルプス市・西街道小森遺跡（発表者　南アルプス市教育委員会　保阪太一）
旧流路内で遺跡が発見された貴重な例である。

発 表 5　韮崎市・穴山氏館跡（発表者　韮崎市教育委員会　関間俊明）
小さな看板によって、文化財の保護に結びついた貴重な報告である。

7　埋蔵文化財シンポジウム

発表の様子

会場の様子

埋蔵文化財シンポジウムは、発掘調査で得られた資料を調査研究し、その成果を広く県民に発表するものである。当センターが開催している「遺跡調査発表会」や「山梨の遺跡展」は、最新の発掘調査成果を速報的に発表するものであるのに対して、この埋蔵文化財シンポジウムは、テーマ設定をし、過去に得られた資料を研究した成果を深く掘下げて発信するという位置づけにある。

昨年度までの過去数年間では、(財)やまなし文化学習協会山梨県生涯学習推進センターの「やまなし再発見講座」と連携してシンポジウム形式で取り組んできたが、平成23年度は当センターで実施してきた「山梨県内山岳信仰遺跡詳細分布調査」が最終年度を迎えるにあたり、この事業と連携して富士山に関わる調査研究を進めてきた「山梨県富士山総合学術調査研究委員会」と合同で「富士山の価値と山岳信仰遺跡」と題して発表会形式で実施した。そのねらいとしては、富士山の世界文化遺産登録に向けての作業が進み、富士山に対する一般県民の関心が高まっている中で、県が実施してきた富士山に関する調査成果について多くの方々に知ってもらうことである。また調査に関わってきた学識経験者の調査研究を公開する場とし、多くの方々が最新の研究に触れ、富士山やその信仰について興味をもってもらうことを目的とした。内容については以下の通りである。なお参加者については、富士河口湖町・富士吉田市など郡内地域を中心に、県内外から約200人の参加があった。アンケートでは、今後も富士山に関する調査成果の公開の場を設けて欲しい、継続的に発表の場をつくって欲しいなど、特に地元を中

心に富士山に対する興味関心が高く、調査研究の公開の場を望む声が多かった。

日　時　平成24年３月４日（日）　午後１時～５時
会　場　富士吉田市民会館　小ホール
日　程　午後１時00分～　開会挨拶　教育長・学術文化財課長
午後１時15分～　「富士山総合学術調査研究の概要と成果」　新津健氏
午後１時25分～　「信仰から探る富士山の価値」　清雲俊元氏
午後２時35分～　「山梨県内山岳信仰遺跡分布調査の成果」　野代恵子
午後３時00分～　「山岳信仰遺跡調査の課題」　坂詰秀一氏
午後３時40分～　「貞観の噴火と富士山の祭り－火山活動と古代祭祀の系譜－」　笹生衛氏
午後４時40分～　質疑応答
午後４時55分～　閉会挨拶　埋蔵文化財センター所長

8　山梨の遺跡展2012

「山梨の遺跡展2012」は、平成23年度中に県内で実施された発掘調査並びに整理作業の成果を広く一般に公開し、埋蔵文化財に対する理解と郷土への歴史的認識を深めてもらう場として、平成24年3月10日～4月８日まで県立考古博物館の多目的室で開催した。今回で24回目の開催であり、例年通り観覧無料とした。

展示内容は、次のとおりである。

（１）当センターが行ったもの

山岳信仰遺跡分布調査では、3ヵ年に渡る調査の集大成として富士山信仰に関わる遺跡調査の成果を紹介した。西関東連絡自動車道路建設に関わる上コブケ遺跡Ａ～Ｃ区では、縄文時代中期の埋甕を中心に、勝棚遺跡は、縄文時代の打製石斧を展示し、廻り田遺跡は、古墳時代の高坏や甕の出土状況等をパネルで紹介した。都留バイパス建設に関わる美通遺跡Ｄ区は、縄文時代前期の土器や玦状耳飾りを、河口湖バイパスに関わる滝沢遺跡と県立産業短期大学都留キャンパス建設に関わる三ノ側遺跡は、奈良時代～平安時代の土師器や甕、須恵器などを展示した。甲府城下町遺跡は、城東通りと遊亀通りの交差点地点と甲府地方検察庁地点の2ヵ所の調査成果を紹介し、陶磁器類や木製品等を展示した。甲府城跡鉄門復元整備事業、石垣整備事業、県庁舎耐震化等整備事業は様子を写真パネルで紹介した。

また、県内分布調査や資料普及事業、埋蔵文化財学習活用事業についてもパネルやパンフレット、複製品等を展示した。

（２）県内の教育委員会が行ったもの

甲府市教育委員会の甲府城下町遺跡の甲府市役所地点は、アワビやサザエなどの貝類や脚付皿、焼

き塩壺等を、笛吹市教育委員会の寺本廃寺は、墨書土器や瓦を、甲州市教育委員会の赤尾堰口堤防跡は、堤防の土台木や桟木を、北杜市教育委員会の諏訪原遺跡は、縄文時代中期の土器、石棒や土偶を展示し、調査成果を紹介した。

9　広報誌『埋文やまなし』

◆39号

本号では、県指定史跡甲府城跡関連と発掘体験セミナーの開催状況について詳細に紹介した。巻頭と次頁で甲府城鉄門復元整備の進行状況と見学会、７月20日から８月31日まで甲府城稲荷櫓で開催した企画展「城下町歴史さんぽ」・「甲府城古写真展」の状況を、また次頁では、７月23日と８月18日に西関東連絡道路建設に伴って発掘調査された山梨市上コブケ遺跡で行ない134名の参加を得た発掘体験セミナーの盛況ぶりを報告した。

◆40号

本号は「富士山への信仰」と題し、平成21～23年度までの３ヵ年で実施してきた「山梨県内山岳信仰遺跡詳細分布調査」の調査成果を紹介する特集号とした。巻頭では、河口浅間神社に伝わる陶製こま犬、富士山五合目の経ヶ嶽で出土したと伝わる経筒・経巻について紹介した。その他、富士山二合目・五合目、冨士御室浅間神社里宮社有地での発掘調査の成果を紹介し、今回の調査で得られた成果を広く知ってもらう機会とした。

◆41号

本号は、平成23年度の発掘速報号として、西関東連絡道路関連の発掘成果を特集したものである。今回、発掘調査された上コブケ遺跡・廻り田遺跡・膳棚遺跡の3つの遺跡は、包蔵地の範囲を拡張したものや、新規に山梨市の遺跡分布図に登録されたものである。そのため、上コブケ遺跡Ｂ区で発見された人面装飾付土器やＡ・Ｃ区で確認された平安時代の集落跡など、特に注目される遺構・遺物を紹介した。

10　県指定史跡甲府城跡活用事業

県指定史跡甲府城跡（舞鶴城公園）は、平成2年から県土整備部主体で舞鶴城公園整備事業に着手し、文化財の保護と安全性の向上等を目的として城内の整備を実施してきた。平成16年に稲荷櫓が完成し、整備事業は完了したが、現在も県土整備部によって石垣補修工事等、史跡の維持管理が続けられている。昨年度から始まった鉄門復元整備事業では、地域活性化や甲府城跡の歴史的風格を高めることを目的として、年間を通し様々な活用事業を実施している。また、県土整備部、観光部とも連携し活用事業を行うことで、史跡の利活用のあり方を多角的に検討し、郷土学習の場として次世代に繋げるよう努めている。

・夏季臨時企画展「ひらけ！玉手箱～甲府城の今むかし！？絵図と写真でタイムスリップ」

７月20日から８月31日にかけ、夏休み期間を利用し、小中学生に鉄門復元整備事業および甲府城跡へ関心を持ってもらうことを目的として、稲荷櫓にて臨時の企画展を開催した。稲荷櫓１階では「甲府城下町歴史散歩」と題して、江戸時代前期、中期、後期と明治時代の絵図４枚を床面に拡大展示し、城下町の変遷を自分たちで発見できるような展示にした。平成22年度に東京都で発見された甲府城と城下町が描かれた最古の絵図を初公開するということもあり、期間中は4,967人の来場者があっ

た。また、稲荷櫓２階では「甲府城古写真展」と題し、三沢一也氏所蔵の絵葉書や古写真を展示した。明治時代から昭和初期にかけての甲府の町並みと現代の写真を並列して展示し、今と昔を比較できる展示とした。

企画展関連特別イベントとして、８月20日には鉄門の工事現場見学会を実施した。事業概要や復元根拠の解説だけでなく、職人による木材加工の実演も行った。また、石垣補修工事の解説も同時に行い、甲府城跡の史跡整備の現状を伝えた。

展示会の様子

見学会の様子

・県民の日イベント「ひらけ！玉手箱～山梨の伝統と歴史を体感しよう！」

11月20日の県民の日、甲府城跡を会場とし、埋蔵文化財センターと県立考古博物館主催のもと、縄文時代から江戸時代にかけての様々な伝統技術と歴史を体感してもらうことを目的とした普及活動を行った。会場には19箇所のコーナーが設けられ、訪れた人々が様々な体験をできるような内容になった。

甲府城関連コーナーとしては、復元整備中の鉄門の平瓦にメッセージを書く「鉄門瓦に名前を書こう！」のコーナーに多くの人が訪れた。400組限定とし、瓦の裏面に名前や未来へのメッセージを墨書した。瓦はイベント後に屋根に葺く予定である。同時に鉄門の見学会やパネル展示も行い、事業への理解促進に繋げた。

その他、こどもだけで小屋を組み立てる「こども上棟式」、史実に残る御金蔵破りの話を元にした「御金蔵破り体験」、武士の礼儀作法を学ぶ「武家礼法体験」、甲府城の歴史を交えつつ古典芸能を学べる「落語体験」等、昨年度はなかったコーナーも新たに設けた。昨年度好評だった石工体験、ほら貝体験、甲府城関連武将をさがせ、甲府城クイズラリー、甲府城紙芝居コーナーも引き続き行った。1,600人の来場者があり、中には昨年度参加した人も訪れ、甲府城跡に関心や親しみを持ってもらう機会となった。

鉄門の瓦に名前を書く様子

当日の様子

・県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業広報誌「よくわかる甲府城事典」

鉄門復元整備事業の普及活動の一環として、昨年に続き、年３回に渡って甲府城跡の広報誌を発行した。

◆巻ノ四

鉄門特集では木材加工や基礎研究のひとつとして絵図資料調査を紹介した。甲府城築城から現在までの歴史を学べる「甲府城人物列伝」では、甲府城主から将軍になった徳川綱豊を紹介。城内案内図では、城内の建造物を取り上げた。

◆巻ノ五

夏季臨時企画展の様子を紹介。鉄門特集は木材組立の流れを解説した。「甲府城人物列伝」では、城内大改修の折に南門を鉄門と改名した城主、柳沢吉保、吉里父子を紹介。城内案内図では、城内の石垣に残る矢穴を特集した。

◆巻ノ六

県民の日イベント「ひらけ！玉手箱」の様子を紹介。鉄門特集は、鉄門の復元鯱瓦作成の流れを解説した。「甲府城人物列伝」では甲府勤番を紹介し、城内案内図では城内のお花見スポットを特集した。

・文化財工事講習会

今年度は鉄門復元整備工事が大きく進展し、様々な職種が工事に携わった。特に木工事では、礎石や鉄門両袖の石垣に残る遺構を利用するため、慎重な作業が必要となる。そのため、文化財保護の観点から、県史跡の工事作業に対する注意事項等を施工者に事前講習し、甲府城跡の地下遺構や石垣の保護に努めた。

また、石垣補修工事着工前には、「舞鶴城公園稲荷櫓整備事業と県指定史跡甲府城跡発掘調査に関するマニュアル」に基づき、工事関係者に事前講習を行った。文化財保護の観点のみならず、都市公園の観点からも、作業中の行動や安全管理に至る諸注意の確認を行った。

・視察、見学会

鉄門復元整備事業に伴い、県内外から鉄門工事現場や甲府城跡の視察、見学会の依頼が寄せられたため、甲府城跡の利活用促進や事業への理解を促す機会として受け入れた。

視察は、7月に飯山市教育委員会、9月に仙台市教育委員会、浜松市教育委員会、10月に山梨県議会の視察を受け、いずれも甲府城跡の整備方針、事業の概要から復元根拠、工事の進捗状況について解説した。

見学会は、5月に都留第二中学校、7月にことぶき勧学院、12月に櫓門復元検討委員関係者の見学会を受け入れ、甲府城跡の歴史を中心に事業の主旨を解説し、史跡整備への理解促進に繋げた。また、10月の峡南高等技術専門学校の見学会では、在来工法による復元整備工事に着目し、生徒が技術に触れる目的での見学会となった。

11　遺跡データ管理（ＧＩＳ）

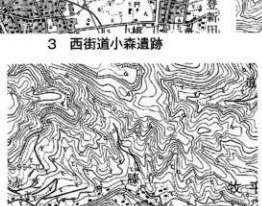
2011年度の遺跡管理システム（Geographic Information System）に登録した遺跡の発見や範囲の変更等については、10件であった。内訳は、遺跡の発見（1.甲斐市小林A遺跡・3.南アルプス市西街道小森遺跡・4.笛吹市行者平遺跡・5.山梨市牟遺跡・10.富士河口湖町宮ノ上遺跡）５件と遺跡範囲の変更修正（2.甲斐市東峰C遺跡・9.都留市三ノ倉遺跡・）２件、および包蔵地の見直しによる登録（6.山梨市鍛懸の関・7.同城山城郭遺構・8.同川浦口留番所跡）３件である。

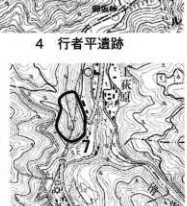
1　小林A遺跡　2　東峰C遺跡

3　西街道小森遺跡

4　行者平遺跡

5　隼遺跡


6　鍵懸の関


7　城山城郭遺構

8　川浦口留番所跡

9　三ノ側遺跡

10　宮ノ上遺跡

12　県内出土遺物のデータベース化

過去に発掘調査で出土した遺物について、県内全体を対象として特徴的な出土品をデータベース化し、一般の利用や研究の資料として活用することを目的に、平成19年度から事業を実施している。平成19年度は、データベースの素材となる出土品20項目を作成し、翌年度から、担当毎に出土品を割り振り、データベース作成を行っている。平成23年度も調査研究課及び資料普及課を併せた5担当で、

データベース化に取り組んだ。

総点数10万点以上の内、これまで、900点近くがデータベース化されており、今後も継続的に、データベース化に取り組んでいく。

13　埋蔵文化財センター峡北収蔵庫遺跡まなび館

埋蔵文化財センターは昭和57年に開所したが、出土品の激増に対応するため、平成５年から旧林業試験場を愛宕山収蔵庫として、平成７年からは旧工業技術試験場（里吉庁舎）３棟を収蔵庫・整理室として利用している。

平成15年からセンター拡充整備の検討に着手し、平成20年度以降は、県有未利用施設の活用という視点で関係所属と協議を重ねてきた。一方、収蔵方法の再検討や、市町村への一部資料の移管を進める等、可能な手段による収蔵スペースの縮減に努めてきた。そうした中で、里吉庁舎の解体、愛宕山収蔵庫の老朽化に伴い、平成23年度に旧峡北高校を新たな収蔵施設として利用できることとなった。平成23年12月１日に、里吉庁舎の解体撤去等のため旧峡北高等学校の一部が教育委員会に移管されたことにより、センターの施設として遺物の移動計画を作成し、第1回目を平成23年12月15、16日に、第２回目を平成24年２月15、16日に、第３回目を３月13日～15日、３月21日～23日にそれぞれ遺物の移動を行った。

平成24年度からは、活用できる遺物の再整理などの作業や出土遺物を地域別に収納を進めながら、愛宕山収蔵庫の遺物移転を行う課題がある。

14　寄贈・購入図書

図書は、毎年度約3,000～4,000冊が寄贈・購入されている。寄贈図書の内容は、全国の都道府県・市町村教育委員会から送付される発掘調査報告書、年報、研究紀要、博物館・資料館等の企画展図録などである。その他にも業務に関する考古学や歴史学の専門書、学術雑誌を購入している。

2011年度（平成23年度）は、3,307冊の図書を登録した。また、専門書、学術雑誌の購入は 60冊である。総登録数約95,000冊に大塚文庫約11,000冊を加えると約106,000冊が収蔵されていることになる。

登録された図書データは、図書データベース（マイクロソフト社データベースアクセス）で管理し、蔵書の検索もできるようにしている。

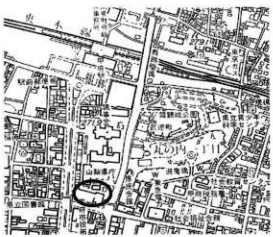
年々増加していく図書であるが、収蔵スペースが不足し、2008度（平成20年度）に書棚設置場所を設けて書棚６棚を増設し、今年度も５棚増設したものの、既に限界に達している。依然として閲覧スペースを含めた収蔵スペースの確保・整備が大きな課題となっている。

第Ⅱ章　各遺跡の発掘調査等概要

1　記録保存のための発掘調査

1－1　甲府城跡（こうふじょうあと）

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
事　業　名　県庁耐震化等整備事業
調査期間　2011年8月15日～25日、9月12日～22日
調査面積　約130㎡
担　当　者　野代幸和・長田隆志


甲府城跡　位置図

本地点は甲府城跡楽屋曲輪内に位置する。

昨年度実施した本体工事に伴う発掘調査とは別に、既存建物に付帯していたオイルタンクの撤去ならびに楠の移植作業に係る立会調査を実施し、遺構が確認できたため発掘調査を行った。また第二南別館の基礎解体作業時に立会調査を実施し、遺構が確認されたため発掘調査を実施した。

【楠移植地点】

調査の結果、移植時の立会調査で確認した江戸時代中期の暗渠跡が、一部木の根により破壊されていたものの東西方向に約8m確認することができた。この石垣の軸線上には大手の石垣があり、その石垣に付帯する暗渠に繋がるものである。出土遺物は瓦片・煙管・古銭・敲石が認められた。暗渠に使用されていた部材の中で矢穴が確認できたものについては議員会館跡地に搬入保護した。

【本館南側オイルタンク撤去地点】

地盤掘削時に立会を実施し、昨年度の発掘調査で確認された一の堀南西部石垣の西側に続く部分を確認したため調査を実施した。調査の結果、築石は根石から二段確認され、根石部に2石、二段目に1石認められたが、隣接する建物基礎工事時に面部分がハツられており、原形を留めていなかった。また、根石の下からは胴木が三本確認できたが、そのうちの二本は築石同様に基礎工事時に破損し原形を留めていないものであった。遺物は瓦片、陶磁器片が確認できた。確認された築石については保護した。

【第二南別館基礎撤去地点】

立会調査の結果、山留工掘削溝部分で石垣の一部と想定される石材を視認したため、その場所を中心に掘削を実施した。掘削開始後現況地盤より約1m下で残存石垣の築石を確認。周辺を拡張して全体規模を把握したところ、築石が二段ないし三段、東西に約5.5mにわたって残存していることが判明した。堀部分には破壊された築石が20石程投棄されていた。関係機関との協議の結果、９月12日から22日にかけて緊急発掘調査並びに解体工事を実施した。

調査の結果、立会調査で確認した江戸時代初期の石垣が、東西方向に約5.6m、高さ約2.1m確認することができた。この石垣の軸線上には大手の太鼓橋があった石垣に繋がるものである。石垣の面合わせが非常に丁寧に実施されており、化粧的に施された詰石も非常に良好な状態で確認され、往時の大手を意識した石積みが確認できた。築石は面部分が小振りでも控えが長く安定したものが多く使用されていた。裏込部は面から2.3～2.5mを測り、こぶし大の小型の栗石が認められた。裏込内は堀の喫水線下に位置していたことから泥で目詰まりしていたため、混入遺物の確認はできなかった。出土遺物は瓦片が少量認められた。なお、石垣構築部材については議員会館跡地に搬入保護した。

石垣構築材については、完了検査時に管財課職員立会のもと、保管位置を確認し石材管理を実施している。保護石材内訳は次のとおりである。築石11ヶ、詰石25ヶ、転石(堀などから確認された築石)31ヶ、栗材約10㎡である。

調査地点位置図

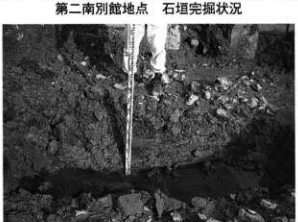
楠地点　調査状況

楠地点　暗渠出土状況

オイルタンク地点　石垣築石出土状況

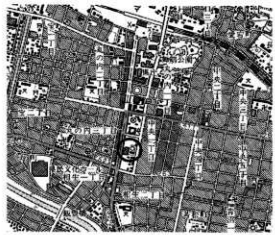
第二南別館地点　石垣完掘状況

第二南別館地点　石垣解体状況


第二南別館地点　石垣基礎確認状況

1－2　甲府城下町遺跡(甲府地方検察庁地点)

所　在　地　甲府市中央一丁目11－8
事　業　名　甲府法務総合庁舎新営工事事業
調査期間　受水槽地点　2011年７月14日・15日
　　本館地点　2011年８月29日～９月16日
調査面積　約210㎡
担　当　者　野代恵子・古郡雅子


甲府城下町遺跡　位置図

調査地点は、甲府盆地の北部を流れる相川の左岸にあり、相川が形成した扇状地の扇端部にあたる。この一帯は市街地化により、本来の地形がわかりにくくなっているが、かつては甲府城のある丘陵部から南にかけてゆるやかな舌状台地が広がっていたものと考えられ、調査地点はこの台地状に立地する。一帯は甲府城下町遺跡であり、近世の城下町を主体とする遺跡である。調査地点は甲府城の追手門から南へ向かう路（追手小路）とその西側の二の堀の間にあり、武家地であった。本館地点の南側については、平成22年度に調査が実施され、溝状遺構と中世のかわらけ３枚が埋設された土器埋納遺構が確認されている。今回の調査では受水槽があった部分と、本館があった部分についての発掘調査を実施した。

【受水槽地点】

受水槽が設置されていた約５ｍ×８ｍの範囲において調査区を設定した。なお、表土掘削の段階で、調査区のほぼ中央部分に幅約２ｍのコンクリート桝が残されていることがわかり、これが中世および江戸期の遺構が確認されている層よりも深く埋設されていたため、この部分については調査の対象外とした。

地表下約１ｍにおいて、過去の調査で江戸時代の遺物を含む事が確認されている暗茶褐色土層が検出され、少量の遺物が確認された。また、その直下で中世及び江戸期の遺構が確認されている黒色粘質土層が良好に残っており、この層において精査を行なったが、遺構・遺物ともに確認されなかった。

【本館地点】

調査対象地については、上述の通り過去の調査において全体的に遺構の密度が薄いことが想定されため、本調査に先立ってまず、該当箇所の確認調査を実施した。その結果、木片や昆虫遺体等が堆積する箇所や杭列が残る箇所が確認されたが、その範囲は限定されている事、またそれ以外の場所からは、遺構・遺物ともに確認されなかったことから、この遺物が集中する部分について調査を実施した。調査対象面積は約170㎡である。調査区の土層堆積状況は、上からコンクリート片他砕石部（１層）、暗褐色粘質土（２層：江戸期の遺物包含層）、シルト混暗青灰褐色粘質土（３層）で、この下に木片や昆虫遺体等が堆積する層（４層）があり、その下は暗灰褐色粘土（５層：地山）である。この木片等が堆積する部分は調査区の南側に限られているが、調査区南壁および西壁には遺構の断面が現われていないことから、調査区から東側に向かって溝状に広がっていた遺構であると考えられる。調査区の東側には地下室があるためすでに遺構は破壊されている。また、先の確認調査では、地下室を挟んだ東側では同様の遺構等は確認されていないことから、溝のように長く続く遺構ではなく、池のように水が溜まるような場所であったものと判断した。

次にこの遺構の土層堆積状況について見てみると、まず調査区中央付近で遺構上面から深さ約１ｍほどの窪みがあり、これがある程度埋没したところで木製品を含む溝状の廃棄物層が２度に渡って堆積していることが理解できる。この２度に渡る廃棄物層は、その出土陶磁器片から、江戸時代終わり頃のそれ程かけ離れていない時期であることが考えられる。ここからは、木製品が多数出土した。その内容は、下駄・将棋の駒・糸巻き・桶・建築部材・櫛・漆塗りの碗など多岐にわたっており、曲げ物の底板もしくは上板と考えられる丸く加工された大小の板も多く出土した。その他陶磁器片や簪、火打石や鎌、複数種の昆虫遺体も発見されている。廃棄物層のうち新しいものについては、木製品な

どの遺物が堆積した後に葉や枝などが一面に降り積もっていることもわかった。
この廃棄物層を伴う遺構の他には、ピットが3基確認されている。そのうち1基からは江戸期の磁器片が出土した。また、確認調査で見つかっていた杭が6本検出されている。

今回の調査区はごく狭い範囲であったが、溝状遺構から多くの木製品が出土した。調査の結果、ここにはもとは池状の遺構があり、それが埋没しかけたところで、溝状に2回の廃棄物層が堆積していることがわかった。調査地点周辺は、柳沢時代には「家老 鈴木主水」の屋敷地であったと考えられ、調査地点南側の立正佼成会の敷地と同一の広い屋敷地のうちの北側部分にあたる。また、幕末の絵図をみると屋敷地は細かく分かれて、「ナンハ田」「吉ラ」「イノ」「葉山」等の名が見える。今回の調査区南隣で平成17年度に甲府市教育委員会によって行なわれた、立正佼成会地点の調査では、上水跡や井戸、建物跡、二の堀など多くの遺構が発見されている。その一方で甲府地検の敷地では遺構が少なく、また今回の調査で埋没した池状遺構が発見されたことから、屋敷地北側では庭などの建物がないスペースとして使われていたことも考えられる。遺構の埋没状況からは、最終段階での池状遺構には、木製品を含む様々なものが廃棄されている状態が伺えるが、この廃棄物層には江戸時代の終わり頃の陶磁器類が含まれていることから、勤番士の立ち退きとともに廃棄されたものである可能性もある。

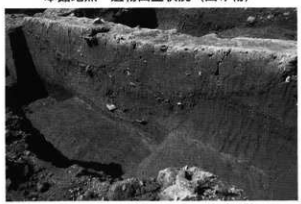
調査地全景（調査区東から西を望む）

受水槽地点の調査風景

本館地点の調査風景

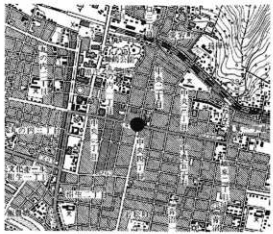
本館地点　遺物出土状況（曲げ物）

本館地点　遺物出土状況（木製品・硯ほか）


本館地点　池状遺構の土層堆積状況

1－3　甲府城下町遺跡(古府中環状浅原橋線)

所　在　地　甲府市中央二丁目404番地地先、
　　中央四丁目16番地地先
事　業　名　都市計画道路（古府中環状浅原橋線）街路事業
調査期間　2011年10月14日～11月14日
調査面積　約90㎡
担　当　者　今福利恵・土橋寛仁


甲府城下町遺跡　位置図

甲府城下町遺跡のうち甲府城内の南東方向にあたる城東通り（八日町通り）と遊亀通り（柳町通り）の交差点において発掘調査を実施した。甲府城下における三の堀にかこまれた町屋に該当し、調査地点の城東通りは甲州街道である。発掘調査は国道411号城東通りを挟んで北側のエリア１と南側のエリア２に分け、それぞれ排土を場内処理するためエリア1を北側と南側で、またエリア２を東側と西側で反転しながら行った。調査は、エリア１から重機により10月14日に表土剥ぎを行い、以後人力により掘り下げを行って調査を進めた。

地表直下はコンクリート片等が混在した現代の造成層（Ⅰ層）で、その下が焼土ブロックを伴う褐色の粘質土層（Ⅱ層）である。以下、江戸期から明治期にかけての焼土層を包含する暗褐色粘質土（Ⅲ層）で、円礫を含む黄褐色粘質土（Ⅳ層）がエリア1では厚く約20～30cm程みられ、江戸期の地盤造成層となる。この層の直下にエリア１で限定的に褐色粘質土（Ⅴ層）がみられる。そして暗緑色砂層（Ⅵ層）がエリア１を中心に広がり、中世から江戸期前半くらいと思われる焼土ブロックや炭化材片を含む暗褐色土（Ⅶ層）を覆っている。この下は暗灰色粘質土（Ⅷ層）となり、湧水がみられる。この層はわずかであるが古墳時代の土器を包含している。

エリア１では、Ⅳ層上面に土坑や礎石、杭、柱痕などが確認でき、陶磁器類、銭貨が出土している。大型の礎石が2箇所確認できたが、コンクリートの付着がみられ明治期以降の所産である。これとは別に東西方向に２間の礎石を検出できたが、調査範囲が狭いため建物としての規模は明確ではない。陶磁器類も江戸期のものが主体である。Ⅳ層の地盤造成層からも陶磁器類がわずかであるが出土している。甲府上水はⅧ層中から竹管によるものが東西方向で2本確認できたが、Ⅱ層中から掘り込まれていたことから明治期以降に設置されたものと思われる。さらに試掘調査でⅧ層中から確認された礎石には柱面にコンクリートが付着していた。Ⅷ層上面には石臼が埋設されていたことから土間と思われる。礎石が３間みつかっているが、建物全体像は不明である。石臼は円柱形で中央を掘りくぼめており、焼土や羽口片が伴っていることから鍛冶遺構に関するものと思われる。

城東通り南側のエリア２では、Ⅲ層中に焼土層が間層（Ⅲ中層）を挟んで上（Ⅲ上層）下（Ⅲ下層）2面認められた。Ⅳ層となる造成層は北側では円礫をふくまない粘土質であるが、南側ではかなり薄くなっており限定的であった。Ⅲ中層から掘り込み、拳大の礫を充填した溝状遺構が南北方向で検出でき、溝底はⅧ層へ及んでいた。またこの溝中に礎石が1箇所あり、この礫の溝と一体となったものである。Ⅲ上層は、江戸時代の陶磁器類、銭貨が出土するが、近代の遺物も混在している。Ⅲ下層からは陶磁器類のほか、アワビ、サザエ、ハマグリ等の貝殻が目立っている。Ⅷ層からは遺構は検出していない。Ⅷ層中からは杭列を検出した。エリア２の西側は後世の撹乱が及んでいた。

人力による掘削作業は11月11日まで行い、以後重機によって埋め戻しを終え11月14日までに機材等を撤収し、現場での作業を完了した。出土遺物量はプラスチック収納箱にて５箱である。

近世近代の礎石

エリア1の北側調査

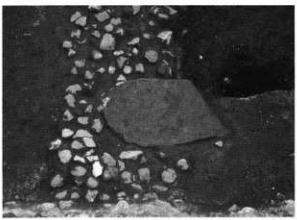
中世～近世初頭

石臼埋設状況

エリア1の南側礎石群

城下町の土地造成層

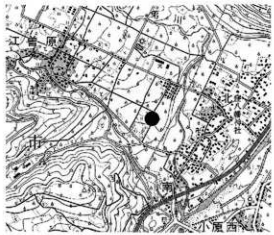
エリア2の東側調査



近世の礎石

1－4 上コブケ遺跡A区

所　在　地　山梨市北・南地内　外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2011年５月18日～８月31日
調査面積　3,844㎡
担　当　者　吉岡弘樹・小澤美和子



上コブケ遺跡A区　位置図

上コブケ遺跡は、山梨市北・南地内の兄川と弟川に挟まれた位置にある。甲府盆地縁辺部北側の南向き斜面(遺跡標高約 372～374m)にあり、盆地東部を眼下に見下ろし、南方には御坂山地と、その上方には霊峰富士山が顔を見せている。当遺跡の存在は既に周知されており、平成22年度に路線内の試掘調査を実施し遺構・遺物が確認されたもので、近接した位置には、建物群が重要文化財指定になっている大井俣窪八幡神社や、ナウマン象の臼歯などが発見された兄川河床遺跡などが点在している。

調査にあたっては、対象地面積が大きく、工事工程の優先順位が決定済みであったことに加え、山梨市道により分断されていたことなどからＡ・Ｂ・Ｃ区と対象地を大別し、それぞれに担当者を配置し、県土整備部・県教育委員会・工事業者の三者で工程会議を定期的に実施し調査を進めた。

調査方法は、重機により表土を除去し、世界測地系座標による基準杭の設置を行った上で、人力による遺物包含層の掘削・精査を行いながら、遺物の記録、取り上げ、また遺構及び土層の堆積を確認し記録した。

【A-1区】

現地表から約0.2～0.7m厚で耕作土・盛土層があり、その下に遺物包含層と遺構検出面がある。この遺物包含層からは平安～縄文時代を中心とした時期の土器片が出土している。

遺構は土坑が６基と溝状遺構が１条確認されている。第１号土坑（直径約120cm・深度約30cm）と調査区を南北に縦断する位置で検出された第１号溝状遺構からは古墳時代と比定できる土器類が出土している。

【A-2区】

現地表から約0.5～0.7m厚の耕作土が確認され、その下方に遺構確認面が存在する。しかし、耕作者により水捌けを容易にするように各所に砂質土が重機を使って入れ込んであったため、良好に遺構を把握できる箇所は非常に少なく、検出された遺構は土坑が数基が確認されているのみである。それらは、直径40～50cm、深度30～60cmを測り円形または楕円形を呈するものが主体となっている。遺物も、平安時代を中心とした土器類が僅かに出土しただけであった。

【A-3区】

現地表から約0.3m～0.5mの厚さの耕作土があり、その下に薄く遺物包含層が存在する。発見された遺構の多くは平安時代に比定される竪穴式住居跡７軒、掘立柱建物跡３軒（内１軒はＣ区にて調査されたものと重複）、土坑・柱穴約100基である。この中で特筆されるものは第６号住居跡であろう。当住居跡は、火災にあったいわゆる焼失住居で、住居を覆う上屋の構築材の一部が残存していた。

遺物は僅かに縄文時代の土器片が混じるが多くは平安時代と推される土器片が検出された。

今回の調査は、道路建設予定地内のみであったが、多岐にわたる時代の遺構遺物が発見された。特に平安期の住居跡7軒と掘建柱建物跡3棟は、Ｃ区で検出された5軒の同時期の住居跡や掘建柱建物跡と共に山梨市域の当該期の集落形成を示す良好な資料の発見であると言え、これらの成果は、当地における周知の埋蔵文化財包蔵地の一端を探る上で欠くことのできない歴史資料となることは間違いないだろう。

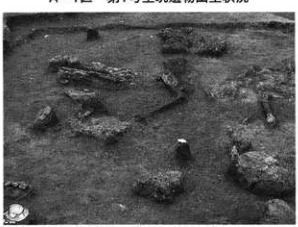
A－1区　完掘状況

A－2区　完掘状況（南側付近）

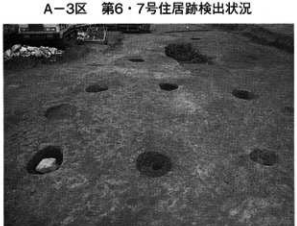
A－3区　堀立柱建物跡と溝状遺構検出状況

A－1区　第1号土坑遺物出土状況

A－3区　第6・7号住居跡検出状況



A－3区　第6号住居跡炭化材検出状況

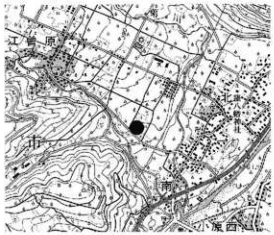


A－3区　堀立柱建物跡検出状況

A－1区　遺構検出作業風景

1－5　上コブケ遺跡B区

所　在　地　山梨市南字上コブケ410 外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2011年５月18日～８月31日
調査面積　3,843㎡
担　当　者　塩谷風季



上コブケ遺跡B区　位置図

上コブケ遺跡は、笛吹川支流で山梨市内を流れる兄川と弟川に挟まれた位置にあり、両河川は御坂山地を源流とする。遺跡標高約369～372mほどの南に緩やかに傾斜する河岸段丘面に立地する。また当遺跡の周辺遺跡としては、建物群が重要文化財指定になっている大井俣窪八幡神社や、ナウマン象の臼歯などが発見された兄川河床遺跡などが点在している。

本調査は、西関東連絡道路建設事業の工事行程の優先順位がすでに決定済みだったことに加え、約13,700㎡の調査対象面積のうち市道に区切られていることから、調査の便宜上、A区、B区、C区の３区に分けて、本年度本調査を実施した。また遺跡名は字名を付して「上コブケ遺跡」とした。

上コブケ遺跡B区は、ボックスカルバートを設置工事が急務であったことに加え、調査区内を周辺の果樹園へ供給する水路が走っているため、調査区を１からⅤ区の５区に分けて調査を実施した。

１区では、耕作により削平されており、自然流路（旧河道）１条、近代期と思われる遺構として暗渠２条、溜池状遺構１基が検出された。また耕作による削平範囲が広く、包含層の残りが良い範囲は２地点であった。遺物は縄文時代中期の土器や黒曜石の破片が見つかった。また中部高地地域でも稀少な縄文時代中期後半（曽利Ⅰ式古段階）の人面装飾付土器１基が見つかり、逆位で出土したことから埋甕と思われる。

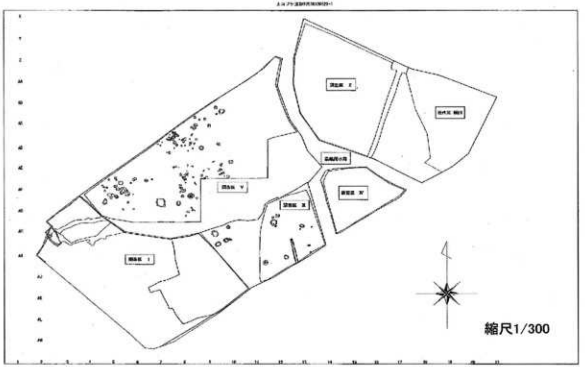
Ⅱ区では、調査区外の市道の側溝と調査区内を走る水路をつなぐコンクリート製の水路が検出されたが破損していたため、廃棄されたものと思われる。また近代の瓦が多量かつ広域に廃棄されており、サブトレンチを設定し掘り下げてみたところ約0.6m厚の瓦の堆積が確認され、その下層は粘土層（湧水層）であり、遺物は確認されなかった。

Ⅲ区では、土坑10基、ピット８基、埋甕２基が確認された。土坑の大きさは直径0.4～0.7m、深度0.3～0.5mを測り円形または楕円形を呈するものが主体となっている。土坑内に遺物を含んでいるものもあるが、そのほとんどが縄文時代中期（五領ヶ台期～曽利Ⅱ期）の土器であった。

Ⅳ区は、調査時も使用されていた果樹園への水路に挟まれた飛び地状の調査区であり、現地表面から約1mで粘土層（湧水層）が確認された。遺構は確認されなかったが、縄文時代中期の土器片と黒曜石の破片が確認された。

Ⅴ区は、他の４区よりも１段高く、地境の石垣が組まれ削平範囲もあったが比較的に遺構及び遺物が多く検出された。遺構は竪穴住居１軒、集石遺構１基、土坑13基、ピット30基、炉址３基、埋甕９基。遺物は石棒２点、土偶19点、イノシシ形土製品（土笛）１点、土製装飾品１点、土製模造品１点、水晶製石鏃１点が確認された。またⅤ区のみ未加工の水晶や水晶の破片が出土している。

上コブケ遺跡B区は、耕作によって土地が改変されているため、集落の中心地は判断しがたいが、本調査区の傾向として、南方位の斜面下面よりも北方位の斜面上面の方が包含層の残りが良い。また地山が約0.1～0.2m厚と薄く、その下層からは礫層が確認されたため、当時の生活面は包含層である黒色土層上の可能性がある。曽利Ⅰ期の人面装飾付土器やイノシシ形土製品（土笛）、土製装飾品など山梨県内でも稀少な遺物が確認できたことや、本遺跡の性格は埋甕が住居に伴わないことから周辺集落の墓域であろうという遺跡の性格の一端を解明できたことは、本遺跡周辺の歴史を知る上で欠くことのできない成果であろう。



上コブケ遺跡Ｂ区　全体図

第9号埋甕

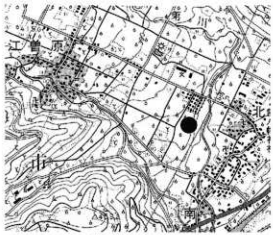
第10号埋甕（底部穿孔あり）

第1号埋甕（人面装飾付土器）

土製装飾品

1－6　上コブケ遺跡C区

所　在　地　山梨市北　外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2011年５月19日～10月５日
調査面積　約4,800㎡
担　当　者　笠原みゆき・加々美鮎実

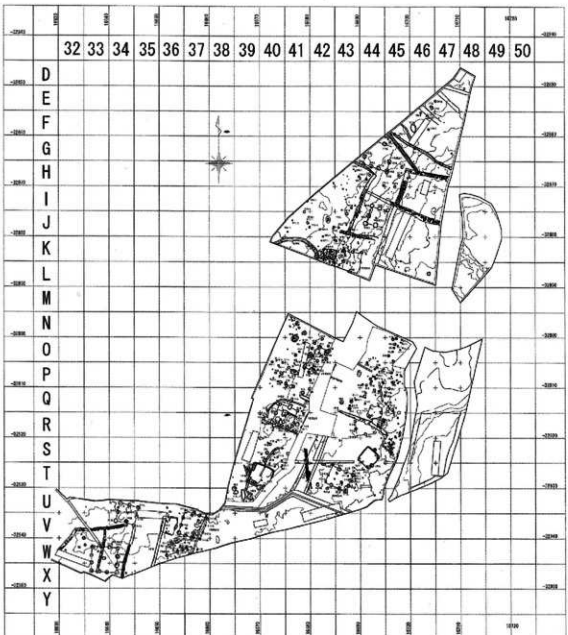


上コブケ遺跡C区　位置図

上コブケ遺跡は、甲府市と山梨市の間にそびえる帯那山に源流をもつ兄川の左岸にあたり、平行して流れる弟川に挟まれた位置に所在する。遺跡の北西側は、なだらかな山腹の南斜面となっていて、遺跡からは甲府盆地が一望できる。標高は372～374mで、遺跡内も周辺の地形と同様、西から東に緩やかに傾斜している。本遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地であり、平成22年度の路線内の試掘調査によって、遺跡南側に範囲が追加されたものである。調査面積が約12,000㎡と広く、工事行程によって調査区内の工期が分かれていたため、全体をA・B・Cと3つに分けて調査をおこなった。C区は、遺跡の中で最も東側、弟川に近い位置となり、当初の調査対象地6,260㎡のうち、未調査区域を除く4,876㎡が調査された。発掘調査は、重機により表土剥ぎを行った後、国土座標に基づく５m四方のグリッド杭の設置を行った。グリッド設置後、人力による精査で遺構や遺物を確認し、図面や写真の記録作業を行った。発掘作業終了後、空中撮影で遺跡の全景・俯瞰撮影をおこなった。整理作業は、発掘調査で出土した遺物の洗浄、注記、接合・復元作業などの基礎的整理を行った。また、光波測量のデータ整理もおこなった。

C区では、調査区外に廃土を持ち出すことができなかったため、調査区内を２つに分け反転して表土剥ぎを行い、優先的に調査した工事用道路部分をC－Ⅰ区、それ以外をC－Ⅱ区とした。調査区は西から東に傾斜する地形であり、東側に遺構が多く発見され、傾斜する斜面から遺物が多く発見された。

この区は、未調査区域をL字に囲む範囲で、西側から東側に向かって調査をすすめた。現状は、畑境の段差が当区の中央部分と東側部分にあり、掘削深度0.2m程から遺物と遺構が検出された。ほとんどが平安時代の遺構で、遺物も10世紀頃の土師器と須恵器が多数発見された。住居跡は耕作のため上部が掘削されているようで、確認面からの掘方が浅く、床面まで0.1mほどしかなかった。カマドの残りは悪く、粘土が薄く広がる状態であった。掘立柱建物跡は、2間×2間と3間×3間の2種類に分けられる。柱穴の底には平石があるものもあり、礎石と推定される。竪穴式住居跡との関係や時期については、現状では明確ではないが、住居跡と掘立柱建物跡が、隣接して存在していたことが窺える。建物に近接する幾つかのピットからは、完形に近い土器が埋められた状態で発見され、祭祀と想定される。今回の調査により、上コブケ遺跡C区では、平安時代（今から約1,000年前）の集落跡を確認した。遺構は、竪穴式住居跡５軒、掘立柱建物跡11棟、溝３条、溝状遺構10条、土坑100基、ピット170基、集石土坑１基が発見され、遺物は、土師器・須恵器が沢山出土した。隣接するA区でも同様の遺構・遺物が確認されているため、両区に挟まれた未調査区でも住居跡や掘立柱建物跡などが発見される可能性は高いと思われる。また、両区で確認された溝が、未調査区内でどのように確認されるかも興味深い。調査区内から出土した遺物の多くは、調査区全体から発見されており、特に、南傾斜地に堆積しているような状態が窺えた。遺物自体も摩耗度が高いことから、傾斜地に流れ、堆積したと考えられる。調査にあたって、市内に発展している条里に関連する遺構の存在も期待されたが、明確な、条里遺構は発見されなかった。



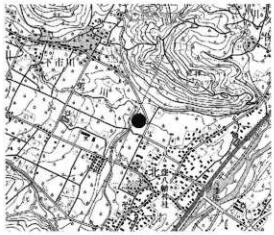
上コブケ遺跡C区　全体図

上コブケ遺跡C区　空中写真

R45グリッド内ピット出土土器

1－7　廻り田遺跡B区

所　在　地　山梨市北字廻り田1085 外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調 査 期 間　2011年９月１日～11月30日
調 査 面 積　2,096㎡
担　当　者　塩谷風季・田中憲一


廻り田遺跡B区　位置図

廻り田遺跡B区は、笛吹川支流で山梨市内を流れる弟川の左岸に位置しており、弟川は御坂山地を源流とする。遺跡標高約372～373mの河岸段丘面に立地する。本遺跡は平成22年度に西関東連絡道路線内の試掘調査を実施した際に新たに発見され、周知されたもので、近接した位置には、建物群が重要文化財指定になっている大井俣窪八幡神社や、ナウマン象の臼歯などが発見された兄川河床遺跡などが点在している。また遺跡名は字名を付して「廻り田遺跡」とした。

本調査は、表土及び耕作土の除去を重機によって行い、人力による遺構検出作業を北方から南方へ向かって実施し、遺構及び遺物の精査と記録作業を行った。また古墳時代の地層より下層にある旧河川の氾濫の影響を受けていない文化層の有無を確認するために、調査区の約半分に相当する34グリッド（１グリッド５m×５m）を約0.2～0.5m掘り下げたが文化層は認められず、磨滅した縄文土器数点が確認されたのみであった。

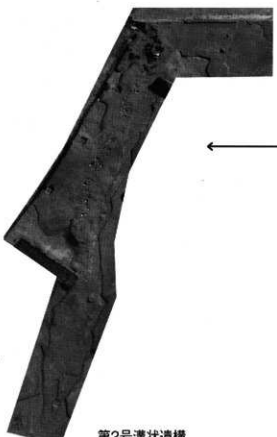
基本層序は、約0.4m厚の表土及び耕作土の下に古墳時代前期を中心とした時期の土師器などが入る暗褐色土層、黒褐色土層、暗褐色砂質土層、黒褐色砂質土層といった遺物包含層が堆積している。遺構の検出は、竪穴住居１軒、溝状遺構７条（自然流路２条）、小竪穴状遺構２基、土坑25基、ピット82基で、いずれも古墳時代の遺構であった。

第１号住居は一部が調査区外へ伸びており、竈・炉跡は検出されなかったものの、隅丸方形状の平面形を呈する状況が確認された。なお、遺物の出土は古墳時代の土師器片が少量出土している。

調査区を横断する第１・３号溝状遺構の覆土には、砂質土層、砂層、砂礫層などの互層の堆積状況が確認されたことから旧河道であろう。また第１号溝状遺構の底面近く（遺構確認面から約1.5m）において確認した湧水を伴う砂礫層からは摩滅した縄文時代の土器片が数点出土している。

また調査区南東から北西の調査区外に続く第２号溝状遺構（長さ約35m、最大幅約５m）からは、古墳時代前期の甕類や高坏の破片が約700点と集中して出土した。ほぼ、完形の小型片口短頸壺が正位で出土していることから、自然の営力による流れ込みではなく水辺の祭祀・儀礼行為が行われていた可能性が考えられる。

住居跡が１軒確認されたのみではあるが、本遺跡から県内でも稀少な古墳時代の小型片口短径壺が発見されたことや、水場祭祀と思われる跡が検出されたことは、本遺跡が祭祀・儀礼に関係するものだという性格の一端を解明することができたことは評価できる。また当地域における周知の埋蔵文化財包含地の一端を探る上で欠くことのできない歴史的資料となるであろう。



第2号溝状遺構

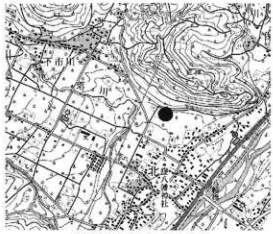
第1号溝状遺構（旧河道）断面写真

小型片口短頸壺（第2号溝状遺構出土）

調査風景

1－8　膳棚遺跡（ぜんだないせき）Ａ区

所　在　地　山梨市北字中膳棚1162外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2011年９月１日～12月26日
調査面積　4,997㎡
担　当　者　吉岡弘樹・小澤美和子


膳棚遺跡Ａ区　位置図

膳棚遺跡は、山梨市北地内の弟川と笛吹川に挟まれた位置にある標高477.6mの荒神山の裾部に展開する南向きの緩やかな斜面にある。ここは、約373～378mの標高を持ち甲府盆地東部を眼下に見下ろすことができる位置にあり、南方には御坂山地がありその上方には霊峰富士の頂が僅かに顔を見せている。

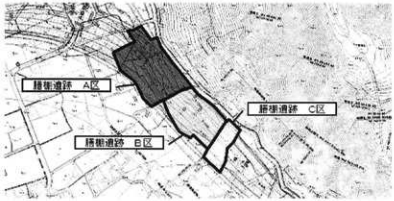
当遺跡は、平成22年度に路線内の試掘調査を実施した際に新たに発見され周知されたもので近接した位置には、建造物群が重要文化財指定になっている大井俣窪八幡神社や、ナウマン象の臼歯などが発見された兄川河床遺跡などが点在している。

調査にあたっては、対象地面積が大きいことに加え、水路等によって分断されていたことなどからＡ・Ｂ・Ｃ区と対象地を大別し、それぞれに担当者を配置し、県土整備部、県教育委員会双方による定期的な工程会議を実施しながら調査を進めていった。

調査方法は、重機による表土除去、世界測地系座標による基準杭の設置を行った上で、人力による遺物包含層の掘削・精査を行いながら、遺物の記録、取り上げ、また遺構及び土層の堆積を確認し記録した。

現地表から約20～60cm厚の耕作土・盛土層があり、その下に再堆積したローム質土、茶褐色土層、黒褐色土層が観察された。この中で遺物は、この茶褐色土と黒褐色土の上側約10cmに包含されている。この遺物包含層は、調査区のほぼ全域にみられるが、中央付近を南側に下るように検出された旧谷状地形を埋めるように厚く堆積が認められた。なお、この中の黒褐色土層は試掘時に確認されている包含層であり、出土した縄文・古墳・平安時代を中心とした土器類は全て破片資料で摩耗が激しいことから遺構に伴ったものではなく、上方より流れ込んだものと判断できよう。

遺構は土坑55基・柱穴51基と溝状遺構が5条確認されている。土坑は、直径40～50cm、深度30～60cmを測り、円形または楕円形を呈するものが主体となっている。柱穴は、直径20～40cm、深度30～40cmを測り、円形を呈するものが多い。土坑、柱穴ともに配置の規則性は見受けられないが、調査区の中でも、比較的土層が安定している等高線の高い位置より多数が確認される傾向がみられる。

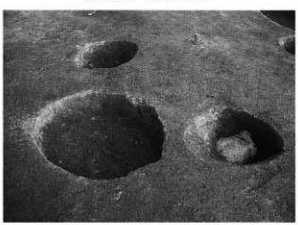


調査区配置図

上記のことから、今回は道路建設予定地内のみの調査ではあるが、遺構・遺物の検出が希薄であろうと想定されていた当区において、多数の遺構が確認されたことや旧谷状地形が確認できたことも含め、当地での遺跡分布状況や立地状況などの一端を探る上で欠くことのできない歴史資料となったと言えよう。

完掘状況

完掘状況（北側部分）



第8・9・10号土坑検出状況

第1・2号溝状遺構検出状況

第5・6号土坑検出状況

調査風景

1－9　膳棚遺跡（ぜんだないせき）Ｂ区

所　在　地　山梨市北　外
事　業　名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2011年９月22日～2012年１月27日
調査面積　約3,900㎡
担　当　者　笠原みゆき・加々美鮎実

膳棚遺跡Ｂ区　位置図

膳棚遺跡は山梨市北に位置する。標高477．6mの荒神山の裾部に展開する南向きの緩やかな斜面に所在し、南側に笛吹川、北西側に弟川が流れている。遺跡からは御坂山塊が遠望でき、そのさらに奥には富士山が僅かにみえる。調査区内は弟川の左岸にあり、標高約378.2～374.2mと傾斜のある地形で、低い部分には、大きな河原石が沢山堆積する状況であった。遺跡の周辺は桃や葡萄の果樹畑であり、遺跡の南側には、建物群が重要文化財に指定されている大井俣窪八幡神社が、荒神山の東側裾部には、平安時代の土師器を焼いた荒神山窯跡がある。

本遺跡は、西関東連絡道路Ⅱ期工事に伴い、平成22年度に行われた試掘調査によって新たに発見され、登録された遺跡である。調査期間は平成23年９月22日から平成24年１月27日まで、面積は約3,900㎡である。発掘調査は、重機により表土剥ぎを行った後、国土座標に基づく杭を５m方眼に打ち測量の補助とした。そして、人力による精査を行い遺構や遺物を確認し、図面や写真の記録作業を行った。整理作業は、発掘調査で出土した遺物の洗浄、注記、写真整理、光波測量データの管理などの基礎的整理を行った。

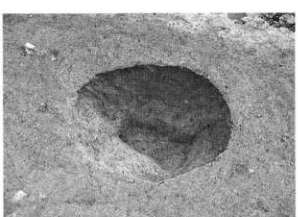
調査区は北から南に傾斜する地形である。現状は、段差のある果樹畑で、道路際の一番高い畑と二番目の段差が1.2～1.5mほどある。この一番高い畑がＢ区－１、2段目以降をＢ区－２として報告する。

Ｂ区－１は、調査区の中でも最も北側の道路際に位置する。道路から１mほどで畑の表面となり、そこから、さらに50cmほど表土を剥ぐと砂質土が検出される。砂の粒子や色などの違う堆積が少なくとも３～４層縞状に確認できた。砂質土はＢ区－１からＢ区-２にかけて落ち込む様子がトレンチから観察できたが、その先端は、近代に作られた石垣の掘り込みによって削られていた。砂質土の下層の黒色粘質土は、調査区中央やや東から調査区西側隅にかけて、黄褐色の粘質土に大きめの山石が多く含まれる層が厚く堆積する様子がみられる。これは。北側の山の斜面が崩れたものと考えられる。調査の結果、土坑２基が確認できた。このうちの一つからは、同個体の縄文土器片が出土している。

Ｂ区－２は、Ｂ区－１から１段下がった下段となる。この区域も元は低い段差があったが、表土を取り除くと、ほぼ同じ高さの一面となった。Ｂ区－１で確認された砂質土は、Ｂ区－２では、若干確認されるだけで、表土を掘削してすぐ黒色粘質土が現れる。これは、この地を畑として利用する際に、かなり削平されたのではないかと推定する。調査の結果、土坑22基と溝状遺構10条、ピット22基、土師器片・縄文土器片・石器などの遺物が出土している。今回の調査により、Ｂ区では、土坑24基と溝状遺構10条、ピット22基、土師器片・縄文土器片・石器などの遺物が出土した。表土を削除した後に設置した南北方向のトレンチによって、砂質土が何層にも堆積している状況が確認され、笛吹川の影響を受けているものと考える。また、この砂質土の下層には礫を含む粘土質の黒色土が堆積しており、この黒色土中から縄文土器片と石器が出土した。石器のほとんどが打製石斧であったことや遺構の確認状況から、Ｂ区では縄文時代中期から後期にかけて、打製石斧をたくさん使用した、何らかの活用の痕跡が確認された。

膳棚遺跡空中写真

調査風景



6号土坑完掘状況

24号土坑遺物出土状況

5・6号溝完掘状況

1－10 膳棚遺跡C区

所 在 地　山梨市北字東膳棚786 外
事 業 名　西関東連絡道路建設事業
調査期間　2011年12月１日～2012年１月27 日
調査面積　1,650㎡
担 当 者　吉岡弘樹・小澤美和子・塩谷風季・田中憲一

膳棚遺跡C区　位置図

膳棚遺跡は、山梨市北地内の弟川と笛吹川に挟まれた位置にある標高477.6mの荒神山の裾部に展開する南向きの緩やかな斜面にある。ここは、約373～378mの標高を持ち甲府盆地東部を眼下に見下ろすことができる位置にあり、南方には御坂山地がありその上方には霊峰富士の頂が僅かに顔を見せている。

当遺跡は、平成22年度に路線内の試掘調査を実施した際に新たに発見され周知されたもので近接した位置には、建造物群が重要文化財指定になっている窪八幡神社や、ナウマン象の臼歯などが発見された兄川河床遺跡などが点在している。

調査にあたっては、対象地面積が大きいことに加え、水路等によって分断されていたことなどからA・B・C区と対象地を大別し、それぞれに担当者を配置した。更に、県土整備部、県教育委員会双方による定期的な工程会議を実施しながら調査を進めていった。

調査方法は、重機による表土除去、世界測地系座標による基準杭の設置を行った上で、人力による遺物包含層の掘削・精査を行いながら、遺物の記録、取り上げ、また遺構及び土層の堆積を確認し記録した。

B区の東側にほぼ接するように設定された調査区であり、標高は374.5～378mで、比高差は約3.5mを測る。試掘調査の結果から、遺物包含層であると黒褐色土層の存在が明らかとなっていたことや、先行して調査に入ったB区の土層や遺構検出状況などを参考として表土剥ぎを実施した。

当区の土層堆積状況は、現地表から50～70cmの厚さで耕作土・表土が確認され、その下方からは遺物包含層が、約20～40cm厚で確認された。更に、その下の層序は、標高が高い部分（378～375m付近）では安定した黄褐色粘質土の地山層が、標高が低い374.5m付近では薄い遺物包含層直下に旧河道の影響で堆積した礫層が厚く堆積する様子が顕著に確認できた。ここでは、A区にみられた谷状地形の存在は無く平坦な傾斜が、南方向に続いている。

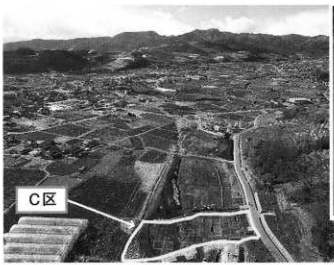
調査は、遺物包含層上面からグリッド毎に精査を行い遺構確認に努めた。その結果、小竪穴状遺構1基、土坑26基、柱穴73基、溝状遺構２条が検出された。

小竪穴状遺構は、2.75×2.75mの規模で平面形は歪んだ隅丸方形状を呈している。深度は、約16cmを測る。また、出土遺物は、平安期と推測できる土器の小破片が1点出土している。

第２号溝状遺構は、調査区東寄りから調査区外に向けて長さ3.5mが検出された。西端部は激しい円礫の混入によって形状等は掴めなかった。北側の壁面に約30～50cm幅の平坦面を持ち、全幅は約2.8mを測る。深度は約90cmで底面は弧状である。遺物の出土は無かった。　土坑および柱穴は、調査区のほぼ全域から検出されている。

遺物は、土器類が主で遺構に伴ったものは少なく、そのほとんどが遺構外出土であり、縄文・平安時代が多い。

これらのことから、今回は道路建設予定地内のみの調査であったが、縄文及び平安時代の遺構遺物が発見されたことは、当地域における周知の埋蔵文化財包蔵地の一端を探る上で欠くことのできない歴史資料となることは間違いないであろう。



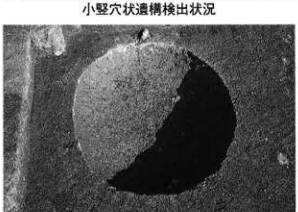
遠望　東より西を望む

完掘状況

第2号溝状遺構検出状況

小竪穴状遺構検出状況

第5号土坑検出状況

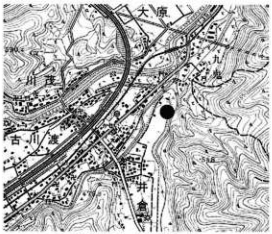

第6号土坑検出状況

第10号土坑検出状況

調査風景

1－11　美通遺跡（みつうじいせき）D区

所　在　地　都留市井倉258外
事　業　名　一般国道139号（都留バイパス）建設事業
調 査 期 間　2011年５月25日～９月２日
調 査 面 積　約756㎡
担　当　者　今福利恵・土橋寛仁



美通遺跡D区　位置図

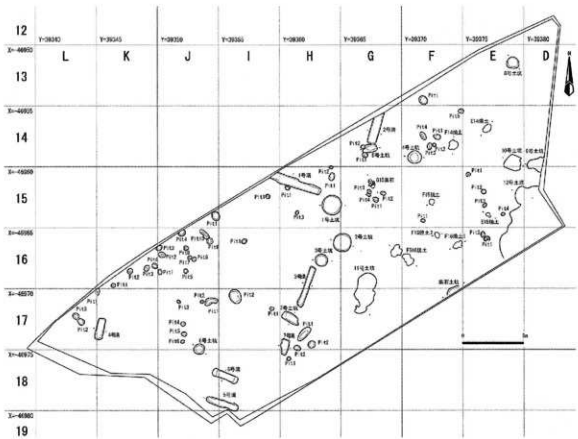
美通遺跡は、生出山の北側にあり、遺跡北側で合流する菅野川と朝日川に挟まれた河岸段丘上に位置している。発掘調査は平成20年度から行い、県道35号線側の南西部からA区、B区、C区と大きく３箇所に分けた。今年度は、その区間の北東部端のD区としたC区に隣接したところの調査である。D区より先は朝日川となって九鬼山の裾にあたる。

今年度の調査は、表土除去を行った後、人力による精査を行い、遺構・遺物の確認と測量・図化を行った。表土剥ぎは、昨年度実施した試掘調査の結果をふまえ重機によって地表下約50cmほどのスコリアを含む地層（第一面）まで行い、この下層で確認されている縄文時代の文化層（第二面）までを人力により慎重に掘削した。調査には、光波測量器を使い図化の迅速化に努め、また必要に応じて掘削した壁面での土層断面を観察、図化を行った。調査終了時には、ラジコンヘリコプターによる空中撮影を行った。

第1面は、近年の水田床土直下から確認でき、砂利と橙色スコリア粒を多量に含む土層となるが、遺物量は少ないものの中世と弥生時代の遺物が出土した。この文化層における遺構は下層の第２面となる縄文時代文化層とも重複していた。中世の遺構は溝状遺構から陶器片が出土したのと包含層中より古銭が見つかった程度であり明確な文化層を形成していない。弥生時代は、土坑を10基とピット群を検出した。土坑からは弥生時代中期初頭の壺、甕片が出土することがあり、墓坑と思われる。

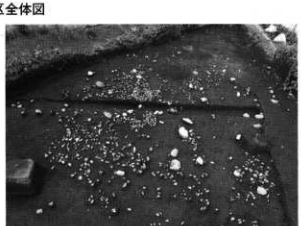
第２面は縄文時代の包含層となり、第１面包含層直下にみられる。土層は、スコリアを含まず暗褐色土と黄褐色土が斑状になり、溶岩流の表皮部分の破片が散在するように含まれていた。縄文時代の包含層からは斑状土層のため掘り込みを明確にとらえることが困難であり、集石土坑の他に明確な遺構は検出できなかった。その中で、大量の礫が幅約6m で直径25m程の環状を呈するように土器と共にみられた。この礫の出土状況には規則性は特にみられず、粗密をもちながら環状の範囲内から上下20～30cmの厚さをもって出土した。これに縄文時代前期後半の諸磯ａ式土器片が伴い、このほかに石鏃や石匙、平石皿等の石器がみられた。特殊なものでは滑石製の玦状耳飾りが出土している。礫による集石を掘り下げたところで焼土を８箇所検出したが、周囲の遺物出土状況から住居跡に伴うものと判断するにはいたっていない。よって縄文時代前期の諸磯ａ式期に形成された環状配石と思われる。この他に縄文時代早期の条痕文土器、前期諸磯ｃ式土器、後期称名寺２式土器がわずかにみつかっている。出土遺物量はプラスチック収納箱にて18箱である。

本年度に美通遺跡D区の図面整理、測量データ整理、遺物の洗浄、注記、接合、復元、実測等の報告書作成のための整理作業を行い、３月23日に刊行した。



美通遺跡D区全体図

遺跡全景



配石遺構

集石土坑

出土した土器

1－12　滝沢遺跡（第３次）

所　在　地　南都留郡富士河口湖町河口字滝沢535－1外
事　業　名　一般国道137号吉田河口湖バイパス建設事業
調査期間　2011年10月４日～12月５日
調査面積　738㎡
担　当　者　小林健二・永田亮一

滝沢遺跡　位置図

滝沢遺跡の立地する富士河口湖町の河口地区は、駿河国を通過する東海道と甲斐国を結ぶ古代の官道「甲斐路」または「御坂路」が通っていたといわれ、平安時代の法典『延喜式』に記載された、中央との連絡に使用する馬を用意するための施設「河口駅」（甲斐国三駅の１つ）があったといわれている。滝沢遺跡はこの官道の東側に接しており、御坂山・三ツ峠山の南麓、河口湖の北東部の標高842ｍから851ｍにかけての緩やかな斜面上に立地している。

本遺跡は、2005（平成17）年度に国道137号河口２期バイパス建設工事に先立ち第１次調査が、2009（平成21）年度に吉田河口湖バイパス建設工事に先立ち第２次調査が行われ、縄文時代から近世にかけての遺跡であることが確認された。中でも平安時代前期から中期にかけて（９～10世紀）の竪穴住居跡が30軒発見されており、この遺跡一帯が官道に沿って広がっていた集落であったことが考えられている。

第３次となる今回の調査は、第２次調査区域Ⅴ区の北側に隣接することから、続けてⅥ区と設定したが、Ⅵ区はさらに２回に分けて調査が行われることとなったため、Ⅵａ区とⅥｂ区とし、今年度分をⅥａ区とした。

Ⅵａ区は、北東の山際から南西のⅤ区側に向かって傾斜しており、調査区東端部は表土下30㎝ほどで地山のローム層となり、ここでは現代の畑の掘削痕が筋状に確認された。また、調査区中央付近ではローム層上に厚い黒色土の堆積が確認され、この層中で平安時代（10世紀後半）の竪穴住居跡１軒（１号住居跡）と焼土遺構１基が発見された。

一方、中央からやや西側にかけては大きく攪乱を受けていたが、南西側へ行くほど深くなり、調査区西端では地表下１ｍ前後に縄文時代から平安時代にかけての遺物包含層が60㎝ほど堆積しており、さらにその下層から奈良・平安時代の竪穴住居跡が３軒（２～４号住居跡）発見されるなど、遺構・遺物はこの一角に集中的に分布していた。

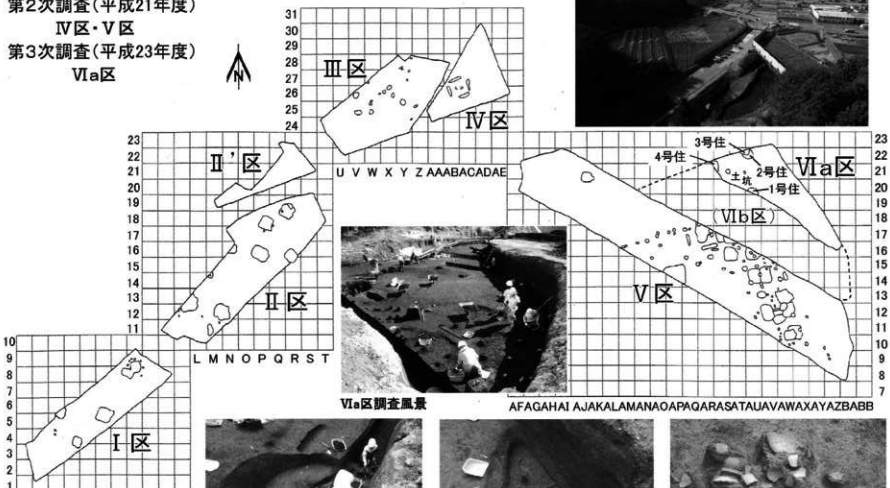
これらの住居跡からは、第１次・第２次調査同様にこの時代の甲斐国の特徴的な土師器「甲斐型土器」をはじめ須恵器や陶器が出土し、墨書・刻書も確認できる。包含層からは、土器の他に刀子や釘・鏃とみられる鉄製品や、網につける土製の錘なども出土している。

今回発見された住居跡は、Ⅴ区から帯状に続く集落（９世紀末～10世紀代）の一部であるが、このうち４号住居跡は、出土した土器から滝沢遺跡ではこれまでの調査を通じて最も古い時期（８世紀後半から９世紀初頭）のものであることが確認された。また、１・３・４号住居跡ではⅤ区同様カマドの遺存状況も良く、焼土が厚く堆積していた。

この他、近江系の平底甕を含む古墳時代前期の土器集中区や、Ⅴ区でも多数発見された中世以降とみられる直径1ｍ前後の正円形の土坑２基も発見された。搬入品とみられる近江系土器は、器形全体が復元できる県内でも貴重な資料であり、やはり古代の交通路が整備される以前から、人々の交流があったことを窺わせる。

今回の調査により、滝沢遺跡の山側北東端の状況を確認することができたとともに、４号住居跡の発見により、本遺跡の初現期の様相が見えてきた。次年度以降、残りの調査（Ⅵｂ区：987㎡）が予定されているが、Ⅴ区とⅥａ区の結果から、平安時代の住居跡がさらに数件存在するのは確実であり、これらを踏まえた上で集落の構造や変遷、さらには「河口駅」周辺の景観について改めて考える必要がある。

第1次調査（平成17年度）
Ⅰ区・Ⅱ区・Ⅱ'区・Ⅲ区
第2次調査（平成21年度）
Ⅳ区・Ⅴ区
第3次調査（平成23年度）
Ⅵa区



滝沢遺跡遺構配置図

Ⅵa区全景

Ⅵa区調査風景

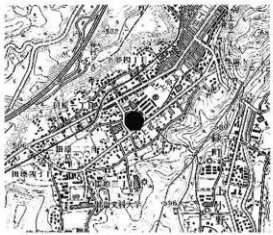
Ⅵa区2・3号住居跡

Ⅵa区4号住居跡

Ⅵa区古墳時代土器出土状況

1－13 三ノ側遺跡（さんのかわりいせき）

所 在 地　都留市上谷五丁目地内
事 業 名　県立産業技術短期大学分校整備事業
調査期間　2011年６月29日～12月26日
調査面積　約3,800㎡
担 当 者　依田幸浩・青木真一


三ノ側遺跡　位置図

三ノ側遺跡は、今回の調査地点の西側でスーパーマーケット建設（昭和56年調査）や区画整理事業（平成15年調査）に伴い都留市教育委員会によって発掘調査が行われ、奈良・平安時代の住居跡や土坑などが検出されている。昭和56年の調査では、皇朝十二銭の「和同開珎」や「富寿神宝」などが発見されており、古代の甲斐国における都留郡多良郷の中心地に近い遺跡であると考えられている。

今回の発掘調査は、事業予定地内の西側に三ノ側遺跡の一部が含まれていたため、５月に試掘調査を行い、その結果から遺跡の範囲を追加修正したうえで、遺跡該当部分にあたる約3,800㎡について調査を実施した。

調査の結果、奈良～平安時代（８世紀前半～９世紀前半）の竪穴住居跡13軒、掘立柱建物跡４棟、奈良～平安時代の土坑129基、溝状遺構７条、時期不明の土坑６基・溝状遺構29条などを発見した。

竪穴住居跡は、調査区の北西側に集中して分布する５軒（８世紀前半～９世紀前半）と南東側に集中する８軒（８世紀前半～後半）に分けられる。いずれの竪穴住居跡も住居内にカマドが設けられているが、北西側の５軒はすべて北側にカマドを持つのに対して、南東側では、北側にカマドを持つ住居跡（５軒）と東側にカマドを持つ住居跡（３軒）に分かれる。北西側の住居跡群では、出土遺物によって８世紀前半～９世紀前半にかけて複数の時期の住居が存在していたと考えられるが、南東側の住居跡群においては、出土遺物による８世紀前半～後半にかけての時期差だけでなく、カマドの位置による系統の異なる住居が存在していた可能性が考えられる。出土遺物では、甲斐型土器および須恵器の坏や甕の他、騎東型や相模型の土師器甕、都留郡西部を中心に出土する堀之内原タイプの甕、金属製品の刀子（とうす：小刀）などが見られる。

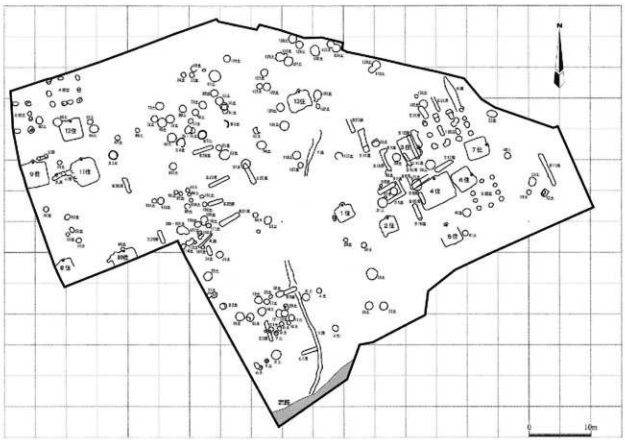
掘立柱建物跡も、調査区の北西側・南東側でそれぞれ２棟ずつ検出しており、住居跡の分布状況と類似している。北西側の２棟は、調査区端部で検出したため、規模が不明であるが、南東側は２棟とも２間×３間である。柱穴から少量の遺物が出土しており、奈良～平安時代の遺構であると考えられる。

土坑は、調査区全体から検出したが、調査区の2つに分けられる住居跡群の間に集中する傾向が見られる。土坑の規模は、直径0.5～２ｍほどで、直径１ｍ前後の土坑が大半を占める。土坑からの出土遺物は少なく、周辺から流入したと考えられる土師器の小破片程度の出土がほとんどであるが、奈良時代（８世紀前半）の堀之内原タイプの甕が出土した土坑や平安時代後半の青白磁の破片が出土した土坑などがあり、遺物の出土しない土坑に関しても概ね奈良時代から平安時代にかけての遺構であると考えられる。土坑については、遺物が少ないため、用途を断定できないが、土坑墓や食料の貯蔵穴などが考えられる。

溝状遺構は、調査区南西際から検出した流路から調査区の北側へ水を引くために掘られたと考えられる溝や底部にピット状のくぼみが並ぶ柵列の痕跡のような溝などを検出した。

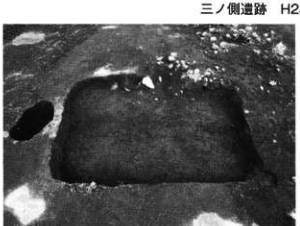
この他に、奈良・平安時代の遺構確認面より上層から掘り込まれた土坑および溝状遺構を検出した。遺構が掘り込まれた地層から江戸時代ごろと考えられるが、出土遺物がほとんど無く、用途などは不明である。

今回の発掘調査によって、三ノ側遺跡の範囲が従来推定されていたものよりさらに東側に広がることが判明したことは、古代甲斐国の都留郡における多良郷の位置を推定するうえで、重要な発見であったと考えられる。また、甲斐型土器とともに騎東型や相模型の土器が出土していることから、都留郡と甲斐国周辺地域との関係を解明していくための貴重な資料を提示しうる発掘調査となった。

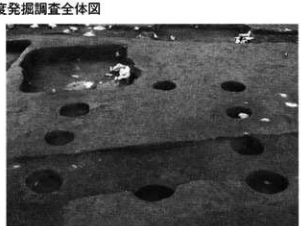


・住居内の●印はカマドの位置を示す

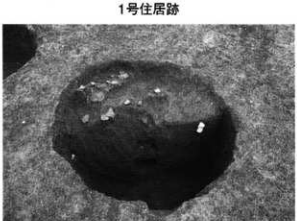
三ノ側遺跡　H23年度発掘調査全体図



1号住居跡



2号掘立柱建物跡



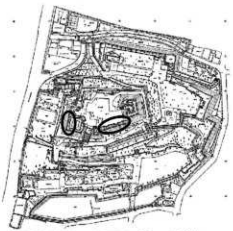
11号土坑遺物出土状況

1号溝

2　整備事業に伴う調査

2－1　県指定史跡甲府城跡（石垣整備事業）

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
事　業　名　舞鶴城公園石垣復元補修工事
調査期間　2011年4月1日～2012年3月31日
調査面積　850㎡
調査担当　宮里学・岩下友美



甲府城跡　位置図（施工地点）

県指定史跡甲府城跡はJR甲府駅に近接し、文禄慶長年間に築城された織豊城郭である。城内には天守台や本丸を始めとし、築城期の野面積みの石垣が良好に残る。

甲府城跡では、平成２年度から平成16年度まで県土整備部が舞鶴城公園整備事業として、変形や改変された石垣の修理等と、併せて鍛冶曲輪門、稲荷曲輪門、内松陰門、稲荷櫓の復元整備ならびに園路、広場、堀改修工事などを専門委員会の指導を受けながら実施した。

平成17年からは、未修理の野面積み石垣を対象に、強度や安全性を協議しながら、詰石の除却、補充など石垣の維持と安全確保を目的とした石垣補修工事を実施している。本年度は鉄門復元事業を背景に、見学時の主要園路にあたり、かつ変形の激しい本丸周辺石垣を施工対象とし、甲府城跡櫓門復元検討委員会石垣部会の指導を得て実施した。

事前調査と作業手順

対象石垣は、1590年代（文禄・慶長年間）の甲府城築城期の構築である。石垣としては、横目地の連続しない、野面積み石垣で、石質は安山岩である。石材は、長軸平均12cmを測る四寸矢穴による粗割が散見できるが、自然石が主体である。隅角部では稜線作出、築石部などでは縁辺部の調整加工が認められる。

現況は、天端部２段程度は平成の修理事業が実施されており根石部は、本丸南面石垣のみ岩着していることが部分的に確認できた。隅角部は、石材破損や内部の空洞化が目立ち、築石部も詰石の欠落が多くみられる。変形は、本丸西面石垣でかなり激しい傷みや石材破損が観察できた。作業は、事前測量の後、仮設足場を設置し、番付、事前写真記録、石垣の目地などの清掃、施行前調査、個別施工方法の検討、施工、施工後の確認、記録（施工地点ごとの個別カード）を教委監督員が常駐のうえ各段ごとに実施した。

本丸南面

当該石垣は、石材破損や落石による空洞化、局所的な傷みが認められるものの、事前の３次元測量図を見ても不安定さを感じる勾配の歪みや孕み出しはない。また、暗渠が２か所で確認され、雨水などが集中する石垣と想定したが、排水と目詰まりに起因する変形は目視では確認できなかった。本丸南面中央部では、詰石の欠落や裏栗石の流出による空洞化を補う施工が大半となり、概ね上段よりも下段で施工数が増えた。施工箇所は808か所に及んだが、内53％が不安定な配石であり、40％の詰石等が既に欠落していたため補った。また、施工に当たっては震災による被害事例を踏まえ、小割片を詰石の落下抑止のため楔状に使用する方法を極力抑えつつ、控えの長い材料を選定し、重心を石尻側に置くことで安定化に努めた。

本丸西面

当該地点の石垣は高さ10.5mを測るが、孕み出しが極端に激しく、根本的には解体修理対象との評価もある。孕み出しは、いわゆる鏡石と呼ばれる控えの無い巨石を中心に発生し、この地点は特に巨

石が多いことが傷みの激しさに繋がったといえる。施工に当たっては、従来の工法では、十分な効果が期待できず、むしろその後の変動により孕み出しを増長させる危険性もあると判断されたため関係部局、技術者、部会とも協議しながら、施工結果に有効性が考えられる部分のみ実施した。この際、復元性よりも暫定的な補強に重点を置き、併せて石垣前面の平場に転石防止策等の設置をした。このような状況から、特に激しい孕み出しなどのため補修を実施しなかった部分も多数あり、従来の施工と同等の効果が得られるかは単純に比較はできない。

本丸西面石垣の施工前（南西より）

左同の施工後（南西より）

本丸南面石垣の東側施工前

左同の施工後

本丸南面石垣（西より）

石垣部会指導の様子

施工前の現地協議

施工の状況

2－2　県指定史跡甲府城跡（鉄門復元整備事業）

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
事　業　名　鉄門復元整備事業
調 査 期 間　2011年4月1日～2012年3月31日
対 象 面 積　約67㎡（建築面積）
担　当　者　宮里学・岩下友美

甲府城跡鉄門復元整備箇所　位置図

甲府城跡は、文禄慶長年間に築城された織豊城郭である。明治６年の廃城後、中央線の敷設等により城郭の規模が縮小されたが、城内には築城期の野面積みの石垣が良好に残り、県指定史跡となっている。平成2年度から平成16年度まで県土整備部が舞鶴城公園整備事業を実施し、これに併せて城内の発掘調査、石垣修理、建造物復元を行ってきた。

昨年９月から着工した県指定史跡甲府城跡鉄門復元整備事業は、築城当初から明治初年まで本丸の南側に存在していた鉄門を、中心市街地活性化、展示交流施設等の目的で平成25年度までに完成させ、山梨県で開催される国民文化祭に合わせて公開する予定である。

本年度の経過

本年度は、H鋼補強材の施工から始まった。RC基礎やH鋼等の補強材は、建築基準法を遵守し、甲府城跡櫓門復元検討委員会の指導を受け検討を進めた。補強材については、復元整備に必要不可欠な要素であるため露出すべきという考えと、景観への配慮から遮蔽すべきとの考えがあり、H鋼に沿わせて可動式の格子を設置するなど、メンテナンスにも配慮した方法を検討している。

補強材設置後、柱、梁等の部材を据え付け小屋組みまで完了し、木工事は一段落した。大型木材の搬入後、部材保護のため覆屋を設置した。覆屋は平成24年末まで設置予定であり、設置期間中は一部のアクリルパネルから内部の様子が分かるようになっている。

木工事後は、左官工事、屋根工事が同時進行で開始された。左官工事は軒先の小舞かき、荒壁つけ、裏返し、斑直しを行った後、2階壁面への小舞かき、荒壁つけまで終了した。屋根工事は野地板を張った後、厚さ2～3mmの杉板を竹釘で張り付ける土居葺きが行われた。奈良県の瓦工場では復元瓦の製作が開始され、城内出土品を基に瓦の復元作業を行っている。鯱瓦、鬼瓦、軒平瓦や軒丸瓦の瓦当面の意匠においては現地で建造物部会を開き、委員の指導を受け、より歴史観に沿った復元瓦となるよう検討を重ねている。

また、工事の進捗により部会を開催し、建造物部会、保存活用部会では安全対策等も議題とし、公開に向けた付帯工事の検討も進めている。

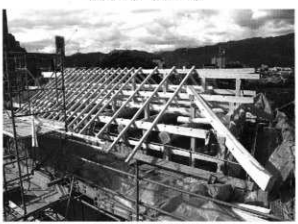
鉄門復元想定図（南より）

史料調査

基礎研究のため史料調査も昨年度から継続して行い、本年度は復元検討委員同行のもと甲斐国志草稿本の調査の他、他県博物館や文書館への調査も実施している。

鉄門全景（南より）

補強材設置後（西側）



木工事（小屋組み）

左官工事（軒下裏返し）

建造物部会による鯱瓦検査（奈良県）

櫓門復元検討委員会現地視察

史料調査の様子（個人宅）

工程会議の様子（現場事務所内）

3　分布調査

山梨県内山岳信仰遺跡分布調査

3－1　北口本宮冨士浅間神社社有地

所　在　地　富士吉田市上吉田5558番地
調査期間　2011年5月16日～23日
調査面積　15㎡
担　当　者　野代恵子・古郡雅子（以下の調査も同じ）

北口本宮冨士浅間神社は、富士山登山道のうち吉田口登山道の起点となる神社である。社有地は、日本武尊伝説をもつ大塚丘があるなど、古くから富士山を遥拝する神域であったと伝えられるが、記録では『勝山記』の文明12年（1480）の条にある「富士山吉田鳥居（取井）立」が最も古い記事である。下って永禄4年（1561）に東宮本殿、文禄3年（1594）に西宮本殿、元和元年（1615）には本殿がそれぞれ建立されて、17世紀半ばには浅間神社の社殿が整備されたといわれる。その後享保年間には、富士講の指導者である村上光清の大改修により、現在の境内の景観が成立した。このように、この地が古くから現在に至るまで、信仰拠点として継続的に重要な役割を果たしていることは明らかである。

今回の調査目的は、境内の地中レーダー探査で反応があった箇所で、試掘確認調査を実施して、鐘楼堂の基壇部分を確認するとともに、鐘楼堂が建立された時期を探ることである。調査に先立ち、対象地の地表面を精査し、その後トレンチを設定して掘り下げを行った。調査地の西側では地表下60cmほどのところに安定した粘土質の地盤層が残されていた。この土層の直上で石と遺物が確認されたことから、この土層面に一時期の生活面があったものと考えられるが、その時期の特定までには至らなかった。基本的な層序は、地表下約120cmで地山層となり、これより上は江戸時代の遺物を含む盛土である。この盛土中には、享保年間の大改修による盛土も含まれているものと考えられる。地表に近い部分の盛土層には、明治期以降の遺物やガラス片も混在し、新しい段階でも土の移動があったことが伺える。

今回の調査目的である鐘楼堂の基礎等は残存しておらず、地中レーダー探査で反応があったのは、大正3年に行われた随神門の大改修に伴う整地の痕跡であったことを確認された。さらに、享保年間の大改修によって、それ以前の土地が大きく改変されている可能性を示唆するデータを得ることができた。

北口本宮冨士浅間神社　位置図

北口本宮冨士浅間神社　作業風景

北口本宮冨士浅間神社　灯明皿出土状況

北口本宮冨士浅間神社　遺物出土状況

3－2　河口浅間神社社有地

所　在　地　南都留郡富士河口湖町河口1番地
調査期間　2011年5月23日～6月6日
調査面積　22㎡

河口浅間神社が鎮座する川口の地には、古代官道の東海道から甲斐国衙に向かう甲斐路に置かれた「河口駅」があったとされるのが通説であり、この神社が鎮座する川口は古代より交通の要衝であった。『日本三代実録』には、「貞観６年（864）に大噴火が起こり富士山麓に甚大な被害をもたらしたのをきっかけに、貞観７年（865）に甲斐国八代郡に浅間神社がつくられた」と記されている。この甲斐国最初の浅間神社の所在地については諸説あるが、『甲斐国志』は河口浅間神社に比定している。本神社は貞観の大噴火を起こした富士山西麓の側火山群を一望できる位置に鎮座しており、またこの地が江戸時代以前は八代郡域に属していたことからも、河口浅間神社が甲斐国最初の浅間神社である可能性は高い。今回の調査目的は、現河口浅間神社が『日本三代実録』にいう甲斐国最初の浅間神社が建立された場所であるのかを検討するため、神社の創建時期にあたる遺構や遺物が現在の鎮座地周辺に残されているかを確認することにある。具体的な調査は、社務所より一段低い場所であるＡ地区、本殿の裏側の尾根上のテラスであるＢ地区についてトレンチ調査を実施した。なお、本殿わきの地区も調査予定に含めていたが、この地区は県の天然記念物である七本杉の内の２本に近接するため、掘削による杉への負担を検討して、調査対象地区から除外した。Ａ地区については、地表下約50㎝までは造成土が見られ、その下は、地表下約150㎝より深くなると砂礫層であることを確認した。この造成土中から陶磁器片・土器片が数点確認された。Ｂ地区についてもトレンチを設定して掘下げを行ったが、鉄製品１点の他は目立った遺物は確認されなかった。石を集めた集石状の遺構が１基確認された。周辺では石の出土はほとんど見られないため、何らかの意図があって石を集めた可能性もある。Ｂ地区の基本層序は、地表下約160㎝までが水平堆積、それより下部が地山であり、大きな改変等がなされていないと考えられる。

調査の結果、今回の調査地では、神社に関わる遺構等を確認することはできなかった。

河口浅間神社　位置図

河口浅間神社　作業風景

河口浅間神社　集石状遺構

３－３　行者平遺跡（大善寺行者堂跡伝承地）

所　在　地　笛吹市御坂町上黒駒御坂山6752番地
調査期間　2011年６月８日～14日
調査面積　26㎡

甲府盆地から駿河方面に向かう鎌倉街道（鎌倉往還・御坂路）は、御坂山系から流れ下る金川を遡りながら御坂峠に向かっている。行者平は、この街道が藤野木から右に折れて支流の川沢川を遡って左岸から右岸に渡ったところに位置する。この場所はその地名が示すように、甲州市勝沼町にある名刹、柏尾山大善寺に伝わる鎌倉時代後期の役行者像を納めた行者堂があったと考えられる場所である。現地は、旧鎌倉街道を挟んで34ｍ×18ｍほどの平坦地が広がる場所である。平坦地の一部に

行者平遺跡　位置図

は自然石が露頭し、その上に役行者像、前鬼像、後鬼像の３基の石造物が祀られている。露頭する自然石の前あたりには、まわりよりもわずかに高い平らな部分があり、ここに行者堂があったものとも想定されたため、トレンチを設定した。

調査の結果、この周囲よりもわずかに高い部分には、黄褐色細砂が敷かれていた。この15cmほどの細砂層を除去すると、その下には江戸時代の陶磁器片のみを包含する面が現われ、礎石状の石等も残されていた。また、焼土や炭化物の堆積も部分的に見られた。ただし、礎石状の石や焼土等は元位置を留めていないことから、ある段階で小規模な土地の改変がなされたものと考えられる。またそれより下の地表下約80cm～１mの位置では、中世のかわらけや須恵器を包含する層が見られた。この層に伴う遺構等は発見されなかった。中世の包含層を取り去ると、その下は一面の礫層であった。

今回の調査により、行者堂の遺構そのものは確認されなかったものの、この行者平と呼ばれる場所には、江戸時代と中世という２時期の面があることが確認された。また江戸時代の遺構面での出土遺物には鉄釘が含まれていることからこの場には何らかの建物があったものと考えられる。

行者平遺跡　作業風景

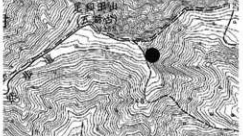
行者平遺跡　作業風景

３－４　行者屋敷遺跡（蓮華寺奥の院伝承地）

所　在　地　　南都留郡鳴沢村8512番地
調査期間　　2011年６月22日～23日
調査面積　　７㎡

大同山蓮華寺は、富士河口湖町大嵐に所在する日蓮宗の寺院であり、今回の調査対象地は、かつてその奥の院があったと伝えられる場所である。『甲斐国志』には「檀ノ山ノ内南乞山ノ上ニアリ少シ平地ナル所礎石存セリ其辺ニ小池アリ麗水常ニタタヘテ旱魃ニモ涸ルコトナシ往昔ハ山伏ドモ此山ニ参籠シ行法ヲ修シケルトゾ」と記載されている。大田和の集落から40分ほど山を登った尾根の鞍部に削平地があり、礎石が数個残存している所があるが、この場所が『甲斐国志』にいう場所と考えられる。この礎石がある平坦地から少し下った所には、榛名池と呼ばれる湧水地点があり、川のない周辺地域にとっては、かつては貴重な水源のひとつであったと考えられる。ここでは近年も雨乞いが行われている。今回の調査目的は、第一に蓮華寺奥の院伝承地とされるテラスについて、残されている礎石の配置や規模を確認することである。またあわせて試掘確認調査を実施し、この場が使われていた時期について考えるデータを得ることである。このテラスには礎石らしき石が残されていたが、埋没しているものもあると想定されたことから、まずはこれら石の並びについての確認調査を行った。その結果、猪等に荒らされて元位置を留めていないものもあるが、二間×二間程度の礎石の並びが確認された。また、この清掃発掘中に近世の灯明皿片１点が確認された。さらに礎石の間にトレンチを設定し、

行者屋敷遺跡　位置図



行者屋敷遺跡　礎石検出状況

掘り下げを行ったが、遺物・遺構等は発見されなかった。掘り下げの結果、地表下20～40cmで黄褐色の地山があらわれ、堆積土がそれほど厚くないことが確認された。

調査の結果、礫石と近世の灯明皿が発見されたが、それより古い時期の遺構・遺物は確認されなかった。周囲にはこれほど石が集中する場所はないため、石が人為的に並べられた可能性が高く、何らかの建物があったものと考えられるが、出土遺物がほとんどないため、建物がどんな性格をもっていたのか、またそれが機能していた時期等については不明である。

行者屋敷遺跡　灯明皿出土状況

3－5　宮ノ上遺跡

対　象　地　南都留郡富士河口湖町河口字宮ノ上1215－1番地
作　業　期　間　2011年6月29日
調　査　面　積　2㎡

河口浅間神社の北方の丘陵地に「御墓」と呼ばれる場所がある。石造物４基が並ぶ２×５mほどの平坦地であり、その背後にも平坦地が広がっている。この場所からは、目前に河口湖を、その向こう側には貞観６年（864）の大噴火で熔岩を噴出し、甲斐国最初の「浅間明神祠」を祀るきっかけとなった、富士山西麓の側火山を正面に眺めることができる。『浅間神社正史』等によると「御墓」は、河口浅間神社の初代祝の伴真貞の墓所とされている。現地には方形の石造物３基と笠付きの円柱形石造物１基が置かれており、前者には「神主宮下」、後者には「神主藤原布好霊爾」「寛政九年丁巳秋八月十有二日」の文字が記されている。「御墓」の性格については調査が実施されたことがないため不明であるが、寛文段階の検地帳等によると今よりもはるかに広大な境内地を有していたことから、「御墓」の場所ももとは境内地の一部であったものと考えられる。

今回の調査目的は、河口浅間神社に縁の深い「御墓」の近接地の試掘確認調査を行い、河口浅間神社がもつ歴史的履歴についての手がかりを得ることである。調査は、80cm×２mのトレンチを１本設定し掘り下げを実施した。その結果、約10cmの表土を取り除くと、その下に①約30cmの暗褐色土、その下に②約25cmの暗茶褐色土、その下に③約40cmの暗褐色土の堆積が見られた。①層からは近世の陶器片が出土し、③層の下部からは内面に二次的な被熱を受け、金が付着した陶器片、平安時代の土師器片が出土した。この③層には焼土粒・炭化物粒が含まれていた。今回の調査は、トレンチ１本の掘削であった為、遺構は確認されず、また出土した遺物量も少なかったが、神社創建期にあたる平安時代の土師器片が出土していることから、周辺には該期の遺構が眠っている可能性が高い。また金が付着した陶器片という特殊な遺物が出土していることから、遺跡の性格についても特殊性が窺える。

宮ノ上遺跡　位置図

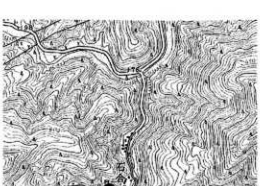
宮ノ上遺跡　調査地全景

宮ノ上遺跡　作業風景

4　県内分布調査

4－1　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字石合19456地内外
調 査 期 間　2011年5月23日～26日
調 査 面 積　158㎡（調査対象面積3,300㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一


試掘調査　位置図

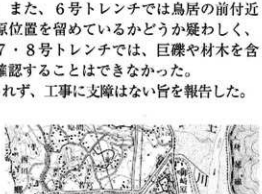
中日本高速道路株式会社による事業予定地一帯には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、1551年（天文20）の勧請とされる墓（まく）神社が含まれる地域であることから、埋蔵文化財の有無を確認するため、対象地に北から長さ11～20m、幅1mのトレンチを8本設定し重機により掘削し、平面及び断面観察を行った。調査地は、墓神社のある山裾から南側を流れる長瀞沢川に向かう緩斜面にあり、地籍図には神社へ通じる参道が確認できるが、現在は盛土等により造成されS字カーブの道路が通っている。

山裾にある神社の東側に設定した1号トレンチでは、地表下30～50cmほどで堅くしまったローム層となり、この間に遺構・遺物を確認することはできなかった。神社下に設定した4号トレンチにおいても同様の堆積状況であった。1号トレンチの南側は石垣があり一段低く宅地として造成されているが、設定した2・3号トレンチで確認された層位は、いずれも砂礫を多く含む盛土や撹乱等による埋土層であった。神社の鳥居前に設定した5・6号トレンチでは、いずれも材木や巨礫を伴った盛土であり、5号トレンチでは下層のローム層も撹乱を受けていた。また、6号トレンチでは鳥居の前付近で参道の石畳の可能性があるやや平らな石が確認されたが、原位置を留めているかどうか疑わしく、5号トレンチでは全く確認できなかった。道路下に設定した7・8号トレンチでは、巨礫や材木を含む盛土が確認されており、この地点においても遺構・遺物を確認することはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域には埋蔵文化財は発見されず、工事に支障はない旨を報告した。

4－2　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町柳島地内
調 査 期 間　2011年6月1日～3日
調 査 面 積　874㎡（調査対象面積20,378㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一


試掘調査　位置図

国土交通省による事業予定地は、西側の山地から東流し富士川へ合流する戸栗川の左岸に広がる氾濫原にある。一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、水田地帯である現集落の平坦地が広範囲に及ぶことから、埋蔵文化財の有無を確認するため、対象地に長さ15～25m、幅約2mのトレンチを17箇所設定し重機により、長さ1m、幅1mのトレンチを24箇所設定し人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。なお、北側の台地上には、本事業に伴い調査が行われた本郷原間遺跡のほか、縄文時代から近世にかけての遺跡が所在する。

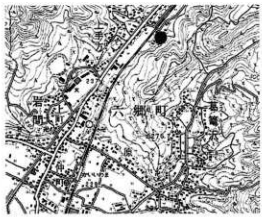
調査区域は、県道釜の口塩沢線を挟んで大きく南北に分かれる。北側に設定した1～22号トレンチでは、地表下30cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積するが、その直下から氾濫による砂礫層となり、この間に遺構・遺物は全く確認することはできず、北側の山裾まで続くものと見られる。県道南側においても同様の状態であり、微高地状になっている県道沿いに設定した23～27号トレンチにお

いても、地表下でほどなく砂礫層となった。さらに、戸栗川に近い南側ほど砂礫層に巨礫が含まれる傾向が窺え、28～31号トレンチ間では砂礫層と砂層が互層になっており、この区域においても遺構・遺物を確認することはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域には埋蔵文化財は発見されず、工事に支障はない旨を報告した。

4－3　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　西八代郡市川三郷町岩間字一の坪291地内外
遺　跡　名　一の坪遺跡
調査期間　2011年6月6日・8日・13～15日
調査面積　282㎡（調査対象面積約6,500㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一



試掘調査　位置図

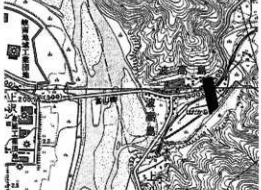
中日本高速道路株式会社による事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川の左岸にあり、同川に沿って中世の駿州古往還（県道市川三郷身延線）が走っているが、今回の予定地内の東側にかかる一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地「一の坪遺跡」（中・近世）の範囲に含まれることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、対象地に長さ15～25m、幅約1.2mのトレンチを11箇所設定し重機により、また長さ1m及び6m、幅1mのトレンチを21箇所設定し人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査区域は、一の坪遺跡にかかる山側の緩斜面（1～15号トレンチ）、JR身延線沿いの低地（20～26号トレンチ）、北東側の区域（16～19・27～32号トレンチ）の大きく3地点に分かれる。山側に設定した1～15号トレンチでは、地表下10～30cmほどでローム層となり、この間に遺構・遺物は全く確認することはできなかった。用地内には江戸幕末頃の墓石が遺されているが、墓に関するものも発見されなかった。最も低地部分に設定した20～22号トレンチでは、表土下でほどなくローム層となった。厚く安定した堆積で地表下1.5m過ぎの青灰色粘土層まで続くが、この地点においても遺構・遺物を確認することはできなかった。23～26号トレンチを設定した地点は建物があったため、盛土や撹乱等の埋土により層位は旧状を留めておらず、今回試掘できなかった中央部分も同様の状況が想定される。北東側の区域も撹乱を多く受けていたが、19・31・32号トレンチのローム層の直上から土師器片や近世以降の磁器片がわずかに出土したものの、上層の撹乱や埋土による混入の可能性は否定できず、遺構も確認することができなかった。27・28号トレンチは斜面にあり、山側と同様の土層堆積状況であった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域に一の坪遺跡の範囲は捉えられず、工事に支障はない旨を報告した。

4－4　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町波高島地内
遺　跡　名　常葉川堤防遺跡
調査期間　2011年6月22日～27日
調査面積　33㎡（調査対象面積4,335㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一



試掘調査　位置図

国土交通省による事業予定地は、西側を南北に流れ富士川へ合流する常葉川左岸の沖積地にあり、埋蔵文化財包蔵地

「常葉川堤防遺跡」の範囲に含まれ、用地の南東側・南西側に接して住宅地と田畑の中に取り残された堤防があることから、遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、対象地に長さ１～３m、幅１mのトレンチを25箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査区域は、ＪＲ身延線・国道300号を挟んで大きく南北に分かれる。南側の常葉川現堤防沿いに設定した１～３・６号トレンチでは、地表下15～20cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積するが、その下層は氾濫による砂層・砂礫層となり、この間に遺構・遺物は全く確認することはできず、身延線と常葉川の間を走る町道南側沿いに設定した４・５・７号トレンチにおいても同様の状況であった。町道北側沿いは、旧堤防の石積みが想定され、８号トレンチでは地表下20cm前後で15～30cm大の礫がややまとまって確認されたため、トレンチを東西に拡張してみたが、石の並びは明確なものではなかった。９～12・15・16号トレンチにおいても状況は変わらず、山側に近い17～20号トレンチでは、黄褐色粘土層の堆積が見られたが遺構・遺物は確認されなかった。今回試掘できなかった身延線沿いと国道の北側部分も同様の状況が想定され、山側に設定した21～25号トレンチでは、地表下20cmほどで堅くしまったローム層となり、この地点においても遺構・遺物は全く確認できなかった。

一方、現存する旧堤防の延長線上に設定した13・14号トレンチでは、地表下 20cm前後で堤防の川裏側の石積みの石材と見られる石がまとまって発見されたため、両トレンチを拡張したところ、ほぼ南北方向に石積み列として改めて確認された。攪乱等により裏込め石や堤体の構造は不明であるが、石の間や埋土中から近代以降の磁器片などがわずかに出土し、中には江戸期に遡るものも見られる。しかし、石積みの石にはコンクリートが付着したものが認められることから、明治末以降の構築時期が想定できるが、堤防構築当初からコンクリートが使用されたのか、後にコンクリートで補修されたのか、今回の試掘では明確にはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、対象地の一角に常葉川の旧堤防の石積み列が確認されたため、工事着手前に230㎡の本調査が必要となる旨を報告した。

４－５　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字竹ノ沢21628－1地内外
遺　跡　名　竹ノ沢遺跡
調 査 期 間　2011年７月４日～７日
調 査 面 積　369㎡（調査対象面積約10,900㎡）
担　当　者　小林健二

試掘調査　位置図

中日本高速道路株式会社による事業予定地は、西側の山地から東流し富士川へ合流する福士川の右岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地「竹ノ沢遺跡」（中・近世）の範囲の南側に接しており、水田地帯である現集落の平坦地が広範囲に及ぶことから、埋蔵文化財の有無を確認するため、対象地に長さ10～25m、幅約1.2mのトレンチを15箇所設定し重機により、また長さ・幅１mのトレンチを９箇所設定し人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。

県道高瀬福士線を挟んで北側の山裾に設定した１～７号トレンチ一帯は、水田を埋めた表土及び礫層が地表下60cm前後まで堆積する。山側の１～５号トレンチではローム層が確認できるが、６・７号トレンチあたりからは氾濫による砂礫層となり、この間に遺構・遺物は全く確認することはできなかった。

一方、８号トレンチにおいては、地山層は確認できず、表土下は砂質土や砂礫を多く含んだ粘土層であり、南の10号トレンチへ行くほど、大きな礫を含む砂礫層となった。県道すぐ北側の11～13号トレンチにおいても、水田の耕作土及び床土の直下で砂礫層となり、遺構・遺物は確認されなかった。県道から南側においても同様の状況であり、盛土された14・15号トレンチ以外は地表下でほどなく砂礫層となり、この区域においても遺構・遺物を確認することはできなかった。用地内の中央部分は今

回試掘できなかったが、同様の状況が想定される。
以上の試掘調査の結果から、当該区域に竹ノ沢遺跡の範囲は捉えられず、工事に支障はない旨を報告した。

4－6　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字真篠地内
遺　跡　名　前田遺跡
調査期間　2011年7月13日～21日
調査面積　238㎡（調査対象面積4,829㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一

試掘調査　位置図

国土交通省による富沢インターチェンジアクセス道路建設予定地は、真篠集落のある台地の南側にあり、予定地内一帯が周知の埋蔵文化財包蔵地「前田遺跡」（縄文）の範囲に含まれるほか、南側には仲間遺跡（縄文・中世）が隣接する。また、集落を挟んで北側には真篠遺跡（縄文）や、中世後半に築かれた県指定史跡真篠城跡がある。このような立地にあることから、前田遺跡の広がりや遺構・遺物の有無を把握するため、対象地に長さ5～20m、幅約1mのトレンチを23箇所設定し重機により、長さ1m、幅1mのトレンチを5箇所設定し人力によりそれぞれ掘削し、平面及び断面観察を行った。調査区域は、かつては北から南へ緩やかな傾斜で広がっていたと思われるが、後世の開発等により現在は町道を挟んで東側一帯は用地南側の境界から北（用地内）に崖状に落ち込んでいる。そして、1・2号トレンチ付近が最も低く、西側（町道側）に向かって階段状に造成され、田畑として耕作されていたと見られる。

1～4号トレンチでは、地表下10～15cmほどですぐに地山層となり、5～10号トレンチでは青灰色の粘土層をはじめ粘性の強い土層堆積が確認され、8号トレンチでは湧水があった。11～16号トレンチでは再び地山層が確認されたが、この間のいずれのトレンチからも遺構・遺物を確認することはできなかった。町道西側（17～23号トレンチ）においても、地表下20cmほどでほとんどローム層となり、この区域においても遺構・遺物は全く確認することはできず、東側台地上に設定した24～28号トレンチにおいても同様の状態であった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域に前田遺跡の範囲は捉えられず、工事に支障はない旨を報告した。

4－7　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　西八代郡市川三郷町岩間字原754地内外
調査期間　2011年7月25日～27日
調査面積　17㎡（調査対象面積5,500㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一

試掘調査　位置図

中日本高速道路株式会社による事業予定地は、北側の山地から南流し富士川へ合流する山田川・葛籠沢川に挟まれた地域にあり、一帯には周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、この区間が傾斜地から平地にかけて広範囲に及ぶことから、埋蔵文化財の有無を確認するため、対象地に長さ1m、幅1mのトレンチを17箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査区域は、北西山側の緩斜面の畑地部分（1～9号トレンチ）、町道沿いの宅地部分（10～13号

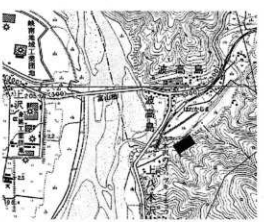
トレンチ）、北東山側の緩斜面（14～17号トレンチ）の3地点に分かれる。いずれのトレンチにおいても、粘性・しまり共に極めて強い土層堆積であった。

1～9号トレンチでは、地表下30cm前後で地山層となり、遺構・遺物は全く確認することはできなかった。10～16号トレンチ一帯は盛土により造成されており、地山層に至るまで遺構・遺物を確認することはできなかった。17号トレンチも北西山側と同様の土層堆積状況であり、遺構・遺物が存在する可能性はないと思われる。

今回の試掘調査においては、遺構・遺物は確認されなかった。しかし、対象区域内には引き渡しが完了していない用地が多く、今回の人力による調査だけでは不十分であり、今後用地の引き渡しが進んだ段階で、改めて試掘を行う必要がある旨を報告した。

4－8　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町上八木沢地内
調 査 期 間　2011年8月3日・4日
調 査 面 積　25㎡（調査対象面積約8,000㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一



試掘調査　位置図

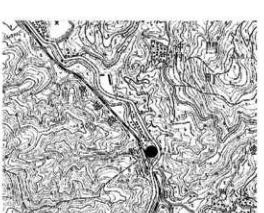
国土交通省による身延インターチェンジアクセス道路建設予定地は、北東の山地から南流し富士川へ合流する常葉川左岸の段丘上の山林にあり、標高228m前後を測る。周辺には古代から中世にかけての埋蔵文化財包蔵地は知られていないが、常葉川沿いでは近世には富士川舟運に参加した波高島河岸や、明治期には富士川運輸会社の分社が置かれていた。そして、この常葉川沿いの住宅地や田畑の中に堤防が遺されており、「常葉川堤防遺跡」として周知されている。富士川への合流地点の手前にある事業予定地一帯が、常葉川に面して台地状に広がっていることから、埋蔵文化財の有無を把握するため、対象地に長さ1m、幅1mのトレンチを25箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

調査地は、東側（山側）から緩やかに傾斜しているが、西側は常葉川に浸食され、南側は谷になっている。いずれのトレンチにおいても、厚さ5～20cmほどの表土（腐植土）の直下に礫を含んだ明褐色～にぶい黄色の堅くしまった地山層が検出され、いずれのトレンチからも遺構・遺物は全く確認することはできなかった。

以上の試掘調査の結果から、当該区域には埋蔵文化財は発見されず、工事に支障はない旨を報告した。

4－9　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　西八代郡市川三郷町黒沢字洗平2150－5地内外
調 査 期 間　2011年9月14日・15日
調 査 面 積　18㎡（調査対象面積約2,200㎡）
担　当　者　小林健二・永田亮一


試掘調査　位置図

中日本高速道路株式会社による事業予定地は、山間を北流し富士川へ合流する新川右岸一帯に広がる緩斜面にあり、標高290m前後を測る。新川に沿って走るＪＲ身延線と県道市川三郷身延線に挟まれたこの一帯には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、この区域が河川に面した緩斜面

という立地にあることから、埋蔵文化財の有無を確認するため、対象地内に長さ１m、幅１mのトレンチを18箇所設定し人力により掘削し、平面及び断面観察を行った。

ＪＲ身延線沿いの平地に設定した１号トレンチでは、地表下30cmほどで小礫を含んだ砂質土層となった。新川の氾濫による砂礫層が山裾まで続いているものと見られ、地山層まで明確に確認することができなかったが、この部分において遺構・遺物が存在する可能性はないものと思われる。２～18号トレンチでは、いずれも粘性・しまり共に極めて強い土層堆積が見られ、このうち２・５・９・17・18号トレンチでは、地表下30cm前後で地山層となり、遺構・遺物は全く確認することはできなかった。３・４・６～８・10～16号トレンチでは、表土層と地山層の間に黒色や鈍い褐色系の粘土層の堆積が確認されたが、遺構・遺物は確認することはできなかった。

今回の試掘調査においては、遺構・遺物は確認されなかった。しかし、対象区域内で引き渡しが完了していない部分において土器片の散布が見られることから、この部分については今後用地の引き渡しが完了した段階で、改めて試掘を行う必要がある旨を報告した。

４－10　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町帯金地内
調 査 期 間　2011年10月18日
調 査 面 積　約８㎡（調査対象面積約520㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する入之沢川の左岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地である東林庵遺跡（寺院跡）に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約1.0～2.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～1.0mのトレンチ（試掘溝）を６箇所(１Ｔ～６Ｔ)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm～80cmまでは第１層（表土層：黒褐色土層）、第２層（水田層：暗褐色土層）、第３層（床土層：暗黄褐色土層）が堆積し、その下層は入之沢川による河川堆積層となる第４層（暗灰褐色砂礫層）、第５層（暗灰色礫層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

４－11　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町帯金泥の沢地内
調 査 期 間　2011年10月19日
調 査 面 積　約４㎡（調査対象面積約1,581㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する泥之沢川の左岸に広がる河岸段丘上にあり、周知の埋蔵文化

財包蔵地である泥の沢A遺跡（中世～近世）に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.4～0.9mのトレンチ（試掘溝）を4箇所(1T～4T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm前後までは第1層（表土層：黒褐色土層）、第2層（水田層：暗褐色土層）、第3層（床土層：暗黄褐色土層）が堆積し、その下層は泥之沢川による河川堆積層となる第4層（暗灰褐色砂礫層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

4－12　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町和田樋之上地内
調 査 期 間　2011年10月19日～20日
調 査 面 積　約5㎡（調査対象面積約1,150㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現水田地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年4月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.6m前後のトレンチ（試掘溝）を5箇所(1T～5T)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30cm前後までは第1層（表土層：黒褐色土層）、第2層（水田層：暗褐色土層）、第3層（床土層：暗黄褐色土層）が堆積し、その下層は地山層となる第4層（暗灰褐色砂礫層）、第5層（暗灰色礫層）、第6層（褐色砂層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

4－13　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町大島地内
調 査 期 間　2011年10月20日
調 査 面 積　約3㎡（調査対象面積約1,750㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する長戸川の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、水田地帯である現集落の平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川

国道事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

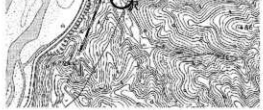
今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.6m前後のトレンチ（試掘溝）を３箇所(１Ｔ～３Ｔ)設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下35cm前後までは第１層（水田層：暗灰黄色粘質土層）、第２層（床土層：にぶい黄褐色粘質土層）が堆積し、その下層は長戸川による河川堆積層となる第３層（黄灰色砂礫層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

４－14　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町上八木沢地内
調 査 期 間　2011年10月21日
調 査 面 積　約７㎡（調査対象面積約1,050㎡）
担　当　者　保坂和博


試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、東側の山地から西流し富士川へ合流する不動沢川の右岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現水田地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約1.0m、幅約1.0m、深さ約0.5～0.7mのトレンチ（試掘溝）を７箇所（１Ｔ～７Ｔ）設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約40～50cmまでは水田の耕作土及び床土がそれぞれ２面ずつ堆積し、その直下から不動沢川の氾濫による砂礫層の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

４－15　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町帯金塩之沢地内
調 査 期 間　2011年10月25日～26日
調 査 面 積　約51㎡（調査対象面積約4,250㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地は、東側の山地から西流し富士川へ合流する椿川の右岸に広がる氾濫原と塩之沢が合流する地域にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地である塩之沢遺跡（縄文）に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（中部横断自動車道推進室）、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月20日に実施した

現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約3.2～6.5m、幅約0.8m、深さ約0.5～0.9mのトレンチ（試掘溝）を14箇所（１Ｔ～14Ｔ）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、椿川の氾濫原（１Ｔ～７Ｔ）と塩之沢（８Ｔ～14Ｔ）で異なる状況である。１Ｔ～７Ｔでは、表土下30cm前後までは水田の耕作土及び床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層となる。８Ｔ～14Ｔでは、地表下50cm前後までは畑層（表土層）及び旧水田層（第２層）が堆積し、その下層は塩之沢による河川堆積層の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

４－16　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字平地内
調査期間　2011年11月２日・４日、2012年１月19日～23日
調査面積　約110㎡（調査対象面積約2,000㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、地元では臨済宗古寺の伝承地として知られており、また現茶畑や竹林地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月19日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

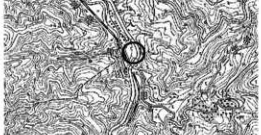
今回の試掘調査では、長さ約２～15m、幅約1.2m、深さ約0.4～1.4mのトレンチ（試掘溝）を15箇所（１Ｔ～15Ｔ）設定し、重機及び人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約10～60cmまでは竹林や杉林と茶畑などの耕作土が堆積し、その直下に地山のローム層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

４－17　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　西八代郡市川三郷町黒沢字洗平2150－５地内外
調査期間　2012年１月10日～11日
調査面積　約65㎡（調査対象面積約2,200㎡）
担　当　者　保坂和博


試掘調査　位置図

事業予定地は、2011年９月14日～15日に試掘調査を実施しているが、一部に用地の引渡しが完了していない場所があり、改めて試掘調査を行うこととなっていたので、今回実施した。

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約16.0～17.0m、幅約1.3m、深さ約1.0mのトレンチ（試掘溝）を３箇所設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、９月に実施した15Ｔ及び16Ｔと同様に表土層と地山層の間に黒色や鈍い褐色系の粘土層の堆積が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

4－18　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　西八代郡市川三郷町岩間字原74地内外
調 査 期 間　2012年１月12日～17日
調 査 面 積　約144㎡（調査対象面積約5,500㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

事業予定地は、2011年７月25日～27日に試掘調査を実施しているが、一部に用地の引渡しが完了していない場所があり、改めて試掘調査を行うこととなっていたので、今回実施した。

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約6.8～14.0m、幅約1.3m、深さ約0.6～1.0mのトレンチ（試掘溝）を13箇所設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、7月に実施した試掘調査の北西山側緩斜面の畑地部分（１T～４T）との堆積状況同様に１層（黒褐色土）、２層（青灰色土）、３層（明黄褐色土）、４層（黄灰色土）の層順が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

4－19　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字真篠地内
調 査 期 間　2012年１月24日～25日
調 査 面 積　約33.8㎡（調査対象面積約1,500㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地が中世後半に築かれた山城である県指定史跡真篠城跡に隣接することから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月20日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約1.5～4.2m、幅約1.0～2.3m、深さ約0.2～0.6mのトレンチ（試掘溝）を12箇所（１T～12T）設定し、人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、道部分（１T～４T）、平坦部分（５T～７T）、尾根部分（８T～12T）で異なる状況である。１T～４Tでは、表土下５～30cm前後までは道を覆う腐食土層などが堆積し、その下層は地山となるローム層及び岩盤層となる。５T～７Tでは、地表下40cm前後までは安定した褐色土層が堆積し、その下層はローム層が確認された。８T～12Tでは、表土層直下に岩盤層が確認された。試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

4－20　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字平地内
調 査 期 間　2012年２月１日～９日
調 査 面 積　約340㎡（調査対象面積約5,300㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、福士川左岸に広がる氾濫原にあり、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、中日本高速道路株式会社、学術文化財課、埋蔵文化財センターにより、2011年４月19日に行われた現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約９～11m、幅約2.0m、深さ約0.3～2.2mのトレンチ（試掘溝）を19箇所（１Ｔ～19Ｔ）設定し、重機及び人力によりそれぞれ掘削し、遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下30㎝前後までは水田の耕作土及び床土が堆積し、その直下から氾濫による砂礫層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4－21　中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡南部町福士字平地内
調 査 期 間　2012年２月27日～28日
調 査 面 積　約110㎡（調査対象面積約500㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本事業は、中部横断自動車道建設事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、西側の山地から東流し富士川へ合流する沢の左岸に広がる氾濫原にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、現集落地帯として平坦地が広範囲に及ぶことから、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、引き渡しが完了した用地内に長さ約7.5～11.0m、幅約2.0m、深さ約1.0～1.6mのトレンチ（試掘溝）を６箇所（１Ｔ～６Ｔ）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

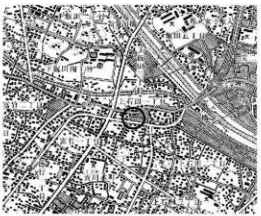
各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、地表下約0.3～1.0mまでは埋土が堆積し、その直下から地山となるローム層が確認された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

4－22　国道52号改良事業に伴う試掘調査

所　在　地　甲府市上石田一丁目地内
調 査 期 間　2012年１月５日～６日
調 査 面 積　約142㎡（調査対象面積約800㎡）
担　当　者　保坂和博

本事業は、国道52号改良事業に伴う試掘調査である。事業予定地には、周知の埋蔵文化財包蔵地は確認されていないが、周辺に上石田遺跡があり、現住宅地域として平坦地が広範囲に及ぶことから、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所（甲府出張所）との現地協議に基づき、試掘調査を実施した。


試掘調査　位置図

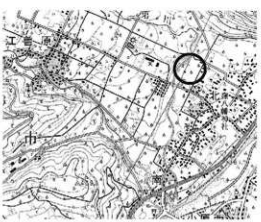
今回の試掘調査では、長さ約６～８m、幅約1.2m、深さ約0.9～２mのトレンチ（試掘溝）を５箇所（１T～５T）設定し、重機によりそれぞれ掘削し、人力により遺構確認と土層観察を行った。

各トレンチの土層堆積状況は、基本的に同様であり、表土下約90cm前後までは埋土層、甲府空襲層、旧水田耕作土及び床土層の層順が確認され、その直下から荒川の氾濫による砂礫層が確認されたが、２Tと５Tでは、甲府空襲層を削平する形で埋土層が厚く堆積している状況である。

試掘調査の結果、１Tの砂礫層で検出された流れ込みと考えられる平安時代の土器片以外は、遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

４－23　西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　山梨市北地内外
調 査 期 間　2011年４月25日～27日
調 査 面 積　約135.8㎡
担　当　者　笠原みゆき・加々美鮎実


試掘調査　位置図

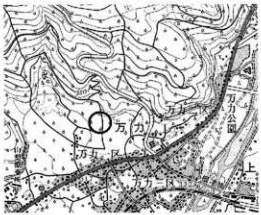
当該地は、西関東連絡道路建設に先立つ工事用道路の設置に伴う試掘調査であり、周知の埋蔵文化財包蔵地「廻り田遺跡（05189）」に隣接する地点にあたる。また、周囲には、中世に武田氏により再建・改修された社殿が現存する大井俣窪八幡神社が存在するなど、周辺の歴史環境や立地条件をふまえ、試掘調査を行うこととなった。調査区内は、西側と東側とで70cmほどの段差がある。この東側の段上に幅150cm、長さ550～1100cmのトレンチを６本、西側の段下に４本、合計10本のトレンチを設定し、遺構・遺物の有無を確認した。試掘調査の結果、東側上段の１～５トレンチでは、瓦礫を含む1m近い盛土が確認され、この下層はすぐに砂礫層となる。６～10トレンチからは水田を確認したが、近世以降のものであることから、山梨県埋蔵文化財事務取扱要項第３条の基準により、本格的な調査の必要はないと考えられ、以上の結果から、工事に着手することになった。

４－24　西関東連絡道路建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　山梨市万力地内
調 査 期 間　2011年６月13日～15日
調 査 面 積　約64㎡（調査対象面積約2,000㎡）
担　当　者　保坂和博

西関東連絡道路（第Ⅱ期）建設事業に対する埋蔵文化財への対応は、周知の埋蔵文化財包蔵地である足原田遺跡等に近接することから、昨年度より試掘調査を実施し、この結果を受けて今年度から本

調査を開始したところである。2011年５月10日の現地協議に基づき今回の試掘調査は、昨年度未買収のため試掘調査が出来なかった範囲（Ａ～Ｃ地点）の中で、Ａ及びＢ地点において試掘溝（トレンチ）を５箇所設定し、遺構確認と土層観察を行った。Ｃ地点は、土地の引渡しが完了していないため今回は実施しないこととした。土層の堆積状況は、昨年度実施したトレンチ（第23号トレンチ等）と基本的に同様であり、旧水田床土層（第４層）以下には、調査対象地北側に広がる山から流れてくる地下水の影響を受け鉄分を多量に含む湿地帯（黒褐色粘質土層：第７～９層）の形成が確認された。

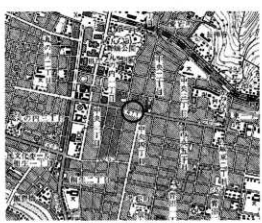


試掘調査　位置図

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点では工事を進めても差し支えない旨を報告した。また、Ｃ地点についても今回の試掘調査結果からＡ及びＢ地点同様に埋蔵文化財の対応は必要ない旨を合わせて報告した。

４－25　古府中環状浅原線（国道411号）拡幅事業に伴う試掘調査

所　在　地　甲府市中央二丁目地内
遺　跡　名　甲府城下町遺跡
調査期間　2011年５月19日～20日
調査面積　約23㎡（調査対象面積約630㎡）
担　当　者　保坂和博



試掘調査　位置図

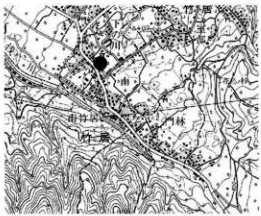
本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たることから、2011年４月26日及び５月11日に行った現地協議に基づき、道路を挟んだエリア１及びエリア２において調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約2.0～10.0m、幅1.0m、深さ約1.5mのトレンチ（試掘溝）を６本（１Ｔ～６Ｔ）設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の観察を行った。土層の堆積状況は、第１層（アスファルト）、第２層(砕石)以下に、１Ｔ・５Ｔ・６Ｔでは地表から深さ約0.4～0.8m、厚さ約0.1mの暗褐色粘土層と地表から深さ約0.85～0.95m、厚さ約0.1mの黒色土層において、近世（江戸時代）の焼土層（文化面）が確認された。２Ｔ～４Ｔでは、地表から深さ約0.2～0.3m、厚さ約0.3m～1.5m以上で堆積している現代の埋土層が確認された。

試掘調査の結果、２Ｔ～４Ｔを除く、１Ｔ・５Ｔ・６Ｔから近世（江戸時代）の焼土層（文化面）２面などが検出され、甲府上水跡、陶磁器類、銭貨など確認されたことから、エリア１Ａ地点約60㎡、エリア２Ｂ地点約30㎡の範囲において、本格的発掘調査を2011年10月14日から11月14日まで実施した。なお、現在、アスファルトが敷設されているエリア1の西部（甲府城跡の二の堀、土塁等が遺存していると考えられる範囲）については、工事施工時に立会調査（危険のない範囲で堀内の調査等）を行うこととした。

4－26　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　笛吹市御坂町竹居地内
遺　跡　名　柚木遺跡
調査期間　2011年4月5日
調査面積　16㎡（調査対象面積315㎡）
担　当　者　吉岡弘樹



試掘調査　位置図

試掘調査の対象となった地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である柚木遺跡（散布地－縄文・平安）の西端部に位置している。また、当地は、南側上方に花鳥山遺跡が、南東側に隣接して三光遺跡といった全国的にも有名な縄文時代の遺跡が存在する地域にあたる。

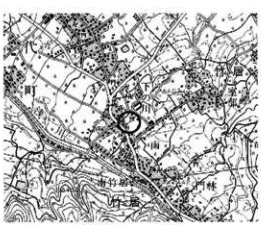
調査対象地は、山梨リニア実験線本線上に位置しており、甲府盆地底部に向かう緩傾斜地に直角になるように平坦に造成された宅地及び畑地の一部分である。

今回、建物や資材が撤去され更地化されたことによって、調査を実施することが可能となった。調査は、地形やリニア実験線の路線方向などを考慮し、トレンチを2カ所に設定した。掘削には、重機を用いその後、精査、土層堆積状況の観察、遺構・遺物の有無等の確認を行い調査終了後に埋戻しを行った。

その結果、4ヶ所の土層確認地点において、約10～20㎝の表土層（耕作土）下に、40～60㎝の厚さで上方より撹乱を非常に多く受けている黒褐色土層が確認された。
2カ所開口したトレンチでの土層から遺構や遺物が確認されなかったことや地形などから判断して埋蔵文化財に関する対応は必要ないものと思われる。

4－27　山梨リニア実験線建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　笛吹市八代町竹居字柚木1246地内外
調査期間　2011年11月24日
調査面積　約31㎡（調査対象面積約390㎡）
担　当　者　保坂和博



試掘調査　位置図

山梨リニア実験線建設事業に伴い、周知の埋蔵文化財包含地である柚木遺跡の範囲に隣接する地点で工事が行われることから、2011年8月12日に実施した鉄道・運輸機構と学術文化財課の事前協議に基づき、長さ約3～14.5m、幅約1.5～3m、深さ約1.3～2mのトレンチ（試掘溝）を2箇所（1T～2T）設定し、調査を実施した。なお、2Tは前回（2011年1月13日）の試掘調査で一部確認されていた埋桶の検出地点にあたり、時代を特定するために今回改めて調査を行った。土層の堆積状況は、前回の試掘調査と基本的に同様であり、表土層以下は黒褐色土層（第2層～第5層）を挟んで、第6層（褐色土層：ローム層）の層順が確認された。

試掘調査の結果、2Tで検出した埋桶は径約1.3m、深さ0.9mの規模を測り、覆土内よりコンクリートブロックなどの廃材が検出されたことから近代まで使用されていたトイレと考えられた。この他には遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4－28　法務省甲府法務総合庁舎建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　甲府市中央一丁目11－8
遺　跡　名　甲府城下町遺跡
調査期間　2011年7月25～26日
調査面積　約65㎡（調査対象面積 約640㎡）
担　当　者　野代恵子・古郡雅子

試掘調査　位置図

本館があった部分について試掘確認調査を実施した。

一帯は甲府城下町遺跡であり、調査地点は追手小路とその西側の二の堀との間にあたり、武家地であった。平成22年度に実施された敷地南側の発掘調査では、溝状遺構や中世の土器埋設遺構が確認されている。また2011年7月14～15日には受水槽部分の発掘調査を実施したが、遺構等は発見されなかった。今回の対象地については7月7日に立会調査を実施し、これまでの調査で遺物・遺構を確認している層が残存することが明らかとなったため、本調査を実施することとなったが、既調査の成果から、遺構の密度が薄いこと、撹乱の規模が大きいことが想定されたため、より詳細な遺構及び包含層の残存状況を把握する目的で、本調査に先立つ確認調査として実施した。

調査は、対象面積640㎡の範囲において、南北方向に4本のトレンチを設定して掘り下げを行った。また全体的な土層状況を確認するために、部分的に深掘りを実施した。第1トレンチでは遺構等は確認されなかった。第2・3トレンチでは、コンクリート片他砕石部の下はすぐ江戸期の遺物包含層である暗褐色粘質土、シルト混暗青灰褐色粘質土、その下には10㎝ほどの厚さで、木片・壁材・竹材・昆虫遺体等の堆積が見られたが、この層が遺存するのはトレンチ南端に限られていた。4層の下は暗青灰褐色粘土であった。また3層上面で精査を実施したところ、第2トレンチの中間部分では、幅30～40㎝ほどで並ぶ杭列が確認された。第4トレンチでは、遺物・遺構ともに確認されなかった。

確認調査の結果、第2・3トレンチでは現地表下1ｍほどのところで江戸時代に属する遺構及び遺物包含層が良好な状態で残されていることが確認されたことから、記録保存などの保護措置を行う必要があるが、建物等によりすでに破壊を受けたり、遺物包含層および文化層に対応する層が残されていても、遺物・遺構を含まない箇所もあることから、その部分は除外した約170㎡を本調査対象範囲とした。

4－29　法務省甲府法務総合庁舎建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　甲府市中央一丁目11－8
遺　跡　名　甲府城下町遺跡
調査期間　2011年8月10日
調査面積　36㎡（調査対象面積　100㎡）
担　当　者　山本茂樹

試掘調査　位置図

本事業は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城町遺跡内で庁舎が建設される事業である。

試掘調査は、本館北側に隣接する駐車場に試掘溝を設定し実施した。溝の規模は、長さ15m、幅2.40mで、土層堆積状況を把握するために一部を最大深度1.70mまで掘削を行った。

試掘調査は、平成22年度の本調査及び平成23年度に実施した調査を基本に、江戸時代の生活面である茶褐色土層上面で遺構および遺物の確認を行った。

遺構確認面は、甲府空襲の焼土と炭化層、本館に伴う下水道工事などにより撹乱を受けていたた

め、部分的に0.34mの厚さで残されてはいるものの、全体として層の厚みは少なかった。このため、設定した試掘溝では、部分的に深く掘削を入れて下層の状況の把握にも努めた。堆積状況は、1層：撹乱層（約65cm）、2層：茶褐色土層（約35cm）、3層：暗褐色粘質土（シルト層約30cm）、4層：暗褐色粘質土（3層より粘性が強い 約45cm）である。

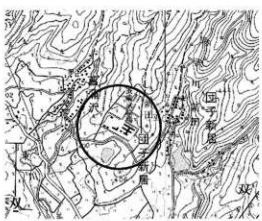
平成22年度に確認された茶褐色土層の下には黒褐色土層が堆積し、更にその下層には暗茶褐色土層が確認されており、この暗茶褐色土層で中世の土坑が確認されているが、今回の試掘調査では茶褐色土層より下の黒褐色土層は確認されなかった。

その結果、江戸時代の確認面である第2層目の茶褐色土層で遺構や遺物は確認されなかったこと、茶褐色土層より下層についても遺構及び遺物は確認されなかったこと、また、江戸時代以前に存在していたと思われる黒褐色土層及びその下層の暗茶褐色土層が堆積していなかったことなどから、本調査の必要はないものと判断される。

なお、別館については、平成25年度に建物および基礎撤去が実施される予定のため、基礎撤去時に立ち合いを実施し、工事内容によっては試掘調査を行う必要がある。

4－30　環境創造課の県政課題に伴う試掘調査

所　在　地　甲斐市菖蒲沢1700地内外
遺　跡　名　東峰A遺跡、東峰C遺跡
調査期間　2011年6月27日～7月14日
調査面積　約850㎡（調査対象面積約69,500㎡）
担　当　者　保坂和博


試掘調査　位置図

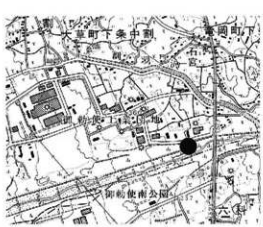
本事業は、太陽光発電建設事業に伴う埋蔵文化財の試掘調査である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である東峰A遺跡及び東峰C遺跡の範囲内に当たることから、2011年6月15日に実施した事前協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約10m、幅約1.2mのトレンチ（試掘溝）を71箇所（1T～71T）設定し、遺構確認と土層観察を行った。各地点における土層堆積状況は、基本的に第1層（表土）、第2層（にぶい黄褐色土）、第3層（にぶい褐色粘質土）、4層（褐色粘質土＋礫群）の層順が確認された。

試掘調査の結果、2地点において縄文時代の遺物（土器片）及び遺構（ピットなど）などが検出されたことによって、これまで想定されていた東峰C遺跡の範囲がさらに西側に広がることが判明したため、遺跡の範囲を追加変更し、さらに新たに発見され小林A遺跡を埋蔵文化財包蔵地として登録を行った。以上のことから、2地点においては、工事着手前に埋蔵文化財の保護に努める必要がある旨を報告した。

4－31　環境創造課の県政課題に伴う試掘調査

所　在　地　韮崎市竜岡町下条南割地内
遺　跡　名　御勅使川第二将棋頭遺跡
調査期間　2011年7月12日、13日
調査面積　73㎡（調査対象面積17,500㎡）
担　当　者　山本茂樹


試掘調査　位置図

本事業は、韮崎市竜岡町に所在する周知の御勅使川第二将棋頭遺跡である。

試掘溝の設定については、第2図のとおりである。1地点

の試掘溝は、幅3.0m、長さ8.85mで掘削の最大深度は1.52mである。また、２地点の試掘溝は、幅4.0m、長さ11.55mで掘削の最大深度は3.0mである。

１地点では、堤防の天端から水平方向に2.30m、下方向に2.20mの地点で幅0.45mの段を、さらに水平方向に2.8m、下方向へ2.87mの地点で石垣の基礎を確認した。また、この基礎に直行する形で、６本の木材が20～30cmの間隔で並べられている状況を確認した。木材の直径は約５cm、最大長さは1.30mである。木材から川側へ長さ約２m、深さ約1.3mの掘削を行ったが堤防関連の遺構は確認されなかった。

２地点では１地点のような中間の段差は認められず、堤防の天端から水平方向へ8.55m、下方向へ7.0m、傾斜角度は約40度の規模で石垣を確認した。石垣の基礎下には木材が石垣に並行する形で敷かれ、１地点とは異なった方法で構築されていることを確認した。石垣の基礎から川側へ長さ約3.0m、深さ約3.0mの掘削を行ったが遺構は確認されなかった。

以上のことから、堤防の天端から約10mまでは、堤防の施設が存在していることが確認されており、堤防遺跡を保護するために５mの安全地帯を設定し、天端から15mまでの間については、土地の改変を実施しないこととしたい。

４－32　元吉田保健所解体事業に伴う試掘調査

所　在　地　富士吉田市上吉田字古吉田848－1地内
遺　跡　名　吉田宿
調査期間　2011年７月25日～26日
調査面積　約60㎡（調査対象面積約1,876㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

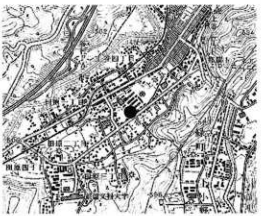
元吉田保健所跡地の利用に対する埋蔵文化財への対応は、周知の埋蔵文化財包蔵地である吉田宿（中世の宿・町場）の範囲に位置することから、2011年６月１日の現地協議に基づき、試掘溝（トレンチ）を長さ約５～６m、幅１m、深さ１～1.7mの規模で11箇所設定し、遺構確認と土層観察を行った。各地点の基本土層は、１層（砕石層：表土層）、２層（黒褐色土層）、３層（暗赤褐色土層）、４層（暗褐色土層）、５層（黒色砂層）、6-1層（黒褐色シルト層）、6-2層（黒褐色シルト層）、6-3層（黒色砂層）、７層（黒褐色シルト層）、８層（黒色砂層）、９層（黒褐色砂層）、10層（黒色シルト層）となり、５層～８層は砂地を主体とし、９層～10層は火山灰層となる。10層については、市域のこれまでの調査成果から大室スコリア（縄文時代晩期）と想定された。

試掘調査の結果、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。なお、本地域については富士山北麓の出来事を記した『勝山記（妙法寺記）』などに富士山の雪代による甚大な被害を蒙った様子が記され、吉田宿の元亀３年（1572）の「新宿（現在の上吉田）」の移転・成立もその災害を避けるためと言われており、５層～８層は、この雪代による土石流と推定された。

４－33　職業能力開発施設建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　都留市上谷五丁目地内
調査期間　2011年７月１日、10月１日
調査面積　約40.5㎡（調査対象面積約290㎡）
担　当　者　依田幸浩・青木真一

調査地点は、事業予定地内における道路建設地点と道路建設に伴う谷村工業高校のトレーニングセンター移設地点で、谷村工業高校の校舎よりも１mほど一段高い場所である。周知の遺跡である三ノ側遺跡（奈良・平安時代）に隣接しているため、埋蔵文化財の有無を確認するための試掘調査を実施した。



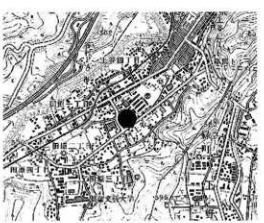
試掘調査　位置図

今回の試掘調査では、長さ約12～15m、幅約1.5m、深さ約１～1.2mのトレンチ（試掘溝）２本を設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の観察を行った。

調査の結果、地表から約0.6m～1.1mの深さまで旧学校施設（鋳造実験室）の基礎もしくは瓦礫が堆積しており、その下層は、30cm前後の溶岩を非常に多く含む褐色土であった。遺構・遺物は一切確認されなかったため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

４－34　県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　都留市上谷五丁目地内
遺　跡　名　三ノ側遺跡
調査期間　2011年５月23日、25日～27日、31日
調査面積　約340㎡（調査対象面積約4,667㎡）
担　当　者　依田幸浩・青木真一



試掘調査　位置図

事業予定地は、県立谷村工業高等学校の西側に隣接する水田部分である。予定地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ側遺跡の範囲にかかっているため、範囲外の部分も含め予定地全体を対象に埋蔵文化財を確認するための試掘調査を実施した。

三ノ側遺跡は、今回の調査地点の西側にあるスーパーマーケット建設に伴って昭和56（1981）年に都留市教育委員会によって発掘調査が行われ、奈良・平安時代の住居跡５軒が検出され、皇朝十二銭の「和同開珎」や「富寿神宝」などが発見された。

今回の試掘調査では、長さ約18.5～28m、幅1.2～1.5m、深さ約0.5～4.0m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を11本設定し、重機による掘削後、人力による平面・断面の観察を行った。

調査の結果、事業予定地の北東側に設定した１・２号トレンチを除く３～11号トレンチの地表から深さ約0.2～1.8m、厚さ約0.2～0.8mで堆積している黒褐色粘土層（基本層序第３層）において、平安時代（８・９世紀）の土器片が出土し、さらに、４・５・10号トレンチからは同時期の竪穴住居跡や土坑、３・６～８・11号トレンチからは土坑を検出した。５号トレンチでは、竪穴住居跡のカマド部分がトレンチの北側壁面にかかっていたため、カマド部分から焼土とともに甕の破片が多く出土した。

また、第３層の上層に堆積している第２層およびその間に入る黒褐色土層から掘り込まれた土坑または溝状の掘り込みを３・４・７・８号トレンチで確認したが、遺物を伴わないため性質や時期は不明である。

各トレンチはほぼ同様の堆積状況を示しているが、各土層の堆積する厚さが地点によって異なっている。このことから、事業予定地の旧地形は南側から北側、西側から東側に傾斜していたと考えられる。

各トレンチでは、溶岩ブロックおよび溶岩の岩盤（約8,500年前の猿橋溶岩）が確認される深さまで掘削していることから、今回調査を実施した深さより下層に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと考えられる。

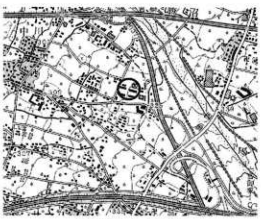
試掘調査の結果、事業予定地の北東側（１・２号トレンチ周辺）を除いて遺構・遺物が存在するこ

とが確認された。平安時代（８・９世紀）の遺物（土器片・鉄製品）とともに竪穴住居跡３軒・土坑12基が検出されたことによって、これまで想定されていた三ノ倉遺跡の範囲がさらに東側に広がることが判明したため、遺跡の範囲を追加変更し、本格的発掘調査を実施することとした。

本格的発掘調査は、事業予定地の１・２号トレンチ周辺を除く約3,800㎡の範囲で、平成23年６月29日から12月26日まで実施した。

４－35　県立かえで支援学校建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　笛吹市石和町中川1400地内
遺　跡　名　狐原遺跡
調査期間　2011年８月29日
調査面積　約10㎡（調査対象面積約24㎡）
担　当　者　保坂和博


試掘調査　位置図

本事業は、県立かえで支援学校建設事業に伴うエレベーター及びガスバルクを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内に当たることから、2011年７月19日に実施した現地協議に基づき、試掘溝（トレンチ）を３箇所設定し、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、１号トレンチ（長さ約3.2m、幅約1.0m、深さ約1.5m）、２号トレンチ（長さ約4.0m、幅約1.0m、深さ約1.1m）、３号トレンチ（長さ約3.0m、幅約1.0m、深さ約0.8m）において遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、各地点ともに金川による自然堆積層（河川堆積層）が確認されている。１号トレンチでは地表下約1.5mで砂礫層（11層）が確認され、２～３号トレンチでは同層を地表下約0.3mで確認しており、金川から離れた１号トレンチで砂礫層（11層）の上層において比較的安定した土壌（７層～10層：シルト層主体）堆積が確認されている。

試掘調査の結果、いずれのトレンチからも遺構は確認されていないが、１号トレンチ６層と９層から平安時代の土師質土器片が出土している。土層堆積及び遺物出土の状況から、６層は流れ込みの遺物と考えられるが、９層は、平安時代の文化層（生活面）と判断された。以上のことから、当該埋蔵文化財包蔵地内で、土木工事を行う場合には、事前に埋蔵文化財の適切な保存措置（保護層の確保）を行う必要がある旨の報告をした。

４－36　東部地域総合制高校建設事業に伴う試掘調査

所　在　地　都留市上谷五丁目７－１地内
調査期間　2011年12月１日～９日
調査面積　約84㎡（調査対象面積約24,000㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ倉遺跡（奈良・平安時代）に隣接し、また2011年５月から県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う本調査（以下、都留キャンパス調査）も行われていることから、2011年11月８日に実施した事前協議に基づき試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、長さ約３～13m、幅約1.3m、深さ約1.0～3.2m（最深部）のトレンチ（試掘溝）を12箇所設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

試掘調査の結果、仮設校舎建設予定地（１T～４T）エリアでは、遺物包含層や遺構確認面が確認

され、かつ４Ｔから奈良・平安時代の土器片が出土したことから、埋蔵文化財の保護措置が必要と判断された。本校舎建設予定地（５Ｔ・８Ｔ～12Ｔ）エリアでは、遺構・遺物の発見には至らなかったが、遺物包含層や遺構確認面が確認され、遺跡が存在する可能性が示唆されたことから、既存校舎部分を除き新たに掘削行為を行う範囲については、事前に試掘調査を行い、その結果を踏まえて協議を行う必要があるものと判断された。なお、６Ｔ～７Ｔ周辺エリアでは、旧学校建物の基礎や埋土層の下層に溶岩ブロックおよび溶岩の岩盤（約8,500年前の猿橋溶岩）が確認されたことから、埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低いと考えられ、本調査の必要がない旨を報告した。

４－37　県立わかば支援学校改築事業に伴う試掘調査

所　在　地　南アルプス市有野346－３地内
遺　跡　名　後田堰推定地
調査期間　2012年２月20日～24日
調査面積　約370㎡（調査対象面積約7,500㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である枡形堤防跡に隣接し、また後田堰（徳島堰から国史跡六科将棋頭内への導水施設）推定地の範囲にあたることから、2011年12月27日に行った現地協議に基づき、調査を実施した。

今回の試掘調査では、現グラウンド内に長さ約３～23m、幅約1.6～2.5m、深さ約0.5～3.0mのトレンチを13箇所（１Ｔ～13Ｔ）設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

試掘調査の結果、グラウンドの南東コーナー側に設定した10Ｔと12Ｔから御勅使川により形成された自然堆積層（河川堆積層：砂礫層）が現地表下0.5～0.6mで確認されているが、この他のトレンチでは、２Ｔ・５Ｔ・９Ｔの様相から現地表下3mまで埋土層が堆積する状況が把握され、いずれの地点からも遺物や遺構は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、今回の試掘調査地点においては工事に着手しても差し支えない旨を報告した。

なお、撤去工事及び2期工事予定地においても後田堰推定地の範囲にあたることから、引き続き埋蔵文化財の保護措置が必要である旨を合わせて報告した。

４－38　大野堤防改修事業に伴う試掘調査

所　在　地　南巨摩郡身延町大野地内
遺　跡　名　堤防遺跡推定地
調査期間　2011年12月19日～22日
調査面積　約142㎡（調査対象面積約800㎡）
担　当　者　保坂和博

試掘調査　位置図

本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である堤防遺跡推定地の範囲にあたることから、2011年11月30日に実施した現地協議に基づき、試掘調査を実施した。

今回の試掘調査では、現堤防に直行する形で長さ約６～21m、幅約1.5m、深さ約0.8～2.0mのトレンチ（試掘溝）を６箇所（１Ｔ～６Ｔ）設定し、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。

試掘調査の結果、上流側に設定した１Ｔ～４Ｔの現堤防脇の平坦面では、地表下75㎝前後までは水田の耕作土や床土と整地（客土）層が堆積するが、その下層は氾濫によるシルト層・砂層・砂礫層と

なり、流れ込みと考えられる遺物の外は遺構・遺物とも確認することはできなかった。また、３Ｔと４Ｔでは現堤防の川裏側の背後土を掘下げたところ石積みが確認され、当初は旧大野堤防の石積みと思われたが、事業者に確認したところ昭和34年の災害で洗掘され、翌35年に完成した新堤防の石積みであることが判明した。下流側に設定した５Ｔと６Ｔの現堤防脇の平坦面では、地表下30cm前後までは水田の耕作土や床土が堆積するが、その下層は粘質土層や氾濫による砂層・砂礫層となり、流れ込みと考えられる遺物の外は、遺構・遺物とも確認することはできなかった。

以上のことから、現堤防脇の平坦面では遺跡はないと考えられ、本調査の必要はないと判断されるが、現堤防部分については、旧堤防が遺存する可能性があるため掘削する際に立会調査を行う必要がある旨を報告した。

４－39　西関東連絡道路建設事業に伴う立会調査

所　在　地　山梨市北地内
調査期間　2011年10月28日、11月9日、12月6日・26日
調査面積　約450㎡（調査対象面積約450㎡）
担　当　者　保坂和博

立会調査　位置図

本事業は、西関東連絡道路建設による弟川に架かる橋梁下部工事(北２工区：Ａ１橋台、Ｐ３橋脚、北５工区：Ｐ１、Ｐ２橋脚、北３工区：Ａ２橋台、北４工区：Ａ１、Ａ２橋台)に伴う立会調査である。この地点に隣接する周知の埋蔵文化財包蔵地である兄川河床遺跡のこれまでの調査で後期更新世の堆積層よりナウマンゾウ化石が確認されていることから、今回の工事予定地内においても同様の化石の出土が想定されたため、昨年度の兄川の立会調査に引き続いて調査を実施した。短期間の工事に伴う立会調査のため、化石発掘を実施することは困難なため、土層観察及び分析（ナウマンゾウ化石産出層位の地質学的情報の収集）に供するべく土壌試料のサンプリング（北4工区A1橋台）を行った。

今回の調査では、ナウマンゾウ化石の検出には至らなかったが、現在、昨年度の兄川の立会調査で確認したナウマンゾウ化石を産した堆積層に対比される堆積層（Ⅲ層：請地礫層）の堆積年代、古環境および化石の検出を目的とした分析とともに今回の立会調査でサンプリングした試料の比較分析を行っているところであり、その成果を踏まえたうえで、正式な報告を2012年度以降に行う予定である旨を報告した。

４－40　法務省甲府法務総合庁舎建設事業に伴う立会調査

所　在　地　甲府市中央一丁目11－８地内
遺　跡　名　甲府城下町遺跡
調査期間　2011年６月20日
調査面積　約5.5㎡（調査対象面積約40㎡）
担　当　者　保坂和博

立会調査　位置図

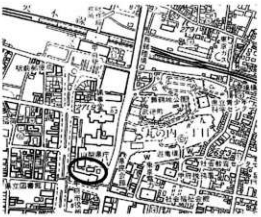
本事業は、法務省甲府法務総合庁舎新営工事に伴い受水槽の基礎を撤去する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である甲府城下町遺跡の範囲内に当たり、これまでに実施された発掘調査により、中世～江戸時代の遺構及び遺物が確認されていることから、2011年６月８日に実施した事前協議に基づき、受水槽部（５ｍ

×８ｍ＝40㎡）を対象に立会調査を実施した。今回の立会調査では、第１地点（長さ約1.9m、幅約1.6m、深さ約1.7m）、第２地点（長さ約1.9m、幅約1.3m、深さ約1.81m）において遺構確認と土層観察を行った。両地点の土層堆積状況は、基本的に同様であり、１層（コンクリート土台部）、２層（コンクリートベタ基礎部）、３層（砕石部）の受水槽基礎部が確認され、それ以下は４層（暗褐色土層）、５層（砂層）、６層（暗褐色土層）、７層（暗褐色土層＋暗灰色粘質土層）、８層（暗褐色粘質土層）、９層（暗褐色シルト層）、10層（暗灰褐色シルト層）、11層（暗褐色粘質土層）、12層（黒色粘質土層）が確認された。

立会調査の結果、両地点から過去の調査で確認されている遺物包含層（11層）と江戸時代文化層（12層）が確認されたことから、事前に受水槽部（約40㎡）において埋蔵文化財の保護措置を行う必要がある旨を報告した。

４－41　県庁舎耐震化等整備事業に伴う立会調査

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
遺　跡　名　甲府城跡
調査期間　2011年３月３日～９月１日
調査面積　調査対象面積約 250㎡
担　当　者　野代幸和・長田隆志


立会調査　位置図

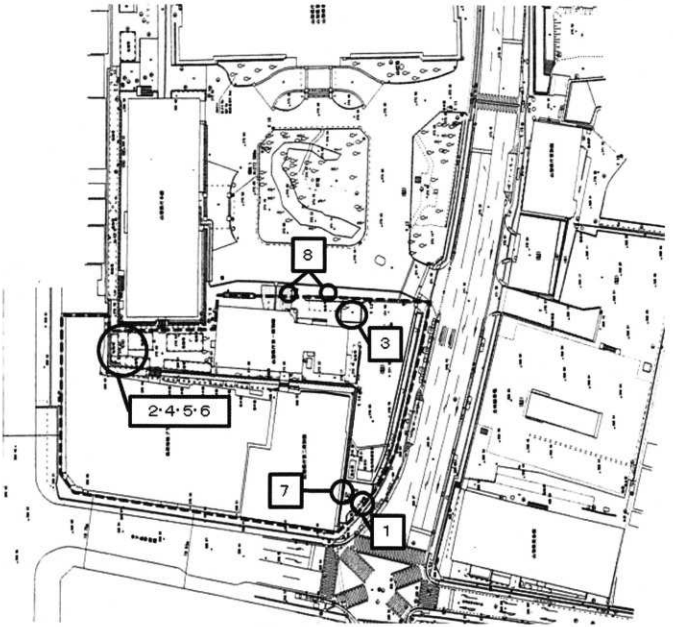
各地点の調査日程については、学術文化財課と管財課で事前協議を実施した。これを受けてセンターが埋蔵文化財の調査を実施する方向で調整を行った。

旧第一駐車場南東花壇周辺の調査（1）では、既存石垣の撤去と既存道路地盤面までの掘削、同南東部植樹帯の擁壁撤去作業時に埋蔵文化財の有無について確認を行った。最大掘削深度は1.8mであるが、ハンドホールや旧歩道橋基礎等で攪乱されており、遺構は検出されなかった。ただし、埋設管基礎部分などからはモルタルが付着した石垣築石部材が４石確認されたため保護した。また、舞鶴通り側の擁壁付近から確認された旧歩道橋の基礎については、当初撤去を予定していたが、周辺地盤に影響があることから突出部分を削平する方法で対応することとなったため、埋蔵文化財に関しての影響は無くなった。

第二南別館基礎解体工事に伴う調査（7）では、山留工掘削溝部分で石垣の一部と推定される石材を視認したため、その場所を中心に掘削を実施した。約１m下で残存石垣の築石を確認し、周辺を拡張して全体規模を把握したところ南北約3.8m、最大高約2.3m、残りのよいところで三段の石積みが残存していることが判明した。堀部分には破壊された築石が約20石投棄されていた。部材確認を行ったところ築城初期の矢穴が認められ、野面積による構造が確認できたことから築城期の石垣と推定される。根石部分には栗石が充填されており、南西部の石垣と類似しているが、胴木の存在は不明。面が揃っており詰石もしっかりしている部分が多く、大手の風合いが感じられた。関係機関との事前協議の結果、緊急発掘調査ならびに解体工事を実施することとなった。

本館南側オイルタンク地点の調査（２・４・５・６）では、昨年度の発掘調査で確認された一の堀南西部石垣の西側に続く石垣が確認されていたため、オイルタンクの本体撤去ならびに基礎撤去、地盤掘削工事時の際に立会調査を実施した。調査の結果、築石は根石から2段確認されたため、発掘調査並びに解体を実施することになった。

植移植工事に伴う調査（3）では、全体的な工程としては５月30日～６月４日に植周辺を、また、６月７日に山留工に伴う植南側の立会調査を実施した。調査は、根回し時と移植作業時に埋蔵文化財の有無について確認を行った。掘削深度は最大1.4～1.8mであり、平成22年度の発掘調査で確認された暗渠跡の続き部分が確認された。このため、関係機関と協議を行い、今後の工事計画と検討を行った。その結果、記録保存が必要ということになり、遺構部分をブルーシートで保護し、埋め戻しを



防災新館関連調査　位置図

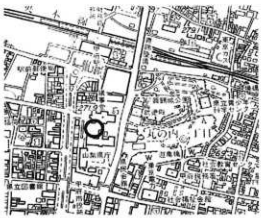
	事業内容	調査期間	検出遺構・出土遺物	対応
1	電気埋設管等撤去解体	4月22日	石垣部材4石	
2	既存石垣撤去及びオイルタンク周辺掘削	5月2日	石垣部材1石・埋設管	
3	楠根回し掘削	3月7日～9日	瓦	発掘調査
3	楠移転及び山留工掘削	5月30日～6月4日・7日	暗渠跡・瓦・陶器など	
4	オイルタンク基礎・既存石垣解体	6月27日	なし	
5	オイルタンク周辺掘削	7月19日	なし	
6	オイルタンク地盤掘削	8月22日	一の堀石垣・胴木・瓦など	発掘調査
7	旧第二南別館基礎解体	8月29日・30日	一の堀石垣・瓦	発掘調査
8	工事用仮設ゲート基礎工事	9月1日	瓦・角鎹	

県庁舎耐震化等整備事業関連調査（防災新館建設に伴う立会調査）一覧表

行った。後日、発掘調査を実施することとなった。また、楠南側の山留工に伴う調査では、現況地盤面から最大3m掘削を実施したが、遺構については確認できなかった。

仮設ゲート柱設置工事に伴う調査（8）では、基礎設置に係る現況地盤面下0.7mまでの掘削ということで立会調査を実施したが遺構は確認できなかったが、良好な江戸時代の造成地整面ならびに土塀の漆喰層が認められたため、外構工事の際には立会調査を実施する必要がある。

4－42　県議会議事堂改修機械整備（給水管敷設）事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

所　在　地　甲府市丸の内一丁目地内
遺　跡　名　甲府城跡
調査期間　2011年５月14日～17日
調査面積　約40㎡
調査担当　野代幸和・長田隆志

本地点に隣接する地点から書院に関係する長屋門に付帯する暗渠跡などの遺構が確認されていることから、学術文化財課と管財課で事前協議を実施し、４月18日付け管第221号にて学術文化財課に、４月22日付け教学文第324号にて当センター調査の依頼があった。これを受けてセンターでは現況地盤掘削作業時において、埋蔵文化財の確認調査を実施する方向で調整を行った。

調査は長さ40m×巾0.6m×深さ0.8mの掘削坑を対象に実施した。掘削深度は800㎜であり、浅い所では遺物包含層が現況地盤面下0.4mで認められたため、遺物出土範囲を記録した。遺構確認面は0.5m下付近で認められ、長屋門に付帯する暗渠跡の部材（過去の配管工により破損）が確認できた。これは議事堂仮設庁舎試掘調査時に確認できた遺構と東西で並ぶことから、絵図からも散見できる長屋門に隣接する暗渠と推定できる。本地点においては未調査区域であったが、今回の調査で遺構の存在や瓦溜まりと包含層が確認できたことから、今後周辺部分の開発行為においては十分な事前協議と対応を要する。

4－43　県営住宅谷村団地改築二期解体事業に伴う立会調査

立会調査　位置図

所　在　地　都留市つる三丁目地内
遺　跡　名　城ノ腰第２遺跡
調査期間　2011年８月29日、９月１日・２日
調査面積　約554㎡（調査対象面積約554㎡）
担　当　者　依田幸浩

本調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である徳重遺跡（縄文時代：散布地）に隣接する県営住宅谷村団地１～３号棟の解体工事における立会調査である。

2010（平成22）年10月６日に行われた同団地集会場基礎工事における立会調査で、平安時代の住居跡が確認され（城ノ腰第２遺跡として登録）、2011（平成23）年１月14日・２月１日に行われた同団地外構工事における立会調査では古墳時代の土器片が出土していることから、１～３号棟の基礎解体作業に伴い立会調査を実施した。

基礎解体作業は、布基礎周辺の土壌を基礎に沿って重機で掘り下げ、基礎底部（地表下約0.55～0.65m）を露出させた後に基礎を抜き取るという手順で作業が行われたため、基礎周辺の土壌掘削時に断面と底面の観察を行った。

1号棟の基礎周辺では、地表下約0.15mまで暗黄褐色土が堆積し、地表下約0.15～0.35mまで黒色スコリアを少量含む暗褐色土、地表下約0.35～0.65mまで黒・橙色スコリアを30%ほど含む黒褐色土が堆積しており、地表下約0.65mの地点で溶岩ブロックを検出した。

2号棟の基礎周辺では、地表下約0.15mまで暗黄褐色土が堆積し、地表下約0.15～0.75mまで黒色スコリアを少量含む暗褐色土、地表下約0.75～1.05mまで黒・橙色スコリアを少量含む暗褐色土、地表下約1.05mから下方に黒・橙色スコリアを30%ほど含む黒褐色土が堆積していた。

3号棟の基礎周辺では、1号棟とほぼ同じ堆積状況が確認された。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。

なお、基礎周辺の土壌堆積状況は、前回の立会調査において平安時代の住居跡が確認された集会場地点や古墳時代の土器片が出土した外構部分の土壌堆積状況とほぼ同じであることから、本調査で確認された1号棟の暗褐色土層・黒褐色土層などが平安時代の遺構確認面となる可能性が考えられる。このため、同地点で開発事業などが行われる場合には、事前に試掘・確認調査が必要になると考えられる。

4－44　県営住宅和戸団地下水道接続工事に伴う立会調査

所　在　地　甲府市和戸町920地内
遺　跡　名　大坪遺跡
調査期間　2011年10月19日、11月14日
調査面積　32.2㎡（調査対象面積　32.2㎡）
担　当　者　山本茂樹

立会調査　位置図

〈第1回目〉

本事業は、県営住宅和戸団地内の1号・2号棟に下水道を接続するための工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「大坪遺跡」の範囲内であることから、立会調査を実施した(建築住宅課及び営繕課の立会いのもと)。

堆積層は、現地表から50cmまでの第1層は攪乱層、第2層は茶褐色土が混入する暗褐色土で、25cmの堆積が認められた。第3層は10cmの厚さで灰白色粘土が粒状に混入する黒褐色土層が堆積し、第4層は粘性の強い黒褐色粘土層である。

昭和50（1975）年、国道140号線改良工事に伴い実施された大坪遺跡の発掘調査では、第2層と第3層の中間から遺物の出土が認められていたが、今回の立会調査では遺構・遺物は検出されなかった。

立会調査の結果、遺物の出土や遺構は確認されなかったが、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であることから、さらに南の4号・5号棟で下水道工事を行う際には、立ち合いを実施することで了解を得た。

〈第2回目〉

本事業は、県営住宅和戸団地内の3号棟の東側の公園内に下水道を接続するための工事である。堆積層は、現地表から約1mまでの第1層は攪乱層、第2層は茶褐色土が混入する暗褐色土である。第3層は粘性のある黒褐色土層が堆積し、第4層は粘性の強い黒褐色粘土層で酸化鉄を含む層である。第5層は粘性のある黒褐色土で、現地表から2.80mまで掘削が行われた。なお、掘削深度が深いため各層の堆積土の計測はできなかった。

立会調査の結果、第2層と第3層の中間からは、遺物の出土や遺構は確認されなかった。また、第5層の黒褐色土の堆積はかなり厚く層をなしており、現地表から2.80mの位置で確認されており、さらに下まで堆積が続いているものと予想される。

調査の結果、第１回目の地点及び今回の場所では、遺構の存在が確認されなかったが、今後の下水道工事を行う際には、周知の埋蔵文化財包蔵地である「大坪遺跡」の範囲内であるため立ち合い調査を実施する必要がある。

４－45　県立北杜高等学校排水管敷設事業に伴う立会調査

所　在　地　北杜市長坂町渋沢地内
遺　跡　名　原町農業高校前遺跡
調査期間　2011年12月1日
調査面積　約175㎡（調査対象面積約3.85㎡）
担　当　者　今福利恵・土橋寛仁

立会調査　位置図

北杜高校における雨樋を排水路へ接続するための掘削で、北杜高校中央館とセンターコリドール（渡り廊下部分）かどになる。原町農業高校前遺跡内に該当するため掘削にあたり工事立ち会いすることとした。掘削はセンターコリドール側で、長さ350cm、幅50cm、深さ20cm程で東西方向に、また中央館側の排水路側では、長さ350cm、幅60cm、深さ30cm程で南北方向に掘削し、両者の間は横方向からトンネル状に排水管を通す掘削である。

掘削箇所を一部清掃して土層を確認したが、暗黄褐色土であり、盛土造成されているところの掘削であって、遺物遺構ともに認められず、また掘削深度もこれ以上掘り下げないということであった。いずれも本工事に係る箇所に埋蔵文化財は認められず、よって工事実施については問題ない旨を報告した。

４－46　県立都留高等学校修繕事業に伴う立会調査

所　在　地　大月市大月二丁目11－20地内
遺　跡　名　大月遺跡
調査期間　2011年11月22日
調査面積　約１㎡（調査対象面積約１㎡）
担　当　者　保坂和博

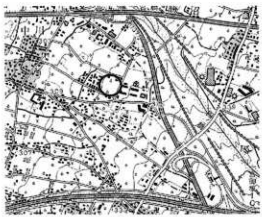
立会調査　位置図

本事業は、県立都留高等学校における消火栓の漏水に伴う修繕工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包含地である大月遺跡の範囲内に当たることから、学校施設課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。今回の立会調査では、長さ約1.2m、幅約0.8m、深さ約1.5mの範囲において、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。土層の堆積状況は、表土層（アスファルト）以下、２層（コンクリート）、３層（砕石）、４層（黒褐色土層）の層順が確認され、いずれも　消火栓や電気・ガスの配管に伴う埋土層であることが確認された。

立会調査の結果、漏水確認地点は地下埋設物による既掘の範囲内で、かつ遺構や遺物は全く確認されないことから、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4－47　県立山梨園芸高等学校整備事業に伴う立会調査

所　在　地　笛吹市石和町中川1400地内
遺　跡　名　狐原遺跡
調査期間　2012年３月２日
調査面積　約２㎡（調査対象面積約２㎡）
担　当　者　保坂和博

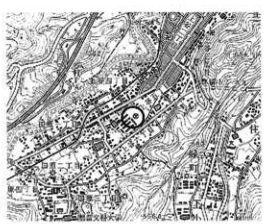

立会調査　位置図

本事業は、県立山梨園芸高等学校の水道メーターを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内に当たることから、県立山梨園芸高等学校と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。水道メーターを設置する２か所において、掘削時に断面と底面の観察を行った。土層堆積状況は、基本的に同様であり、１層（黒褐色土層）、２層（暗褐色砂質土層）、３層（灰黄褐色砂層）の層順が確認された。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構及び遺物は全く確認できなかったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。なお、２層が2011年8月29日試掘調査の５層、３層が同６層に当たると考えられ、平安時代の文化層（同９層）は、今回の工事による掘削深度よりもさらに下層に存在することが想定された。

4－48　県立谷村工業高等学校整備事業に伴う立会調査

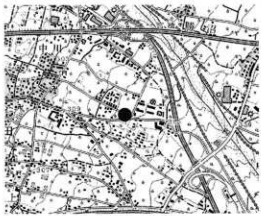
所　在　地　都留市上谷五丁目７－１地内
調査期間　2012年３月12日、15日～16日
調査面積　約16㎡（調査対象面積約16㎡）
担　当　者　保坂和博


立会調査　位置図

本事業は、県立谷村工業高等学校のグラウンド水路改修工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である三ノ俣遺跡（奈良・平安時代）に隣接し、また2011年に県立産業技術短期大学都留キャンパス建設事業に伴う本調査（以下、都留キャンパス調査）も行われていることから、立会調査を実施した。今回の立会調査は、Ａ地点（17m×0.5m）及びＤ地点（15m×0.5m）の２地点において、重機による掘削後、人力による遺構確認と土層観察を行った。Ａ地点では、１層（アスファルト）、２層（砕石）、３層（暗褐色土層：埋土）、４層（暗暗褐色土層）、５層（黒褐色土層）の層順が確認された。Ｄ地点では、１層（コンクリートまたは黒褐色土層）、２層（砕石）、３層（暗褐色土層）、４層（暗黄褐色層）の層順が確認された。Ａ地点の４層は、都留キャンパス調査の２層、５層は同３層（遺物包含層）、Ｄ地点の３層は同２層、４層は同３層に当たると考えられた。

立会調査の結果、いずれの地点からも遺構及び遺物は全く確認できないことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

4－49　県立かえで支援学校（創造館内）建設事業 に伴う立会調査



立会調査　位置図

所　在　地　笛吹市石和町中川字六角1230番地内
遺　跡　名　狐原遺跡
調 査 期 間　2011年10月20日
調 査 面 積　2㎡（調査対象面積350㎡）
担　当　者　山本茂樹

本事業は、周知の埋蔵文化財包蔵地である「狐原遺跡」の範囲内であることから、平成23年２月23日に、創造館の敷地内で試掘調査を実施した場所で、伐根のための工事により立会調査を行った。また、入口の門(東側)の移設工事も行われるため、合わせて立会調査を実施した。

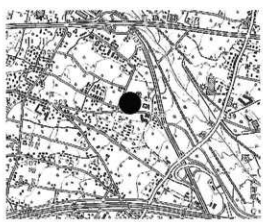
伐根については、深さは30cm程度であり、遺物を確認するために掘削土や伐根跡等を調べたが、遺物は認められなかった。

門の移設場所では、設計の規模１ｍ×２ｍ程度で掘削深度30cmであることから、重機による掘削を行った。

その結果、現地表から約45cmで遺構の覆土と思われる暗褐色土層から土師器の坏片が確認された。確認面は、灰色のやや黄色みを帯びた砂である。

立会調査の結果、遺構までの深さが75cmであることから伐根についての影響はない。また、門の移設についてはコンクリートの撤去工事など伴うが、15cmと保護層は少ないものの、工事の規模は小さいく遺構を大きく痛めるものではないことから、現況での遺構の保護・保存もやむを得ないものと思われる。

4－50　県立かえで支援学校建設事業に伴う立会調査



立会調査　位置図

所　在　地　笛吹市石和町中川1400地内
遺　跡　名　狐原遺跡
調 査 期 間　2012年１月16日・18日・24日・25日
調 査 面 積　約68.5㎡（調査対象面積約72㎡）
担　当　者　依田幸浩

本調査は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡（縄文・奈良・平安・中世：集落跡）が存在する笛吹市石和町中川地内の県立かえで支援学校分教室改修工事における立会調査である。

2011（平成23）年８月29日には、エレベーター棟増築等の工事に伴い試掘調査が行われ、平安時代の文化層が確認され、同時代の土器片が出土している。

調査は、改修工事が行われた普通教室棟北側の発電機設置地点、特別教室棟（旧食品化学科棟）周辺のガス及び制御配管工事地点、特別教室棟西側の高圧線用アース板埋設地点で、重機による掘削部分の断面と底面の観察を行った。

発電機設置地点では、地表下約60cmまで掘削し、砕石層や埋土と考えられるビニール片などを含む暗褐色土層を確認した。

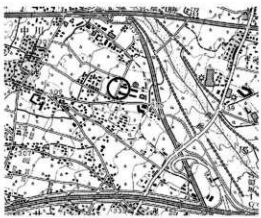
特別教室棟周辺の配管工事地点では、地表下60～80cmまで掘削し、東側で、埋土の下層から灰オリーブシルト・砂層と暗褐色シルト・砂層を確認した。西側では、埋土の下層から暗灰黄砂礫層と砂礫を多く含む黒褐色土層を確認した。この地点においては、既設埋設物や旧建物の基礎のために掘削された撹乱が所々で確認された。

高圧線用アース板埋設地点では、地表下約1.7ｍまで掘削し、地表下１ｍまでの埋土と下層の暗オリーブ砂を確認した。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物は全く確認されなかったことから、本工事における埋蔵文化財の保護措置は必要ないものと判断した。

４－51　県立かえで支援学校建設事業に伴う立会調査

所　在　地　笛吹市石和町中川1400地内
遺　跡　名　狐原遺跡
調査期間　2012年３月２日
調査面積　約10㎡（調査対象面積約10㎡）
担　当　者　保坂和博

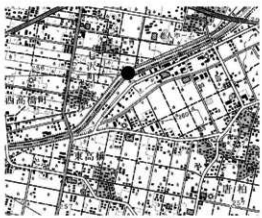

立会調査　位置図

本事業は、県立かえで支援学校の西側門扉・フェンス及び南側片扉・フェンスを設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である狐原遺跡の範囲内に当たることから、県立かえで支援学校と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。西側門扉・フェンス設置工事では、Ａ地点１箇所、Ｂ地点15箇所、南側片扉・フェンス設置工事では、23箇所で基礎の掘削深度が現地表下約0.5ｍに及ぶため、掘削時に断面と底面の観察を行った。土層の堆積状況は、基本的に同様であり、１層（黒褐色土層）、２層（黒褐色砂層＋小礫）、３層（黒褐色砂層）、４層（暗褐色砂礫層）の層順が確認された。

今回の立会調査では、いずれの地点からも遺構・遺物は全く確認できなかったことから、工事を進めても差し支えない旨を報告した。なお、２層が2011年８月29日試掘調査の２層、３層が同４層、４層が同５層に当たると考えられ、平安時代の文化層（同９層）は、今回の工事による掘削深度よりもさらに下層に存在することが想定された。

４－52　平等川河川改修事業に伴う立会調査（七沢町ほか）

所　在　地　甲府市七沢町外
遺　跡　名　堤防遺跡推定地
調査期間　2011年11月４日
調査面積　27㎡（調査対象面積27㎡）
担　当　者　山本茂樹


立会調査　位置図

本事業は平成22年度からの平等川河川改修の継続事業で、調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地の堤防遺跡の範囲内であることから、立会調査を実施した。

河川に沿っての工事であるため、２か所で立会調査を実施した。第１地点では、現在の堤防の外から1.6ｍ内側で旧堤防が確認されたが、第２地点では掘削の長さが短かったこともあり旧堤防は確認されなかった。

工事に伴う立会調査により第１地点では、「山梨県堤防・河岸遺跡分布調査報告書から、明治21年の測量地図に堤防遺跡が記載されており、現在構築されている堤防の中にその存在が確認された。

今後、工事を実施する際には立ち合いを実施し、堤防の有無確認が必要である。

4－53　平等川河川改修事業に伴う立会調査（東油川地内）

立会調査　位置図

所　在　地　笛吹市石和町東油川地内
遺　跡　名　堤防遺跡推定地
調査期間　2011年11月28日
調査面積　120㎡（調査対象面積　120㎡）
担　当　者　山本茂樹

本事業は平成22年度からの平等川河川改修の継続事業で、調査地点は周知の埋蔵文化財包蔵地の堤防遺跡の範囲内であることから、立会調査を実施した。

工事による掘削は長さ約60m、高さについては危険が伴うため推定であるが４ｍである。立会調査は、現在の堤防の法面を掘削した後、法面の一部(８箇所)を精査し堤防の痕跡の確認を行った。

掘削の下部から上部の約２ｍまでに、旧堤防の跡が確認された。２ｍ以上については、盛土と考えられる土砂が目視ではあるが互層で堆積していた。２ｍ以下の堆積状況は、１：盛土層、２：白色砂層、３：暗茶褐色砂層（しまりなし）、４：茶褐色砂層（しまりあり）、５：灰茶褐色砂層（粘土小ブロック混入）、６：灰茶褐色砂質粘土層、である。３層から６層までが旧堤防と考えられる。

下流側では、現在の堤防の下に存在しているものと思われ、砂層しか確認されない。同様に、上流側でも砂層しか確認されない。理由としては、掘削がカーブを描いているためと考えられ、堤防の内側の砂層が確認されたものと思われる。

その結果、旧堤防と考えられる遺構が確認されたが、その長さについては不明である。遺物は確認されなかったことにより、構築時期については不明である。

今後、河川工事を実施する際には、堤防の続きなどを確認するために立会調査を実施する必要がある。

4－54　平等川基幹河川改修事業に伴う立会調査（堤防遺跡推定地）

立会調査　位置図

所　在　地　笛吹市石和町広瀬地内
遺　跡　名　堤防遺跡推定地
調査期間　2011年１月10日
調査面積　約73㎡（調査対象面積 約1,550㎡）
担　当　者　野代恵子・古郡雅子

本事業については、これまでに笛吹市春日居町・同石和町や甲府市七沢町地内において事業が進められており、改修事業内容を踏まえた試掘調査や立会調査を実施している。当該箇所は堤防遺跡推定地となっており、今回は笛吹市石和町広瀬地内のＡ区約80m、Ｂ区約310mの範囲において合計で４箇所の立会調査を実施した。

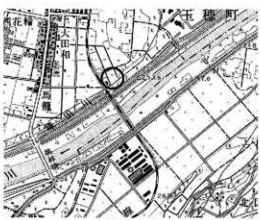
地点ごとに相違はあるものの、基本層序としては、１層が暗褐色シルト質土、２層が灰および黄褐色シルト、３層が灰褐色シルト質土、４層が暗褐色粘質土、５層が暗灰色砂である。今回の調査で特記される点は、まず第１地点の土手の、のり面中央付近、地表下2.6mの位置で直径約20㎝の木杭が約90㎝間隔で３本垂直に打設されているのが確認された。また、この木杭の周辺には竹材の残骸も少量見られた。これは、かすみ堤（昭和町）などで見られる堤防基底部の構造にも類似しており、竹材の残骸がもとは蛇籠等の一部であった可能性もあるが、堤防本体の土層等は確認されなかった。今回

の工事では、この木杭検出位置まで掘削が及ばないことから、この範囲についての調査の必要はないものと判断した。また第４地点では、暗褐色粘質土直上の明褐色砂層中から江戸時代・明治時代の遺物が出土した。ただしこれらは、ガラス片や瓶等の新しい時期のものと混在していることから、元位置を留めているものではない。この他、第３地点では、土手ののり面中央付近で、鉄線で巻かれた蛇籠が検出された。これについては地表下30cmという浅い位置で確認されていることを含めて近代以降のものと考えられる。

以上の結果から、今回の対象地については調査の必要はないが、第１地点のように堤防基底部の可能性もある痕跡が確認されていることから、工事の掘削深度によっては、慎重な対応が必要である。また、二次的堆積によるものではあるが、江戸・明治時代の陶磁器片が出土する地点もあることから、今後の工事に際しても引き続き立会・試掘調査が必要である。

４－55　鎌田川河川改修事業に伴う立会調査

所　在　地　中央市大田和地内
遺　跡　名　堤防遺跡推定地
調査期間　2011年９月15日
調査面積　約200㎡（調査対象面積約200㎡）
担　当　者　山本茂樹・保坂和博



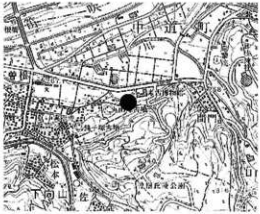
立会調査　位置図

本地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である堤防遺跡推定地の範囲に当たることから、2011年６月10日に実施した中北建設事務所河川砂防管理課、工事請負業者、学術文化財課、埋蔵文化財センターによる事前協議に基づき、遺存する堤防に掘削が及ぶ前に現状の平面及びエレベーションの測量（50cmコンタ）を実施した。

調査の結果、ＪＲ身延線今川橋梁の脇に南北方向に延びる形で長さ約17.5m、幅約6.0m、高さ約1.7mの規模で「堤体部」が遺存することが確認された。また、今後「堤体部」を掘削する際には改めて立会調査を行い、断面観察により堤体構造を記録することとした。なお、2016～2017年度に施工する鎌田川及び東花輪川の河川敷工事に着手する際にも立会調査を実施することとした。

４－56　曽根丘陵公園内市道水道管漏水修理事業に伴う立会調査

所　在　地　甲府市下曽根町曽根丘陵公園内
遺　跡　名　岩清水遺跡
調査期間　2011年４月27日
調査面積　約4㎡（調査対象面積約４㎡）
担　当　者　依田幸浩・青木真一



立会調査　位置図

本調査は、曽根丘陵公園内市道における水道管の漏水修理工事に伴う立会調査である。工事地点が周知の遺跡である岩清水遺跡の範囲内にあたることから立会調査を実施した。

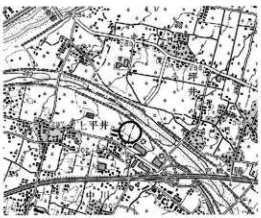
工事は既設水道管の漏水箇所を修理するもので、水道管を露出させるために、重機で地表下約1.5mまで掘削した。付近には地中電線等が埋設されるなど、既掘部分であることから、遺構・遺物は確認されなかった。

また、水道管の位置が特定できなかったため、地表面において湧水が見られた道路の北側部分でも掘削を行っている。この地点においては、地表下0.7mまでは、採石や黒褐色粘土による埋土を確認

し、地表下約0.7m～1.2mで地山と考えられる赤褐色粘土層を確認したが、遺構・遺物は確認されなかった。

4－57　森林公園金川の森再整備事業に伴う立会調査

所　在　地　笛吹市石和町大字坪井地内
遺　跡　名　宮の上遺跡
調査期間　2011年12月13日
調査面積　約30㎡（調査対象面積約150㎡）
担　当　者　保坂和博



立会調査　位置図

本事業は、森林公園金川の森再整備事業に伴う昆虫遊具を設置する工事である。この地点は、周知の埋蔵文化財包蔵地である宮の上遺跡の範囲内に当たることから、2010年度の県有林課と学術文化財課との事前協議に基づき、立会調査を実施した。遊具の設置工事では、12箇所（主に約１ｍ×１ｍ）程で基礎の掘削深度が現地表下約0.8mに及ぶため、掘削時に断面と底面の観察を行った。各地点における土層堆積状況は、基本的に同様であり、１層（褐色砂質土層）以下、自然堆積層（河川堆積層）となり、２層（砂礫層）、３層（暗褐色砂質土層）、４層（褐色砂質層）の層順が確認された。

今回の立会調査では、遺構・遺物は全く確認できず、遺跡はないと考えられたため、工事を進めても差し支えない旨を報告した。

第Ⅲ章　県内の概況

1　届出件数と内容

平成19年度より文化財保護法施行令第５条により県教育委員会が行うこととされている文化財保護法第93条の指示及び第94条の勧告に係る権限の一部を富士吉田市を除く11市に移譲し、平成20年度には富士吉田市へ、平成22年度には身延町および富士河口湖町へ権限を移譲したことにより、県下全14市町へ文化財保護法第93条・第94条に係る権限の一部を移譲した。権限移譲を行ったのは指示・勧告のうち工事立会、慎重工事などの軽微なもので「発掘調査」や「試掘・確認調査」の指示・勧告は現行どおり県教育委員会にて行う。権限移譲にあたって、埋蔵文化財の専門知識と客観的かつ合理的な基準が必要となることから埋蔵文化財専門職員が設置されている市を対象とし、山梨県教育委員会の事務処理の特例に関する条例の一部を改正する条例により実施した。よって届出件数について、権限移譲した分は県への届出件数が減少している。

平成23年度、県内の埋蔵文化財調査による届出件数については、法92条：２（８）件、法93条：139（162）件、法94条：32（33）件、法96条法０（０）件、法97条：８（７）件、法98条：０（０）件、法99条：187（204）件である。届出の総件数は368（414）件であり、前年度と比較すると、その件数は46件の減少となっている。

※（　）内数字は前年度。過去20年間の件数の変遷は84頁の表のとおり。

2　発掘調査

平成23年度に実施された県内の発掘調査件数は、84頁の表のとおり試掘調査を含めて192（213）件（発掘調査学術調査等含む）となっている。その内訳は、県教委による調査が33（24）件、市町村教委による調査が157（181）件、民間調査組織による調査が２(８)件である。発掘調査の原因は、道路29（18）件、鉄道１（５）件、河川１（０）件、学校建設８（４）件、集合住宅６（９）件、個人住宅72（67）件、工場２（２）件、店舗９（３）件、個人住宅兼工場又は店舗１（０）件、その他建物13（35）件、宅地造成11（26）件、土地区画整理２（２）、公園造成１（１）、ガス・電気・電話・水道４（３）件、農業基盤整備事業６（11）件、農業基盤整備事業以外の農業関係事業　１（１）件、土砂採取０（１）件、その他開発11（10）件といった緊急調査と、学術調査５（８）件、保存目的の範囲確認３（７）件、遺跡整備４（３）件があった。緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業では道路などが目立ち、民間開発においては個人住宅建設に大幅な増加傾向がみられる。

※（　）内数字は前年度。

3　指定有形文化財（考古資料）及び指定史跡

平成23年度は、県指定有形文化財（考古資料）として甲府城跡出土遺物が指定されている。宝篋印塔２、石仏11、石臼４の石製品と釘隠、貨幣また輪宝６等の金属製品、木製の狭間３、合計32点になる。

本県には13件の国指定史跡、28件の県指定史跡がある。これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有地化や保存整備事業が進められている。国指定史跡では武田氏館跡（甲府市）、新府城跡（韮崎市）、甲斐国分寺跡（笛吹市）の整備のための調査が行われ、今後の整備の方向性を定める成果が得られている。県指定史跡では甲府城跡（甲府市）の石垣修繕工事と昨年度から始まった鉄門復元整備、逸方屋敷（山梨市）では整備のための調査が行われ、その成果をもとに整備工事が行われた。

4　発掘調査の成果と保存整備事業

平成23年度に実施された県内の発掘調査件数は、試掘調査を含めて192（213）件（学術調査等含む）ある。大型公共事業では農業基盤整備事業や西関東連絡道路建設に伴う調査がある。それ以外の緊急調査では、地方公共団体が行う公共事業は道路などが目立つものの業種に大きな変動はみられない。一方、民間開発では、個人住宅や宅地造成などの住宅関係の開発の割合が増加傾向にある。その他、学術調査、保存目的の範囲確認調査、遺跡整備に伴う発掘調査がある。　※（　）内数字は前年度。

県内で行われた発掘調査（学術調査等含む）は、各地で成果があがっている。北杜市の諏訪原遺跡では縄文時代中期の環状集落を調査し、井戸尻式期の配石遺構を発見した。笛吹市の県指定史跡寺本廃寺跡では、参道脇の石列や講堂跡とみられる土層を確認し伽藍配置が見直されるきっかけとなった。

保存整備事業では、県営圃場整備事業に伴い発掘調査された北杜市・屋代氏館跡では近世初頭の武家屋敷地がほぼ全面的に検出され、歴史団体等から保存を求める要望がある。この館跡については、館を巡る堀部分を現地に埋設保存することとなっている。

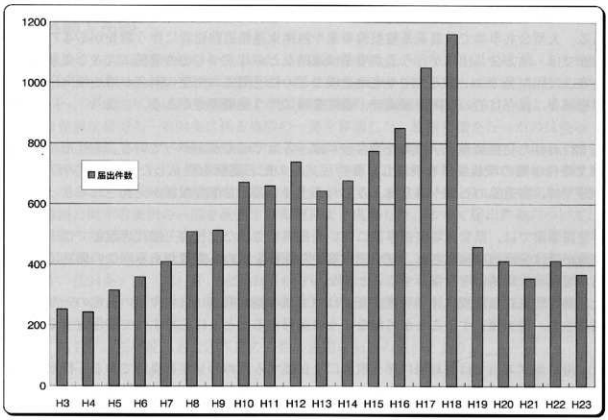
また、県庁防災新館建設に伴う発掘調査では甲府城の築城期（16世紀末）の石垣の一部が昨年度に続き発見され、将来復元することが可能なように記録するとともに石材すべてを保管する措置がとられた。

また、南アルプス市では徳島堰に伴う取水口を保護するためのV字形堤防である「枡形堤防」が発掘調査され、強固な治水施設であることが判明した。この遺跡については史跡指定も視野に入れた保護・活用策の検討が始まっている。

5　発掘調査体制

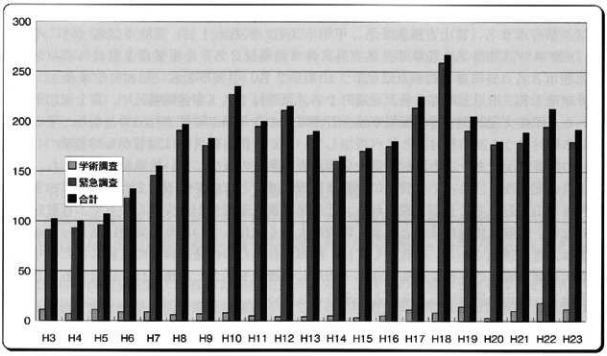
埋蔵文化財専門職員について、県では学術文化財課４名、埋蔵文化財センター22名（うち教員派遣交流３名、非常勤嘱託６名）、博物館２名、考古博物館３名（外に非常勤嘱託２名）である。市町村では、甲府市６名、富士吉田市２名、甲州市３名、大月市１名、韮崎市２名（外に非常勤嘱託１名）、南アルプス市３名、笛吹市４名（外に非常勤嘱託２名）、甲斐市１名（外に非常勤嘱託１名）、北杜市３名（外に非常勤嘱託２名）、山梨市２名、中央市１名（昭和町を兼務）、都留市１名、上野原市１名、市川三郷町１名、身延町１名、忍野村１名（非常勤嘱託）、富士河口湖町１名となっている。埋蔵文化財担当者の配置率は、27市町村のうち18市町村で約66％となり、平成15年度の61％（64市町村のうち39市町村）と比べ増加しているが、担当職員数は54名から13名減の41名（嘱託等含む）の配置状況であり、市町村合併や発掘調査事業量の減少に伴い組織編成が行われ、埋蔵文化財専門職員の配置換えによって実質的に配置職員数の減少となっている。また専門職員の退職がここ数年で大きな山を迎えることが予想される。近年発掘調査事業量が減少する一方で、行財政改革が進められるなど、埋蔵文化財行政をとりまく環境は大きく変化しつつあり、実情に見合った適切な専門職員配置は大きな課題である。行政としては、記録保存のための発掘調査の実施にとどまらず、これまでの膨大な調査成果の蓄積を適切に保存・活用し、歴史を活かした地域作りに資するなど、多様な業務を実施し、国民の期待に応えることが求められている。

届出件数の推移 ※H19年度以降は各市町内での処理件数は含まない。



年度	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
届出件数	253	243	315	359	410	508	513	671	659	738	642	677	775	850	1050	1161	458	412	355	414	368

発掘調査件数の推移



年度	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
学術調査	11	7	11	9	9	6	7	8	5	4	4	5	3	5	11	8	14	3	10	18	12
緊急調査	91	93	96	123	146	191	176	227	195	211	186	160	170	175	214	259	191	177	179	195	180
合計	102	100	107	132	155	197	183	235	200	215	190	165	173	180	225	267	205	180	189	213	192

２０１１年度　県内発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	面積(㎡)	遺跡の種類	遺跡の年代	調査目的	調査主体	調査期間
1	柚木遺跡	笛吹市八代町竹居地内地内	16.00	散布地	縄文・平安・近世	鉄道	山梨県教育委員会	2011/4/5 ～ 4/6
2	居久保遺跡	北杜市長坂町中丸地内	394.52	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/4/4 ～ 4/22
3	天神遺跡	南アルプス市榎原地内	24.67	散布地	平安・中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	2011.4.14
4	下横屋遺跡	韮崎市藤井町下條地内	219.34	集落跡	弥生・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/4/12 ～ 4/13
5	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目地内	1.60	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.4.6
6	武田城下町遺跡	甲府市天神町地内	6.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.4.19
7	築地遺跡	韮崎市大草町上條東割築地地内	964.00	集落跡	縄文・平安	宅地造成	韮崎市教育委員会	2011/4/20 ～ 4/22
8	土尻遺跡	甲府市下小河原町地内	65.00	散布地	平安・中世	宅地造成	甲府市教育委員会	2011/4/19 ～ 4/28
9	緑ヶ丘一丁目遺跡	甲府市緑が丘二丁目地内	36.00	散布地	古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/4/13 ～ 5/6
10	宇賀屋敷遺跡	甲州市塩山下於曽地内	1,650.00	集落跡	奈良・平安・中世	個人住宅	甲州市教育委員会	2011/4/12 ～ 6/10
11	馬場遺跡	笛吹市境川町寺尾地内	30.00	集落跡	縄文～古墳	道路	笛吹市教育委員会	2011/4/25 ～ 8/15
12	包蔵地外	山梨市七日市場地内	57.50			宅地造成	山梨市教育委員会	2011/4/27 ～ 4/28
13	包蔵地外	山梨市北地内	1,350.00			道路	山梨県教育委員会	2011/4/25 ～ 4/27
14	三ノ割遺跡	都留市田原二丁目地内	30.00	散布地	縄文・奈良～中世	集合住宅	都留市教育委員会	2011/4/26 ～ 4/29
15	長田１号墳	笛吹市御坂町下黒駒地内	400.00	古墳	古墳	その他開発(駐車場)	笛吹市教育委員会	2011/5/6 ～ 6/20
16	後原遺跡	北杜市高根町小池地内	291.00	散布地	縄文・古墳・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/4/26 ～ 4/27
17	柳田遺跡	大月市駒橋一丁目地内	4.00	散布地	縄文	個人住宅	大月市教育委員会	2011/4/26 ～ 4/28
18	甲府城下町遺跡	甲府市中央二丁目地内	30.00	城下町	中世・近世	道路	山梨県教育委員会	2011/3/19 ～ 3/20
19	中田中條宿	韮崎市中田町中條地内	523.17	集落跡	中世・近世	宅地造成	韮崎市教育委員会	2011/4/12 ～ 4/13
20	上コブケ遺跡	山梨市北、南地内	13,705.0	集落跡	縄文・平安	道路	山梨県教育委員会	2011/3/18 ～ 10/31
21	宮本遺跡	韮崎市龍岡町下條南割地内	887.00	集落跡	平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/5/16 ～ 5/20
22	坂井南大原遺跡	韮崎市藤井町北下條地内	330.81	集落跡	弥生	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/5/16 ～ 5/20
23	武田城下町遺跡	甲府市天神町地内	8.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.5.19
24	甲ッ原遺跡	北杜市大泉町西井出地内	363.00	集落跡	縄文・平安	その他の開発(抜根及び整地)	北杜市教育委員会	2011/4/25 ～ 5/31
25	城上第３遺跡	北杜市大泉町谷戸地内	496.00	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/5/9 ～ 5/13

26	熊角西遺跡	北杜市長坂町長坂下条地内	626.00	集落跡	縄文・古墳・平安・中世・近現代	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/4/12 ～ 4/15
27	源道原遺跡	北杜市明野町上神取地内	73,173.00	集落跡	縄文・平安	農業基盤整備事業(農道含む)	北杜市教育委員会	2011/5/9 ～ 11/9
28	大々神十三塚	北杜市長坂町夏秋地内	852.00	その他の墓	中世	ｔ以外の農業関係事業	北杜市教育委員会	2011/5/24 ～ 6/3
29	甲府城下町遺跡	甲府市中央四丁目地内	8.00	城下町	近世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/5/24 ～ 5/26
30	包蔵地外	南巨摩郡南部町福士地内	165.00			道路	山梨県教育委員会	2011/5/23 ～ 5/26
31	三ノ郷遺跡	都留市上谷五丁目地内	4,667.00	集落跡	平安	学校建設	山梨県教育委員会	2011/5/23 ～ 5/27
32	包蔵地外	南巨摩郡南部町佐島地内	900.00			道路	山梨県教育委員会	2011/6/1 ～ 6/10
33	笑通遺跡	都留市井倉地内	756.00	集落跡	縄文・古墳	道路	山梨県教育委員会	2011/5/25 ～ 8/31
34	逆八幡神社社家坊中群	山梨市北地内	1.50	社寺跡	近世	ガス・電気・電話・水道	山梨市教育委員会	2011.6.3
35	一の坪遺跡	西八代郡市川三郷町岩間地内	325.00	城館跡・社寺跡	中世	道路	山梨県教育委員会	2011/6/6 ～ 6/17
36	包蔵地外(行者平)	笛吹市御坂町上黒駒御坂山地内	40.00			学術研究(山梨県内市町村埋蔵文化財調査)	山梨県教育委員会	2011/6/8 ～ 6/30
37	包蔵地外	山梨市万力地内	100.00			道路	山梨県教育委員会	2011/6/13 ～ 6/15
38	藤代B遺跡	北杜市高根町蔵原地内	500.26	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/6/9 ～ 6/10
39	榎田遺跡	韮崎市藤井町北下條地内	7.00	集落跡	縄文～古墳	ガス・電気・電話・水道	韮崎市教育委員会	2011.5.31
40	善光寺遺跡	甲府市千塚一丁目地内	22.39	散布地	弥生・古墳	宅地造成	甲府市教育委員会	2011/6/8 ～ 6/20
41	朝気遺跡	甲府市朝気三丁目地内	20.00	集落跡	縄文・古墳～平安	店舗	甲府市教育委員会	2011.6.15
42	御所遺跡	北杜市大泉町谷戸地内	84.46	集落跡	縄文・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/5/18 ～ 5/25
43	川田窯跡	甲府市川田町地内	33.00	生産遺跡	奈良	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/6/13 ～ 6/30
44	常葉川堤防遺跡	南巨摩郡身延町波高島地内	30.00	その他の遺跡(堤防)	近世・近現代	道路	山梨県教育委員会	2011/6/22 ～ 6/28
45	東峰A遺跡・東峰B遺跡	甲斐市西澗沢地内	3,500.00	集落跡	縄文	その他開発	山梨県教育委員会	2011/6/27 ～ 7/22
46	行者屋敷	南都留郡鳴沢村地内	13.00	城館跡	中世・近世	学術研究(山梨県内市町村埋蔵文化財分布調査)	山梨県教育委員会	2011/6/21 ～ 6/30
47	甲府城下町遺跡	甲府市朝日一丁目地内	14.00	城下町	中世・近世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.5.13
48	三ノ郷遺跡	都留市上谷五丁目地内	3,700.00	集落跡	平安	学校建設	山梨県教育委員会	2011/6/29 ～ 12/27
49	包蔵地外	南都留郡富士河口湖町河口地内	25.00			学術研究(山梨県内市町村埋蔵文化財分布調査)	山梨県教育委員会	2011/6/28 ～ 6/30
50	末法遺跡	甲斐市大下条地内	1,156.00	集落跡	縄文・古墳	集合住宅	甲斐市教育委員会	2011/5/23 ～ 6/30
51	原平B遺跡	大月市大月町真木地内	2.00	集落跡	縄文・弥生・奈良～近世	店舗	大月市教育委員会	2011.6.24
52	竹ノ沢遺跡	南巨摩郡南部町福士地内	350.00	散布地	中世・近世	道路	山梨県教育委員会	2011/7/4 ～ 7/8
53	宮ノ前遺跡	北杜市白州町上教来石地内	931.00	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/6/6 ～ 6/10

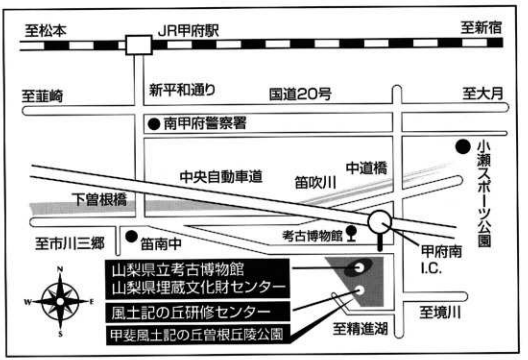
54	岩窪遺跡	北杜市小淵沢町地内	530.22	集落跡	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/6/17～6/17
55	美通遺跡	都留市井倉地内	295.41	集落跡	縄文	個人住宅	都留市教育委員会	2011.7.1
56	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目地内	730.00	城下町	近世	学校建設	甲府市教育委員会	2011/6/20～8/31
57	塩部遺跡	甲府市塩部一丁目地内	200.00	集落跡	弥生～平安	学校建設	甲府市教育委員会	2011/6/20～7/20
58	前田遺跡	南巨摩郡南部町福士地内	241.00	散布地	縄文	道路	山梨県教育委員会	2011/ 7/13～7/19
59	御勅使川第二谷堪堰遺跡	韮崎市龍岡町下条南割地内	50.00	その他の遺跡(堤跡跡)	中世・近世	河川	山梨県教育委員会	2011/ 7/12～7/15
60	新井A遺跡	北杜市高根町蔵原地内	583.65	散布地	平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/6/23～6/30
61	御所遺跡	北杜市高根町五町田地内	478.84	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/6/13～6/24
62	肥道内山遺跡	北杜市須玉町若神子地内	71.35	散布地	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/7/5～7/8
63	中久保B遺跡	北杜市高根町上黒澤地内	1,060.71	散布地	縄文・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/6/27～6/29
64	多屋前遺跡	北杜市須玉町大豆生田地内	68.30	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/5/5～5/13
65	御所遺跡	北杜市高根町五町田地内	731.00	集落跡	平安	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/7/5～7/8
66	包蔵地外	西八代郡市川三郷町岩間地内	20.00			道路	山梨県教育委員会	2011/7/25～7/29
67	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目地内	40.00	城下町	近世	その他遺物(甲府地方検察庁)	山梨県教育委員会	2011/7/14～7/25
68	夏狩遺跡	韮崎市穂坂町宮久保地内	422.57	散布地	縄文	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/6/22～7/22
69	甲府城下町遺跡	甲府市丸の内二丁目地内	220.00	城下町	近世	土地区画整理	甲府市教育委員会	2011/7/11～8/30
70	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目地内	640.00	城下町	近世	その他遺物(甲府地方検察庁)	山梨県教育委員会	2011/7/25～7/29
71	向原遺跡	北杜市小淵沢町下笹尾地内	89.81	散布地	縄文・弥生	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/7/25～7/27
72	西原遺跡	北杜市高根町村山西割地内	691.00	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/7/7～7/14
73	吉田北屋遺跡	南アルプス市吉田地内	954.00	散布地	縄文	集合住宅	南アルプス市教育委員会	2011.7.21
74	吉沢B遺跡	甲府市平瀬町地内	3.50	散布地	縄文～平安	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/7/22～8/5
75	包蔵地外	南巨摩郡身延町上八木沢地内	30.00			道路	山梨県教育委員会	2011/8/3～8/10
76	坂ノ上総神遺跡・百々・上八田遺跡	南アルプス市徳永、上八田地内	1,844.00	散布地・集落跡・散布地	奈良～中世	学校建設	南アルプス市教育委員会	2011/5/10～8/31
77	竹字I遺跡	北杜市白州町白須地内	1,003.00	散布地	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/7/21～7/28
78	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目地内	240.00	城下町	近世	その他遺物(甲府検察庁庁舎建替え)	山梨県教育委員会	2011/8/10～8/11
79	大林南遺跡	山梨市上栗原地内	30.00	散布地	平安	農業基盤整備事業(農道含む)	山梨市教育委員会	2011/6/23～8/3
80	町屋遺跡・米倉B条里	笛吹市八代町米倉地内	40.00	集落跡・その他の遺跡(条里)	古墳～近世	道路	笛吹市教育委員会	2011/8/4～8/19
81	包蔵地外	南アルプス市古田地内	7.10			宅地造成	南アルプス市教育委員会	2011.8.5

82	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目地内	75.00	城館跡	中世・近世	その他開発(庁舎建設)	山梨県教育委員会	2011/8/15 ～ 8/26
83	音羽遺跡	甲府市音羽町地内	4.00	散布地	弥生・古墳	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.8.12
84	明石西河原遺跡	甲府市上町地内	15.00	散布地	平安	その他の開発(住宅展示場)	甲府市教育委員会	2011.8.12
85	上中丸遺跡	富士吉田市小明見地内	619.00	集落跡	縄文・弥生・平安	道路	富士吉田市教育委員会	2011/8/15 ～ 11/30
86	狐原遺跡	笛吹市石和町中川地内	6.00	集落跡	平安	学校建設	笛吹市教育委員会	2011.8.29
87	西街道小森遺跡	南アルプス市飯野地内	660.00	集落跡	平安	道路	南アルプス市教育委員会	2011/7/22 ～ 9/22
88	北川遺跡	笛吹市御坂町下の原地内	200.00	散布地	平安	その他建物(配水場)	笛吹市教育委員会	2011/8/24 ～ 9/7
89	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目地内	170.00	城下町	中世・近世	その他建物(甲府地方検察庁)	山梨県教育委員会	2011/9/1 ～ 9/30
90	坂ノ上雄神遺跡	南アルプス市徳永地内	487.14	散布地	奈良・平安・中世	学校建設	南アルプス市教育委員会	2011/8/11 ～ 9/1
91	廻り田遺跡	山梨市北地内	2,096.00	集落跡	弥生・古墳	道路	山梨県教育委員会	2011/9/1 ～ 11/30
92	勝棚遺跡	山梨市北地内	8,897.00	集落跡	平安	道路	山梨県教育委員会	2011/9/1 ～ 12/28
93	甲府城跡	甲府市丸の内一丁目地内	50.00	城館跡	中世・近世	その他開発(庁舎建設)	山梨県教育委員会	2011/9/12 ～ 9/22
94	東入遺跡	北杜市高根町下黒澤地内	2.00	散布地	縄文・古墳	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/8/4 ～ 8/5
95	上条宮久保遺跡	北杜市長坂町長坂上条地内	303.00	集落跡	縄文・平安・近世	その他建物(賃貸建物)	北杜市教育委員会	2011/7/27 ～ 7/29
96	包蔵地外	西八代郡市川三郷町黒沢地内	20.00			道路	山梨県教育委員会	2011/9/14 ～ 9/16
97	大輪寺周辺遺跡	韮崎市旭町上條北割地内	595.32	集落跡	平安・中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/8/29 ～ 9/2
98	武田城下町遺跡	甲府市古府中町地内	4.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/9/12 ～ 9/13
99	武田晴信室三条氏墓	甲府市岩窪町地内	10.00	その他の墓	中世		甲府市教育委員会	2011/9/6 ～ 9/30
100	殿林遺跡	甲州市塩山上萩原地内	718.64	集落跡	縄文	その他建物(放課後デイサービス施設)	甲州市教育委員会	2011/9/9 ～ 9/12
101	包蔵地外	上野原市上野原地内	50.00			その他開発(駐車場)	上野原市教育委員会	2011.9.16
102	滝沢遺跡	南都留郡富士河口湖町河口地内	738.00	集落跡	縄文～平安	道路	山梨県教育委員会	2011/10/4 ～ 12/9
103	西塩沢遺跡	南巨摩郡身延町身延地内	2.50	散布地	縄文	個人住宅	身延町教育委員会	2011.9.29
104	飯米場遺跡	韮崎市穂坂町宮久保地内	255.33	集落跡	縄文	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/9/30 ～ 10/7
105	藤塚遺跡	南アルプス市小笠原地内	10.65	散布地	近世・近現代	集合住宅	南アルプス市教育委員会	2011.9.28
106	新居道下遺跡	南アルプス市十日市場地内	5.00	散布地	弥生～中世	店舗	南アルプス市教育委員会	2011.10.1
107	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目地内	6.50	城下町	中世・近世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.10.3
108	包蔵地外	南巨摩郡身延町身延地内	113.85			道路	身延町教育委員会	2011/10/3 ～ 10/4
109	宮後遺跡	山梨市下栗原地内	50.00	散布地	平安	宅地造成	山梨市教育委員会	2011/10/3 ～ 10/5

110	大鹿古墳	甲斐市島上条地内	2,704.77	古墳	古墳	その他建物(福祉施設)	甲斐市教育委員会	2011/9/7 ～ 10/14
111	山中氏屋敷	南都留郡山中湖村山中地内	11.90	城館跡	中世	店舗	山中湖村教育委員会	2011.10.7
112	かすみ堤	中巨摩郡昭和町飯喰地内	200.00	その他の遺跡(堤防)	近世・近現代	道路	昭和町教育委員会	2011/9/17 ～ 10/31
113	寺所屋敷	北杜市大泉町西井出地内	855.33	城館跡	中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/10/5 ～ 10/7
114	成岡遺跡	北杜市長坂町大八田地内	761.33	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2011/8/24 ～ 8/26
115	甲府城下町遺跡	甲府市中央二丁目地内	90.00	城下町	古墳・近世・近現代	道路	山梨県教育委員会	2011/10/14 ～ 11/11
116	大林遺跡	北杜市長坂町長坂上条地内	230.00	集落跡	旧石器・縄文・平安・近世	店舗	北杜市教育委員会	2011/10/17 ～ 10/21
117	日下部遺跡	山梨市小原東地内	10.00	集落跡	縄文・奈良・平安	その他建物(学童クラブ等)	山梨市教育委員会	2011.10.21
118	宮田遺跡・馬込遺跡	笛吹市一宮町南野呂地内	30.00	散布地・集落跡	縄文・古墳～中世	道路	笛吹市教育委員会	2011/10/12 ～ 10/19
119	武田城下町遺跡	甲府市大手二丁目地内	8.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/11/1 ～ 11/2
120	武田城下町遺跡	甲府市武田二丁目地内	4.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.10.28
121	武田城下町遺跡	甲府市下積翠寺地内	4.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.10.28
122	武田城下町遺跡	甲府市武田四丁目地内	20.00	城下町	中世	学校建設	甲府市教育委員会	2011.11.1
123	梅平木田遺跡	南巨摩郡身延町梅平地内	2.55	集落跡	平安・中世	その他建物(防火水槽)	身延町教育委員会	2011/11/1 ～ 11/4
124	百々・上八田遺跡	南アルプス市百々地内	4.03	散布地	奈良～中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	2011.11.2
125	包蔵地外	南アルプス市西野地内	15.55			集合住宅	南アルプス市教育委員会	2011.11.10
126	百々・上八田遺跡	南アルプス市上八田地内	7.55	散布地	奈良～中世	個人住宅	南アルプス市教育委員会	2011/10/19 ～ 10/19
127	包蔵地外	南アルプス市下今諏訪地内	19.50			宅地造成	南アルプス市教育委員会	2011.11.17
128	若宮前遺跡	甲府市羽黒町地内	16.80	散布地	平安	その他建物(公衆浴場)	甲府市教育委員会	2011/11/16 ～ 11/30
129	堀田遺跡	笛吹市八代町高家地内	10.00	散布地	縄文・古墳～平安	農業基盤整備事業	笛吹市教育委員会	2011.11.21
130	包蔵地外	南アルプス市小笠原地内	26.80			その他建物(武道場)	南アルプス市教育委員会	2011.10.24
131	石水遺跡	韮崎市穴山町地内	191.36	散布地	縄文・奈良・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/11/8 ～ 11/11
132	下横屋遺跡	韮崎市藤井町北下條地内	5,459.26	集落跡	古墳～平安	店舗	韮崎市教育委員会	2011/11/7 ～ 1 1 /1 1
133	北堂地・燕川遺跡	韮崎市円野町上円井地内	592.00	集落跡	縄文・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/10/6 ～ 10/13
134	穴山氏館跡	韮崎市穴山町地内	43,501.0	城館跡	中世・近世	その他開発(山林再生)	韮崎市教育委員会	2011/10/3 ～ 11/4
135	上ノ切第１遺跡	南アルプス市鏡中條地内	403.01	散布地	古墳	個人住宅	南アルプス市教育委員会	2011.11.14
136	包蔵地外	南アルプス市鮎沢地内	832.00			集合住宅	南アルプス市教育委員会	2011.11.15
137	武田城下町遺跡	甲府市大手一丁目地内	5.00	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011.10.28

138	ロタコ	南アルプス市有野地内	100.00	その他遺跡(飛行場)	近現代	農業基盤整備(農道含む)	南アルプス市教育委員会	2011/11/24 ～ 12/9
139	小倉遺跡	都留市四日市場地内	60.00	散布地	縄文	店舗	都留市教育委員会	2011/12/1 ～ 3/10
140	石水遺跡	韮崎市穴山町地内	191.36	散布地	縄文・奈良・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/11/14 ～ 11/30
141	中田中条遺跡	韮崎市中田町中条地内	267.11	集落跡	中世・近世	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/12/2 ～ 12/9
142	武田城下町遺跡	甲府市西田町地内	10.80	城下町	中世	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/11/30 ～ 12/9
143	前御勅使川堤防址	南アルプス市野牛島地内	102.00	その他遺跡(堤防)	近世・近現代	店舗	南アルプス市教育委員会	2011/11/18 ～ 11/25
144	銚子原遺跡	笛吹市八代町岡地内	100.00	集落跡	旧石器・縄文・中世	公園造成	笛吹市教育委員会	2011/11/28 ～ 12/15
145	後田堰取水口堤防跡	南アルプス市有野北新田地内	60.00	その他遺跡(堤防)	近世・近現代	保存目的の範囲確認	南アルプス市教育委員会	2011/11/14 ～ 1/27
146	西川遺跡	南アルプス市大師地内	17.50	散布地	弥生・古墳・中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	2011.12.12
147	宮ノ前第３遺跡	韮崎市藤井町駒井地内	1,551.00	集落跡	縄文・奈良・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/12/13 ～ 12/21
148	勝棚遺跡	山梨市北地内	1,650.00	集落跡	縄文・平安	道路	山梨県教育委員会	2011/9/8 ～ 2012/1/27
149	能見城跡	韮崎市穴山町夏目地内	712.63	城館跡	縄文・平安～近世	個人住宅	韮崎市教育委員会	2011/12/9 ～ 12/16
150	金の尾遺跡	甲斐市大下条地内	6,800.00	集落跡	縄文・弥生・古墳	道路	甲斐市教育委員会	2011/10/1 ～ 2012/3/30
151	江原遺跡・神ノ木第２遺跡	韮崎市穂坂町三之倉地内	100.00	集落跡	縄文～平安	農業基盤整備事業(農道含む)	韮崎市教育委員会	2011/12/2 ～ 12/9
152	山中氏屋敷	南都留郡山中湖村山中地内	1.69	城館跡	中世	ガス・電気・水道・電話	山中湖村教育委員会	2011.12.14
153	甲府城下町遺跡	甲府市北口二丁目地内	24.00	城下町	近世	道路	甲府市教育委員会	2012/1/6 ～ 1/20
154	大田１遺跡	大月市七保町葛野地内	431.00	散布地	縄文・平安	ガス・電気・水道・電話	大月市教育委員会	2011/4/26 ～ 4/28
155	滝沢川堤防左岸２遺跡	南アルプス市小笠原地内	8.40	その他遺跡(堤防)	近世	店舗	南アルプス市教育委員会	2012.1.11
156	加賀美条里遺構	南アルプス市藤田地内	27.00	その他遺跡(条里)	古墳・中世	宅地造成	南アルプス市教育委員会	2012.1.27
157	駒門遺跡	上野原市鶴島地内	252.00	散布地	縄文・弥生	農業基盤整備事業(農道含む)	上野原市教育委員会	2012.1.23
158	下原遺跡	上野原市秋山地内	2,000.00	散布地	縄文・弥生・平安	農業基盤整備事業(農道含む)	上野原市教育委員会	2012.1.23
159	丹後(鍛冶)屋敷	大月市駒橋一丁目地内	458.96	城館跡	中世	個人住宅	大月市教育委員会	2012.2.15
160	甲府城下町遺跡	甲府市中央一丁目地内	12.30	城下町	近世	個人住宅兼工場または店舗	甲府市教育委員会	2012/2/13 ～ 2/24
161	金沢天神遺跡・大神山古墳	甲府市下向山町地内	200.00	散布地・古墳	縄文・弥生・古墳	保存目的の範囲確認	甲府市教育委員会	2012/2/6 ～ 3/20
162	寺平遺跡	南巨摩郡身延町身延地内	4.80	散布地	縄文・平安	その他開発(ドクターヘリ離着陸場)	身延町教育委員会	2012.2.20
163	宿尻遺跡	韮崎市穴山町地内	400.01	集落跡	縄文～平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2012/1/20 ～ 2/29
164	英通遺跡	都留市井倉地内	225.00	集落跡	縄文	土地区画整理	都留市教育委員会	2012/2/28 ～ 3/9
165	迅山遺跡	山梨市牧丘町西保下地内	15.00	散布地	縄文・奈良・平安	個人住宅	山梨市教育委員会	2012/2/21 ～ 2/24

166	不動ノ木遺跡	甲斐市中下条地内	1,601.00	集落跡	縄文・古墳	保存目的の範囲確認調査	甲斐市教育委員会	2011/2/27 ～ 3/16
167	東光寺遺跡	甲府市東光寺一丁目地内	5.06	散布地	平安	個人住宅	甲府市教育委員会	2011/3/1 ～ 3/16
168	甲府城下町遺跡	甲府市中央二丁目地内	280.00	城下町	近世	その他建物(集会施設)	甲府市教育委員会	2012/3/5 ～ 3/30
169	原平B遺跡	大月市大月町良木地内	573.00	集落跡	縄文・弥生・奈良～近現代	工場	大月市教育委員会	2012/3/6 ～ 3/9
170	堰口遺跡	北杜市白州町白須堰口地内	7,523.00	集落跡	縄文・平安	農業基盤整備事業(農道含む)	北杜市教育委員会	2012/3/7 ～ 6/30
171	観音堂B遺跡	北杜市須玉町若神子新町地内	206.09	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/2/22 ～ 2/29
172	長原E遺跡	北杜市高根町浅川地内	740.10	散布地	平安・近世	道路	北杜市教育委員会	2011/11/9 ～ 11/16
173	尚野遺跡	北杜市小淵沢町地内	837.90	散布地	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/1/30 ～ 2/3
174	道下遺跡	北杜市須玉町大蔵地内	424.40	集落跡	縄文・平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/2/8 ～ 2/17
175	釜無川堤防址群	南アルプス市野牛島地内	8.80	その他遺跡(堤防)	中世・近世	工場	南アルプス市教育委員会	2012.1.31
176	甲ツ遺跡	北杜市大泉町西井出字甲ツ地内	103.64	散布地	縄文・弥生・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/2/22 ～ 2/29
177	腰巻遺跡	北杜市須玉町藤田地内	305.28	集落跡	縄文・古墳・平安	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/3/22 ～ 3/30
178	岩窪遺跡	北杜市小淵沢町地内	489.00	その他(雑種地)	縄文	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/3/12 ～ 3/16
179	塔之越経塚	甲斐市下今井地内	20.00	その他遺跡(経塚推定地)	中世	学術研究	甲斐市教育委員会	2012/3/15 ～ 3/30
180	新井A遺跡	北杜市高根町蔦原字新井地内	313.80	散布地	平安・中世	個人住宅	北杜市教育委員会	2012/3/9 ～ 3/15
181	武田東畑	韮崎市神山町武田字東畑地内	595.28	城館跡	平安・中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	2012/1/16 ～ 5/25
182	中田小学校遺跡	韮崎市中田町中條地内	732.78	集落跡	奈良・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2012/12/27 ～ 3/20
183	鳥ノ小池南原遺跡	韮崎市藤板町宮久保字南原地内	542.03	散布地	縄文	個人住宅	韮崎市教育委員会	2012/3/1 ～ 7/15
184	長塚遺下遺跡	韮崎市龍岡町下條東割地内	255.63	集落跡	縄文・弥生	その他建物(農業倉庫)	韮崎市教育委員会	2012/3/1 ～ 7/16
185	武田北原遺跡	韮崎市神山町武田字下北原地内	455.39	集落跡	奈良・平安	個人住宅	韮崎市教育委員会	2012/1/27 ～ 2/10
186	小曽根第2遺跡	韮崎市旭町上條中割字小曽根地内	887.90	集落跡	平安・中世	個人住宅	韮崎市教育委員会	2012/3/15 ～ 3/15
187	包蔵地外	山梨市矢坪地内	400.00			その他開発(温泉)	山梨市教育委員会	2012/3/7 ～ 3/31
188	諏訪原遺跡	北杜市明野町上神取地内	100.00	集落跡	縄文・中世	学術研究	昭和女子大学人間文化学部歴史文化学科	2011/8/2 ～ 8/13
189	原無A遺跡	北杜市長坂町塚川地内	8,150.00	集落跡	縄文・弥生・平安	その他開発	特定非営利活動法人ネットワーク歴史と文化研究所	2011/9/9 ～ 10/28
190	甲斐国分寺跡	笛吹市一宮町国分地内	150.00	寺院跡	奈良・平安・中世	遺跡整備	笛吹市教育委員会	2011/6/8 ～ 2012/1/30
191	新府城跡	韮崎市中田町中条上野地内	300.00	城館跡	中世	遺跡整備	韮崎市教育委員会	2012/1/30 ～ 2012/4/30
192	連方屋敷	山梨県山梨市三ヶ所地内	15,426.00	城館跡	中世	遺跡整備	山梨市教育委員会	2011/12/28 ～ 2012/3/31



●路線バスご利用
甲府ー豊富（中道橋経由）考古博物館で下車
●高速バスのご利用（2時間）
新宿西口…南回り、甲府行（中道下車）徒歩5分
南甲府インター下車・徒歩10分

年　報　28

印刷日　2012年9月20日
発行日　2012年9月28日

発行所　山梨県埋蔵文化財センター
山梨県甲府市下曽根町923
TEL　055－266－3881・055－266－3016
FAX　055－266－3882
E-mail：maizou-bnk@pref.yamanashi.lg.jp

印刷所　港北出版印刷株式会社
山梨県甲府市高室町155